

Aichi Prefectural University

愛知県公立大学法人

愛知県立大学 地域連携研究シーズ集

2023



地域・産官学を結ぶ架け橋として

『愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.6』の 公開にあたって

2023年 9月

愛知県立大学地域連携センター長 奥田隆史

愛知県立大学は、第3期中期目標・中期計画策定における改革のビジョンに則り、グローバル化の課題に果敢に取り組む能力を備えた人材育成、各学部・研究科の専門領域における高度な研究への挑戦、およびその成果に基づく地域貢献・地域連携に向けて邁進しています。さらに、多様な専門分野を有する大学ならではの特色を生かし、各学部・研究科の専門領域を横断する学際的な研究や、産学公連携による受託・共同研究、国際戦略につながるようなプロジェクトも積極的に推進しています。

『愛知県立大学地域連携研究シーズ集』は、これら本学で日々創出されている研究シーズを、地域の方々や地元自治体、産業界の皆様にはわかりやすく紹介するものです。このたび、2023年度に新たに着任した教員の研究シーズを加え、全体を更新しました。

さて、これからの時代、新たな商品・サービスは皆様のアイデアから生まれるといっても過言ではありません。個別の教員の研究シーズに着目していただくだけでなく、シーズ集の新しい活用方法として、昨年度はセレンディビティ方式（シーズ集をランダムに見ていただき予期していないシーズに出会っていただく）、組み合わせ方式（複数教員のシーズを組み合わせることで皆様がシーズを新たに創出していただく）を紹介させていただきました。

さて、人生100年時代の今、生涯にわたる活躍が求められる社会になったことで、我々には、知識やスキルを持続的にアップデートしていく「リスキル」、「リカレント」と呼ばれる学び直しをすることが必要になってきました。本シーズ集は本学での「リスキル」、「リカレント」の機会を探っていただくことにもお使いいただけます。

『愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.6』を、皆様の共同研究や地域社会の課題解決、「リスキル」、「リカレント」のために、ぜひご活用ください。

- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.6(2023年度版) Web公開版
- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.5(2022年度版) Web公開版
- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.4(2021年度版) Web公開版
- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.3(2020年度版) Web公開版
- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.2(2019年度版) Web公開版
- ・愛知県立大学地域連携研究シーズ集Vol.1(2018年度版) 冊子版+Web公開版

教員紹介

教員紹介	フリガナ	テーマ	ページ
外国語学部			
榎本 洋	(エノモト ヒロシ)	チャールズ・ディケンズと民間伝承	6
梶原 克教	(カジハラ カツノリ)	現代文化の背景と可能性	
菊池 好行	(キクチ ヨシユキ)	19・20世紀の日英文化交流、科学技術史	7
熊谷 吉治	(クマガイ ヨシハル)	英語の情報構造と音韻構造	
久田 由佳子	(ヒサダ ユカコ)	アメリカ社会の諸問題に関わる歴史的事象	8
三原 穂	(ミハラ ミノル)	18世紀英文学	
森田 久司	(モリタ ヒサシ)	日本語から見た言語の普遍性の研究	9
奥田 泰広	(オクダ ヤスヒロ)	「英米特殊関係」と戦後アジア国際秩序	
瀧内 陽	(タキウチ ハル)	現代イギリス児童文学	10
日尾野 裕一	(ヒオノ ユウイチ)	近世・近代イギリスと大西洋世界	
水谷 謙太	(ミズタニ ケンタ)	形式意味論にもとづく法助動詞・焦点辞の研究	11
青木 耕平	(アオキ コウヘイ)	現代アメリカ文学・文化	
ブルノティ・ジョシュ	(ブルノティ・ジョシュ)	言語学習心理学と言語学習に関する不安軽減方法	12
佐野 直子	(サノ ナオコ)	消滅の危機に瀕する言語の活動	
中田 晋白	(ナカタ シンジ)	フランスの分権改革と都市自治体の市民参加政策	13
長沼 圭一	(ナガヌマ ケイイチ)	フランス語の冠詞の用法について	
岸本 聖子	(キシモト セイコ)	現代フランス語におけるモダリティ表現	14
白谷 望	(シラタニ ノゾミ)	モロッコを中心とした中東・北アフリカ政治研究	
奥野 良知	(オクノ ヨシトモ)	カタルーニャの独立問題とスペイン	15
竹中 克行	(タケナカ カツユキ)	地域の「らしさ」の可視化と共有—地理学からの試み	
谷口 智子	(タニグチ トモコ)	カナダ・アメリカ・中南米先住民の宗教・神話・儀礼	16
糸魚川 美樹	(イトイガワ ミキ)	地域社会にみる多言語化	
吉田 理加	(ヨシダ リカ)	「通訳」を介した(異文化)コミュニケーション	17
渡会 環	(ワタライ タマキ)	ブラジルおよび海外におけるブラジル人女性	
今野 元	(コンノ ハジメ)	ヨーロッパ国際政治史・ドイツ政治思想・日独関係史	18
人見 明宏	(ヒトミ アキヒロ)	初習外国語(ドイツ語)の教材開発	
池田 利昭	(イケダ トシアキ)	ドイツ中近世都市における暴力と暴力のコントロール	19
川尻 文彦	(カワジリ フミヒコ)	中国近代思想	
黄 東蘭	(コウ トウラン)	近代日本における中国史の通史的叙述	20
月田 尚美	(ツキダ ナオミ)	台湾の少数民族の言語セデック語の文法	
西野 真由	(ニシノ マユ)	アジアにおける農産物貿易と日本の食	21
袁 暁今	(エン ギョウキン)	三字名詞の日中対照研究	
張 文菁	(チョウ ブンセイ)	戦後台湾の文学史を通俗の視点から捉え直す	22
楊 明	(ヨウ メイ)	現代中国語文法、日中対照言語学、中国語教育	
秋田 貴美子	(アキタ キミコ)	文化、人間関係、ジェンダー研究	23
亀井 伸孝	(カメイ ノブタカ)	アフリカを中心とした異文化理解の研究と実践	
ポープ・エドガー・ライト	(ポープ・エドガー・ライト)	音楽におけるエキゾチズム	24
カールソン・アンドレア	(カールソン・アンドレア)	多様なコミュニティの子どもたちへのメンタルヘルス支援	
高阪 香津美	(コウサカ カツミ)	ポルトガル語を学んで、使って、役立てて	25
福岡 千珠	(フクオカ チズ)	アイルランドにおける文化ナショナリズム	
藤倉 哲郎	(フジクラ テツロウ)	高度経済成長下のベトナム農村の研究	26
山下 朋子	(ヤマシタ トモコ)	国際投資仲裁(企業・投資先外国政府間の仲裁)	
池田 周	(イケダ チカ)		27
石原 覚	(イシハラ サトル)		
阿南 東也	(アナミ ハルヤ)		
佐藤 雅哉	(サトウ マサヤ)		
小倉 悠輝	(オグラ ユウキ)		
野内 美子	(ヤナイ ハルコ)		
伊藤 滋夫	(イトウ シゲオ)		
原 潮巳	(ハラ シオミ)		
			28

教員紹介	フリガナ	テーマ	ページ
江澤 照美	(エザワ テルミ)		28
小池 康弘	(コイケ ヤスヒロ)		
田邊 まどか	(タナベ マドカ)		
櫻井 健	(サクライ タケシ)		
平井 守	(ヒライ マモル)		
山本 順子	(ヤマモト ジュンコ)		
杉原 周治	(スギハラ シュウジ)		
四ツ谷 亮子	(ヨツヤ リョウコ)		29
小座野 八光	(コザノ ヤコウ)		
東 弘子	(アズマ ヒロコ)		
木下 郁夫	(キノシタ イクオ)		
高橋 慶治	(タカハシ ヨシハル)		
半谷 史郎	(ハンヤ シロウ)		
矢野 順子	(ヤノ ジュンコ)		
山口 雅生	(ヤマグチ マサオ)		
日本文化学部			
伊藤 伸江	(イトウ ノブエ)	愛知県の文学	31
中根 千絵	(ナカネ チエ)	日本の説話文学	
福沢 将樹	(フクザワ マサキ)	談話論的物語論的品詞分類	32
宮崎 真素美	(ミヤザキ マスミ)	日本近現代詩に探る「不安」と「生」	
洲脇 武志	(スワキ タケシ)	漢文学、中国古典学、中国中世の学術	33
本橋 裕美	(モトハシ ヒロミ)	平安時代の皇女と王権の研究	
若松 伸哉	(ワカマツ シンヤ)	無頼派を中心とした昭和文学	34
上川 通夫	(カミカワ ミチオ)	愛知・東海地域における歴史文化遺産の探究	
川畑 博昭	(カワバタ ヒロアキ)	列島の外からとらえる日本の憲法の過去と現在	35
丸山 裕美子	(マルヤマ ユミコ)	日本の古代史	
クラーマー スベン	(クラーマー スベン)	日本近現代史、地方史研究、市町村合併史	36
柴田 陽一	(シバタ ヨウイチ)	学問と戦争・社会との関係、中国地誌	
内記 理	(ナイキ サトシ)	パキスタン・アフガニスタンの考古学	37
服部 亜由未	(ハットリ アユミ)	資源変動への地域の対応に関する研究	
井戸 聡	(イド サトシ)	地域社会・地域文化の社会学	38
樋口 浩造	(ヒグチ コウゾウ)		
教育福祉学部			
伊藤 稔明	(イトウ トシアキ)	明治期における小学校理科の誕生	39
内田 純一	(ウチダ ジュンイチ)	明治期の伝統的地場産業と実業教育機関の関係	
高橋 範行	(タカハシ ノリユキ)	音楽の創作を支える技能の獲得と発達	40
田村 佳子	(タムラ ケイコ)	EUおよび日本における成人教育の研究	
堀尾 良弘	(ホリオ ヨシヒロ)	非行少年の被害経験が心理特性と非行性に及ぼす影響	41
山本 理絵	(ヤマモト リエ)	子育て・保育・教育における地域での連携	
大貫 守	(オオヌキ マモル)	学校現場におけるカリキュラム・指導・評価方法の研究	42
葛西 耕介	(カサイ コウスケ)	学校管理職の職能開発、学校運営への父母参加	
瀬野 由衣	(セノ ユイ)	幼児期における自他の心の理解の発達	43
久我 アレキサンデル	(クガ アレキサンデル)	ペルーの学校体育におけるカリキュラム開発	
宇都宮 みのり	(ウツノミヤ ミノリ)	精神障害福祉史にみる受容と排除の論理構造	44
田川 佳代子	(タガワ カヨコ)	社会的ケアと高齢者ソーシャルワーク	
橋本 明	(ハシモト アキラ)	精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト	45
松宮 朝	(マツミヤ アシタ)	多文化共生、コミュニティ、地域福祉	
大賀 有記	(オオガ ユキ)	保健医療福祉領域における支援者支援	46
金 碩浩	(キム ソコ)	貧困・格差の動態分析、社会保障の政策評価	
森川 夏乃	(モリカワ ナツノ)	臨床心理学、家族心理学	47
慎 少帥	(シン ショウスイ)	高齢者の健康増進、ロコモ・フレイル・介護予防	

教員紹介

教員紹介	フリガナ	テーマ	ページ
高柳 瑞穂	(タカヤナギ ミズホ)	ドイツの障害児者家族の支援の歴史	48
稲嶋 修一郎	(イナシマ シュウイチロウ)		
久保田 貢	(クボタ ミツグ)		
藤原 智也	(フジワラ トモヤ)		49
三山 岳	(ミヤマ ガク)		
渡邊 眞依子	(ワタナベ マイコ)		
野田 博也	(ノダ ヒロヤ)		
山本 かほり	(ヤマモト カオリ)		
村田 一昭	(ムラタ カズアキ)		50
渡邊 かおり	(ワタナベ カオリ)		
看護学部			
大原 良子	(オオハラ リョウコ)	看護・助産学実習に関する研究	51
片岡 純	(カタオカ ジュン)	外来通院するがん患者のエンパワーメント	
片平 正人	(カタヒラ マサヒト)	自己免疫性甲状腺疾患とHLAの関連	52
神谷 摂子	(カミヤ セツコ)	育児支援に関する研究	
河邊 紅美	(カワベ クミ)	看護師の病院経営参画度尺度の開発	53
清水 宣明	(シミズ ノブアキ)	保育園・幼稚園の子どもたちの命を守る危機管理	
服部 淳子	(ハットリ ジュンコ)	子どもに対するプレパレーションの研究	54
深田 順子	(フカダ ジュンコ)	地域高齢者の摂食嚥下障害の早期発見・予防	
藤野 あゆみ	(フジノ アユミ)	高齢者ケア領域における倫理的課題	55
古田 加代子	(フルタ カヨコ)	高齢者の介護予防に関する研究	
箕浦 哲嗣	(ミノウラ テツジ)	ICTを用いた看護技術教育の効率化	56
柳澤 理子	(ヤナギサワ サトコ)	健診データによる若年性糖尿病予備群の要因分析	
山田 浩雅	(ヤマダ ヒロマサ)	思春期のメンタルヘルスリテラシーに関する研究	57
青柳 美樹	(アオヤギ ミキ)	海外赴任者の女性配偶者支援/渡航看護に必要な力	
石光 芙美子	(イシミツ フミコ)	術後せん妄症状看護の質指標の構築	58
牛島 佳代	(ウシジマ カヨ)	福島原発事故後の親子の生活と健康	
宇城 令	(ウシロ レイ)	医療の安全性と質評価	59
片岡 由美子	(カタオカ ユミコ)	アイルランド文学、及び医療系英語研究	
河村 諒	(カワムラ リョウ)	スピリチュアルケアの実践性	60
汲田 明美	(クミタ アケミ)	小児慢性疾患患者の「生活力」支援	
佐藤 美紀	(サトウ ミキ)	看護師の腰痛予防のための作業姿勢に関する研究	61
曾田 陽子	(ソタ ヨウコ)	看護アセスメントと看護援助技術教育の研究	
松岡 広子	(マツオカ ヒロコ)	地域における高齢者とその家族への支援	62
籠 玲子	(カゴ レイコ)	新人看護師の患者との関わりに関する研究	
賀沢 弥貴	(カザワ ミキ)	科学的ヘルスケア改善システムの看護管理への応用	63
加藤 宏公	(カトウ ヒロタダ)	精神保健における継続的プロセス支援の研究	
黒田 喜幸	(クロダ ヨシユキ)	ヒアルロン酸合成を制御するシグナル、因子の解明	64
近藤 彩	(コンドウ アヤ)	育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の臨床的有用性の検証	
清水 いづみ	(シミズ イヅミ)	父親の子育て支援に関する研究	65
西尾 亜理砂	(ニシオ アリサ)	がん患者の意思決定支援に関する研究	
林 恵里子	(ハヤシ エリコ)	看護ケアに伴う生理学的変化の看護学的検討	66
三浦 康平	(ミウラ コウヘイ)	運動・栄養が動脈硬化に与える影響の解明	
横山 加奈	(ヨコヤマ カナ)	看護師・保健師の臨床研究支援	67
足立 奈穂	(アダチ ナホ)	医療的ケア児と家族のセルフケア支援	
荒木 亜紀	(アラキ アキ)	看護師と看護補助者の協働	68
内村 栞	(ウチムラ シオリ)	がん患者の価値観を捉える教育プログラムの開発	
勝村 友紀	(カツムラ ユウキ)	母性看護学	69
金澤 美緒	(カナザワ ミオ)	前立腺全摘除術後患者のパートナーのレジリエンスに関する研究	
兒玉 善明	(コダマ ヨシアキ)	精神看護学 (精神鑑定・司法精神看護)	70
竹内 佳見	(タケウチ ヨシミ)	高齢者が望む場所で生活し続けるための研究	

教員紹介		フリガナ	テーマ	ページ
田中 里佳	(タナカ リカ)	意思決定支援に関する研究	71	
中井 理賀	(ナカイ リカ)	精神看護学		
中村 剛士	(ナカムラ ツヨシ)	救急・重症患者の家族看護における研究	72	
長谷部 七重	(ハセベ ナナエ)	地域在住高齢者に対する意思決定支援		
米川 美那	(ヨネカワ ミナ)	生涯における女性のケアと継続的支援	73	
渡邊 直美	(ワタナベ ナオミ)	喉頭全摘術を受ける患者に関する研究		
黒川 景	(クロカワ ケイ)		74	
広瀬 会里	(ヒロセ エリ)			
尾沼 奈緒美	(オヌマ ナオミ)			
鈴木 幸子	(スズキ サチコ)			
伊藤 裕子	(イトウ ヒロコ)			
情報科学部				
臼田 毅	(ウスダ ツヨシ)	量子通信・量子暗号・量子コンピュータの研究	75	
太田 淳	(オオタ アツシ)	離散事象システムの解析と応用		
奥田 隆史	(オクダ タカシ)	待ち行列モデリングと問題解決術	76	
何 立風	(カ リフウ)	パターン認識に関する研究		
神山 斉己	(カミヤマ ヨシミ)	生体機能の解析・診断技術に関する研究	77	
小林 邦和	(コバヤシ クニカズ)	自律ロボット(エージェント)の協調動作の獲得		
代田 健二	(シロタ ケンジ)	波動方程式族の逆問題に対する数値解法の研究	78	
辻 孝吉	(ツジ コウキチ)	コンカレントシステムのモデル化および解析		
戸田 尚宏	(トダ ナオヒロ)	信号に加わっている雑音の除去	79	
村上 和人	(ムラカミ カズヒト)	3次元空間センシング応用に関する研究		
吉岡 博貴	(ヨシオカ ヒロキ)	衛星画像解析手法に関する研究	80	
小畑 建太	(オバタ ケンタ)	衛星観測データ統融合による環境データサイエンス		
神谷 直希	(カミヤ ナオキ)	人体数値モデル構築と医用画像情報処理技術	81	
神谷 幸宏	(カミヤ ユキヒロ)	非接触生体情報センサとIoT		
佐々木 敬泰	(ササキ タカヒロ)	コンピュータアーキテクチャ、並列計算機システム	82	
ジメネス・フェリックス	(ジメネス・フェリックス)	人の学習を支援するパートナーロボットの開発		
鈴木 拓央	(スズキ タクオ)	日常生活支援ロボットを用いた食事・服薬管理支援	83	
田坂 浩二	(タサカ コウジ)	多重ゼータ値とモジュラー形式の研究		
小栗 宏次	(オグリ コウジ)		84	
永井 昌寛	(ナガイ マサヒロ)			
山村 毅	(ヤマムラ ツヨシ)			
山本 晋一郎	(ヤマモト シンイチロウ)			
伊藤 正英	(イトウ マサヒデ)			
入部 百合絵	(イリベ ユリエ)			
金森 康和	(カナモリ ヤスカズ)		85	
河中 治樹	(カワナカ ハルキ)			
田 学軍	(デン ガクグン)			
平尾 将剛	(ヒラオ マサタケ)			
大久保 弘崇	(オオクボ ヒロタカ)			
粕谷 英人	(カスヤ ヒデト)			
国際戦略室				
桑村 昭	(クワムラ アキラ)	大学国際化の研究	86	

チャールズ・ディケンズと民間伝承



教授 榎本 洋

(エノモト ヒロシ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

チャールズ・ディケンズは19世紀イギリスを代表する小説家ですが『クリスマス・キャロル』で有名です。その創作において、親しまれている御伽噺が『ディック・ウィットントンと彼の猫』という14世紀にロンドン市長に三度までもなった、立志伝中の人物のサクセス・ストーリーで、作家に格好の素材を提供しました。研究ではそうした民間伝承を利用してディケンズが人々の夢、野心をどう描き、また社会を批判したかを考察しています。他にもヴィクトリア朝の歴史小説等を研究しています。

研究者からのメッセージ

今の大学では、文学などの人文系学問の疎外は甚だしいものです。かつて『世界文学全集』なるものが刊行され、外国文学書が書店の書棚を飾っていました。今では問題にされてません。しかし、世界中の文学作品が日本語で読めたのですから、これはすごいことなのです。外国文学が自国語で(つまり翻訳で)読める国は日本だけです。講演、レクチャーでお役に立てる機会があれば、イギリス文学(小説)を中心に世界の文学を愉しめたらと思っています。

研究キーワード

ディケンズ サクセス・ストーリー 『ウィットントンと彼の猫』

現代文化の背景と可能性



教授 梶原 克教

(カジハラ カツノリ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

1. 環大西洋圏文化(イギリス-アイルランド-カリブ-北アメリカ)の連続性と差異
2. 映像文化学
3. ポストコロニアル文学

【主な研究内容】

- ・トリニダードの知識人による詩・音楽・仮装を中心とした文化論の系譜とその遺制(2013-2016)
- ・「C. L. R. ジェームズの地理的移動と身体文化論との関連性およびその影響(2017- 継続中)」

「近代世界システムにおけるカリブ社会 — グローバル文化と地域文化」(2012 愛知県立大学公開講座)

「トリニダード、イングランド、クリケット — Beyond a Boundary に見られる政治とスポーツを巡って」2017 (MESA 第28回全国大会講演)

研究者からのメッセージ

現代文化の歴史的社会的背景について、とくに現代文化に多大な影響を及ぼし、新たな価値を創造してきた旧植民地(アイルランドやカリブ)の文化について研究しています。

また、映画を中心とした視聴覚文化についても、研究しています。映像文化は文字文化とは異なる発想でのアプローチが必要で、たとえば感情移入の形態などを含めメディア間の差について理論化を試みています。

研究キーワード

現代文化 映画(視聴覚文化) カリブ海 アイルランド

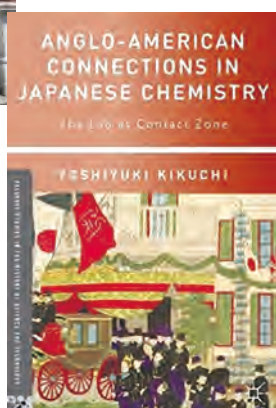
19・20 世紀の日英文化交流、科学技術史



教授 菊池 好行

(キクチ ヨシユキ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

19 世紀以降の科学の社会史、特に科学技術分野での日英交流史を主な研究テーマとしています。あわせて幕末・明治期以降の日本科学史、ヴィクトリア期以降のイギリス科学史、高等教育史、実験室の設計思想、科学研究が営まれる「場」の展開、科学の国際交流の発展についても研究を進めています。2007 年より分子科学研究所（愛知県岡崎市）のアーカイブ調査に従事していて、第二次世界大戦後の日本の分子科学、物理化学、化学物理の展開にも興味を持っています。また愛知県の大学への就職を契機として、お城で有名な犬山およびその周辺地域の科学技術にも関心を持ち始めています。

研究者からのメッセージ

科学技術分野、特に化学における日英交流史を研究しています。カリキュラムや実験室の設計、学会の組織の在り方など、科学の研究教育体制を形作る様々な要素は国境を越えて伝播します。その一方、移植の過程で送り手、受け手の国の文化的特徴が刻印され変容もします。明治期以降、活発に交流した日英の科学技術者の営為に着目しながら、その伝播と変容のメカニズムの解明を目指しています。

研究キーワード

科学の社会史 日英交流史 化学史 科学史 大学史

英語の情報構造と音韻構造



教授 熊谷 吉治

(クマガイ ヨシハル)

外国語学部 英米学科

研究シーズの内容

1. 日英語における音象徴の類似点と相違点
(詳細は「研究者からのメッセージ」をご覧ください)
2. 文における新情報と旧情報の分布
言語は意味を伝えるための記号の体系ですが、メッセージの中身は、話し手と聞き手が共有する情報、そして聞き手がまだ知らないと話し手が想定する情報から構成されていると考えられます。後者 (= 新情報) は大事な内容を伝えると考えられますが、メッセージのどの部分に現れやすいのか、実際のデータをもとに研究しています。
3. 一定の長さを持った発音単位の文法構造
文字で書かれたメッセージの場合、句読点（マルやピリオド）までが「文」という大きな意味のまとまりと考えられていますが、私たちが普段言葉を使ってコミュニケーションを行う場合、メッセージ単位は必ずしも「文」に対応するとは限りません。また、単位の長さ（大きさ）は日本語と英語で差があるようです。その差はどこから来るのかを研究しています。

研究者からのメッセージ

音声を発する行為を表す動詞の音韻構造には、どのような聴覚的・調音的特徴が組み込まれているのかを考えています。笑い声を考えてみると、日本語では笑い方によって「ゲラゲラ」、「クスクス」、「クックツ」のような言葉と、「笑う」という動詞を組み合わせることで表現することが普通ですが、英語では、guffaw, titter, chuckle のように、笑い方を示唆する音の成分が動詞の中に組み込まれています。音の特徴（母音の明るさや子音の有声・無声など）が何を表しているのかを分析しています。

研究キーワード

英語学 音韻論 語用論 談話分析



アメリカ社会の諸問題に関わる歴史的事象

教授 久田 由佳子

(ヒサダ ユカコ)

外国語学部 英米学科



上: 1830年代、マサチューセッツ州ローウェルの綿工場の従業員規則

下: 1830年代、連邦議会における奴隷制に関する討論禁止についての風刺画(床に倒れて奴隷制廃止を訴える請願書を抱えるのは第6代大統領ジョン・Q・アダムズ)



研究シーズの内容

19世紀前半のアメリカ北東部、特にニューイングランドと呼ばれる地域を中心に、労働史、家族史、ジェンダー史、人種問題および政治に関わる研究をしています。具体的には、アメリカで最初に水力織機が導入された綿工場で働いた女性労働者の労働・生活・余暇に関する実証的研究、南部の奴隷制に基づく綿花栽培に依存しながらも、なぜ北部綿工業都市において奴隷制反対運動が盛んになったのかについての研究や、当時参政権を持たない女性たちがおこなった政治的行動に関する研究などです。

他方、共同研究では、史跡・記念碑・歴史記念事業に関する研究をおこなっています。植民地時代、現在のマサチューセッツ州セイラム近郊にあたる地域でおこった魔女裁判(1692年)をめぐる顕彰行為と地域アイデンティティに関する研究、ニューヨークにおける奴隷制の歴史と埋蔵文化財保存問題に関する研究、アメリカ史におけるボストン茶会事件の位置づけをめぐる研究などがあげられます。

研究者からのメッセージ

トランプ政権下で南部連合軍を顕彰する銅像の撤去問題が死者を出す暴動に発展し、さらにバイデン政権への移行の際にも白人至上主義が顕著となりました。これは、南北戦争が、150周年を過ぎてもなお、アメリカ社会を二分するほどの影響を与えていることを示唆しています。歴史を学ぶことによって、現代社会の側面が見えてくると私は考えています。

研究キーワード

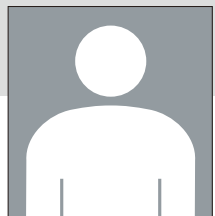
史学 西洋史 アメリカ史

18世紀英文学

教授 三原 穂

(ミハラ ミノル)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

研究テーマ(専門的助言が可能なテーマ)

18世紀英文学、前ロマン主義、ロマン主義、文献書誌学、シェイクスピア関連の書誌学、トマス・パーシー、ジェイムズ・マクファーソン、エドモンド・マローン、18世紀のシェイクスピア受容、18世紀の好古学、編集に関わる研究、夏目漱石のオシアン詩翻訳、ショパンのスコットランド紀行など

共同研究希望テーマ

センチメンタリズム、偽作文学、人生に役立つ英文学作品の実用的活用(特に希望)

研究者からのメッセージ

編集や文献学に関心をもちながら18世紀英文学研究を行っております。文学的創造が、材料を集めた後、必要なものをつけ加えて、不要なものを削ぎ落して、材料どうしを結びつけたり、引き離したり、組み換えたりする編集行為であるとするれば、文学は編集と強く結びつくものであると言えるでしょう。編集研究から切り離された文学研究では、作品が生み出される前にみられた、そして印刷紙面の外で展開された、編集に関わる動きは研究の対象外にされてしまう傾向が強いように思われます。しかし、その前と外にこそ、文学の根本と直結する重要なものが存在するはずで、編集をキーワードにした研究によってこのことを明らかにすることができると確信しています。

研究キーワード

口承文化と文字文化 18世紀のシェイクスピア 学術編集

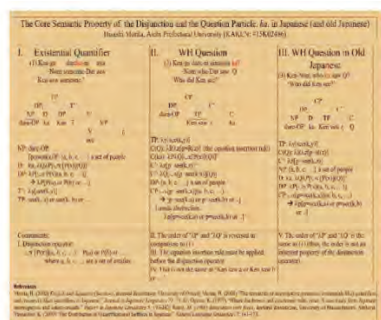


日本語から見た言語の普遍性の研究

教授 **森田 久司**

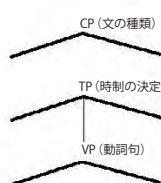
(モリタ ヒサシ)

外国語学部 英米学科



ウィーン大学でのポスター発表（2015年10月）。

「健が誰かに会った。」「健が誰かに会いましたか?」「健が誰かに会いたる?」(古文式)における「か」の意味的統語的關係性を発表。



どの言語の文も、3層構造を持つと考えられている。一番の核であるVP層で、動詞とそれに必要な登場人物が決定。中間のTP層周辺で、時制や完了といった出来事描写についての補足。そして、一番外側のCP層で、疑問文・命令文・平叙文といった文の種類の決定が行われる。

研究シーズの内容

日本語における疑問文、接続詞、指標表現における統語的意味的研究

日本語は他の言語と比べて、特殊なのだろうか? 詳細に研究していくと、日本語で見られる文法現象が日本語と歴史的、地理的に関係のない言語でも見られることがある。このことから人間の話すことには普遍性の存在を感じざるを得ない。逆に、日本語は多くの興味深い言語現象を示し、言語学全体に対する知見にも大きな貢献をしてきている。このことからわかるように、他言語を念頭に置きながら、日本語を探索することで、大きな発見があると考えている。

研究者からのメッセージ

生成文法という枠組みで言語学、特に統語論や意味論を研究しています。一見、言語学を研究をしているというと、方言研究とか辞書編纂とか未知の言語の研究だと思われるかもしれませんが、それだけでなく、自分が普段何気なく話す日本語の文をもとに仮説を提唱し、それが日本語だけでなく、他の言語でも当てはまる規則だと分かると、とても興奮します。なぜかという、それが言語の普遍性だけでなく、人としての特性を理解するヒントになるかもしれないからです。

研究キーワード

indexicals / coordination / intervention effects / focus



「英米特殊関係」と戦後アジア国際秩序

准教授 **奥田 泰広**

(オクダ ヤスヒロ)

外国語学部 英米学科

研究シーズの内容

「英米特殊関係」と戦後アジア国際秩序の形成

イギリス外交史・情報史の総合的研究

イギリスにおける対外戦略の形成システムの変容 ―第一次世界大戦前後を中心として―

情報機関をいかに民主的にコントロールするか ―インテリジェンス・オーバーサイト論の構築―



研究者からのメッセージ

私はイギリス外交史を研究対象としており、近年は特にインテリジェンス問題を考察してきました。その経験を踏まえて、現在ではインテリジェンス問題をも含み込む形で、「戦後アジア国際秩序の形成」のあり方を再検討しています。単にイギリスの外交だけにとどまらず、国際秩序全般を扱っています。とくにイギリスとアメリカの世界的な影響力に着目しています。

研究キーワード

西洋史 政治学 国際関係論 イギリス政治外交史 情報史

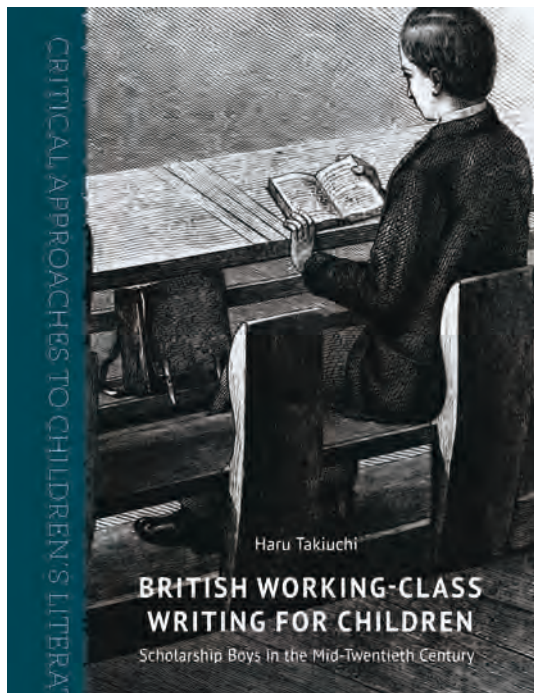


現代イギリス児童文学

准教授 **瀧内 陽**

(タキウチ ハル)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

20 世紀のイギリス児童文学、特に労働者階級、黒人・アジア系等のマイノリティ作家の作品やヤングアダルト小説（18 歳くらいまでの十代の少年少女を対象とする児童文学）を中心に研究しています。最近は、そのようなイギリス児童文学作品の日本での翻訳と受容についても研究しています。

研究者からのメッセージ

20 世紀後半のイギリス児童文学の多様性や多文化主義の発展に注目して研究しています。日本で翻訳が出ている有名作家だけでなく、イギリスでも忘れ去られているような作家についても研究しています。

研究キーワード

イギリス児童文学



近世・近代イギリスと大西洋世界

准教授 **日尾野 裕一**

(ヒオノ ユウイチ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

近世・近代におけるイギリス帝国史、イギリス海事史について研究しています。現在までの具体的な研究課題としては次のようなものがあります。

- ・ 18 世紀イギリスにおける通商奨励政策
- ・ 18 世紀イギリス大西洋世界における資源獲得政策
- ・ 18・19 世紀イギリス海軍における物資調達網の形成と請負契約業者との関係
- ・ 18 世紀イギリス大西洋世界の移民計画

研究者からのメッセージ

18・19 世紀のイギリスを対象に、海を媒介としたヒト・モノの移動や、国家と私人との関係を研究しています。

近世・近代のイギリスがその勢力圏を拡大していく中で、国家と私人はどのような関係にあったのか、それは政策やネットワーク形成にどのような影響を及ぼしたかということに注目しています。

研究キーワード

近世・近代イギリス史 移民史 大西洋史 海事史



形式意味論にもとづく法助動詞・焦点辞の研究

准教授 **水谷 謙太**

(ミズタニ ケンタ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

1. 日英語の法助動詞の対照研究

日英語の法助動詞を比較することで、その共通点、相違点を特定し、これらがなぜ生じるのかを明らかにすることを目指している。特に、「ほうがいい」や「てもいい」などの段階形容詞「いい」を含む日本語の法助動詞相当表現と、それに対応するとされる英語の may, might, should などの法助動詞の比較を中心に研究を進めている。

2. 焦点辞と段階形容詞の相互作用

even, 「は」, 「も」などの焦点辞を段階形容詞を含む文に付与すると特殊な解釈が生じる(例: 太郎は花子より背が高い / 太郎は花子よりは背が高い)。焦点辞自体の意味や、段階形容詞が持つ尺度構造に着目し、この解釈が生じる仕組みについて研究している。

研究者からのメッセージ

形式意味論という枠組みを用い、様々な文の意味が、その文に含まれる単語の意味とその組み合わせ方からどのように導き出されるのかを研究しています。英語、日本語など、様々な言語の意味解釈のためのメカニズムを調べていくと、共通点や相違点が見つかります。近年は、これらが何によって生じるかを明らかにすることを目標に研究を進めています。

研究キーワード

英語学 形式意味論 法助動詞 焦点辞 尺度構造



現代アメリカ文学・文化

講師 **青木 耕平**

(アオキ コウヘイ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

ポスト冷戦期・1990年代アメリカ文学・文化研究

アメリカ文学研究者の多くは1990年代を「1989年11月9日」に始まり、「2001年9月11日」に終わった、と定義します。前者はベルリンの壁が打ち壊され冷戦構造の終焉が決定的となった日、後者はアメリカ同時多発テロによってハイジャックされた飛行機がツインタワーに激突した日です。この二つの象徴的な「崩落」に挟まれた1990年代とは、いわばアメリカ化としてのグローバル化の十年でした。「21世紀は1990年代から始まった」と主張する研究者さえいるほどに、この十年間は現在の私たちの文化を決定的に変えた時代です。文学・人文学もまた、大きなパラダイム転換がありました。1990年代のアメリカ文学・文化を学ぶことは、ひいては現在の私たちの生を解き明かすことである、という信念を持って研究を進めております。

研究者からのメッセージ

『ファウスト』の著者ゲーテによる「努力する限り人は迷う」という言葉が座右の銘です。努力する限り人は迷う。迷い続けるために、文学を読み続けましょう。

研究キーワード

現代アメリカ文学 ポスト冷戦期の文化 1990年代



言語学習心理学と言語学習に関する不安軽減方法

講師 **ブルノティ・ジョシュ**

(ブルノティ ジョシュ)

外国語学部 英米学科



研究シーズの内容

1.日本の英語の授業で学生の不安を軽減するための新しいテクニックを開発する必要がありますと考えています。ここ数年、第二言語を使って人前で話すときの不安を軽減するためのプログラムを開発しています。そのために、バーチャルリアリティを使ったスピーチ練習と、イメージトレーニングを使ったスピーチ練習を比較しました。バーチャルリアリティのような新しい技術を使うことで、学生はより積極的に活動に参加するようになります。このように、テクノロジーは語学学習者の不安を軽減するのに役立つツールになると考えています。

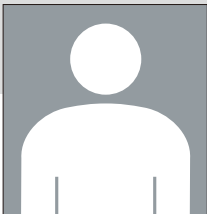
2.グローバル経済が発展し続ける中、異文化間コミュニケーションは大学生が身につけるべき重要なスキルとなっています。茨城大学の研究者と共同で、日本人々、特に移民集団に対する異文化理解を促進する方法について研究を行っています。私たちの研究結果によると、日本人と外国人が一緒に協力しているビデオなどのメディアを観察することで、日本の大学生の異文化に対する不安を大幅に軽減できることがわかりました。そのような異文化理解を促進する方法をもっと発達することが必要だと思っています。

研究者からのメッセージ

これからの日本の英語講師は、言語学習心理学の知識を身につけることで、より効果的な指導ができるようになるでしょう。あらゆる教育レベルで生徒の心の健康をサポートすることは、高い英語能力を身に付けるだけでなく、日本の将来を担うより良いリーダーを生み出すことにつながるのです。

研究キーワード

英語教育 心理学 不安軽減方法



消滅の危機に瀕する言語の活動

教授 **佐野 直子**

(サノ ナオコ)

外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語専攻



研究シーズの内容

- ・多言語社会における少数言語
- ・消滅の危機に瀕する言語の「言語取り替えを巻き返す」活動
- ・言語の商品化
- ・方言や言語現象に対する呼称問題
- ・多言語話者の言語使用のオーラル・ヒストリー
- ・あることばを話すことについての「恥」の感覚について

<主要研究業績>

『社会言語学のみなざし』三元社、2015

Una lenga en chamin/Una lingua in cammino/A Language on the Way/ 途上の言語, 2008, Chabre d'oc, Itàlia

『オック語分類単語集』大学書林、2007

研究者からのメッセージ

主にフランス南部（イタリア・カタルーニャも）で話されている／いた少数言語である、オクシタン語について研究しています。周囲のロマンス諸語との区別、まともな「言語」ではないとされてきた歴史、その中でお現在もさまざまな形で使用しようとする話者たちの活動に関心を持っています。

研究キーワード

フランス歴史社会言語学 オクシタン語研究

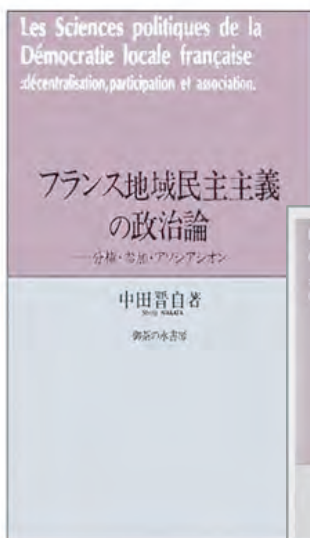


フランスの分権改革と都市自治体の市民参加政策

教授 中田 晋自

(ナカタ シンジ)

外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻



研究シーズの内容

中央集権国家の典型とされるフランスでの地方分権化に向けた法改革について歴史的に整理するとともに、同国の都市自治体における代表制民主主義の機能不全問題を念頭に置いた参加民主主義の取り組みについて、現地調査を交えながら研究しています。

【主な研究テーマ】

中央集権国家フランスの地方分権改革に関する研究
フランスの「近隣民主主義」と住区評議会制に関する研究
フランス基礎自治体の 合併・協力を通じた「広域化」に関する研究
フランスの都市自治体における抽選民主主義の実践に関する研究

【主な学術書の出版・学術論文】

単著『フランス地域民主主義の政治論—分権・参加・アソシエーション—』(御茶の水書房、2005年11月、第32回東京市政調査会藤田賞)
単著『市民社会を鍛える政治の模索—フランスの「近隣民主主義」と住区評議会制—』(御茶の水書房、2015年1月)

研究者からのメッセージ

多様な言語・文化をもった人々を「国民」として統合するため、フランス革命以来、強力な中央集権体制をとってきたフランスが、地方分権化を求める声の高まりを受けて、地方分権改革を実施したのは1982年のことでした。ただし、同国の分権改革論議には、国から自治体への権限委譲だけでなく、自治体に委譲された権限をいかにして住民と「分有」するのかという問題意識がみられる点に特徴があり、「地域民主主義」と呼ばれるこの改革課題が、同時に実行されてきました。

研究キーワード

フランス 地方分権改革 都市政治 地域民主主義 近隣民主主義
自治体間協力 市町村合併



フランス語の冠詞の用法について

教授 長沼 圭一

(ナガマ ケイイチ)

外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻

研究シーズの内容

フランス語における定冠詞の特殊用法について (1996-2001)
フランス語における無冠詞名詞について (1999-2010)
フランス語における不定名詞句について (2010-2015)
フランス語における部分冠詞について (2015-)



研究者からのメッセージ

フランス語の冠詞の用法を専門としておりますが、出張講義等ではむしろ、フランス語から入った日本語や日本でよく耳にするシャンソンなどに触れ、フランス語をより身近に感じていただくよう心がけております。一方で、フランス語は世界の多くの国々で公用語や通用語として話されている国際的な言語でもあります。そんな身近でもあり国際的でもあるフランス語を学ぶお手伝いができれば幸いです。

研究キーワード

フランス語学



現代フランス語におけるモダリティ表現

准教授 **岸本 聖子**

(キシモト セイコ)

外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻



研究シーズの内容

1. 現代フランス語におけるモダリティ表現について：本来モダリティを表すいくつかのフランス語表現が事実を表すときにも使用されることに着目し、そのメカニズムと意味効果を認知語用論の観点を取り入れながら明らかにする。意味論と語用論のインターフェイス。
2. 公共掲示物に現れる行為促進型文の特性分析、言語間比較（日本語・中国語・フランス語）：言語景観的な背景から収集した公的掲示物を中心に特定の表現を選定し、それぞれの言語の行為促進型文にどのような社会的文化的特徴が反映されているかを考察。

【主な著作】

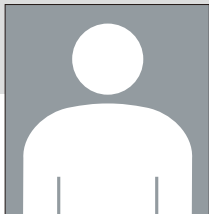
『モダリティ表現にまつわる事実性の意味論』（2018）、弘学社
「法助動詞 *devoir* と *pouvoir* の陳述に関わる意味効果：語用論的観点からの分析」（2015）、フランス語学研究第 49 号、pp. 43-64

研究者からのメッセージ

言語について、私たちが持っている認知能力との関わりから観察していくことで、私たちが世界をどのように捉えているのか、またそれをどのように表現しているのかを明らかにすることができます。特に一見大きく異なる言語間においてその違いがどのように現れるのかを考察することは、言語の普遍性と個別言語の相違を審らかにすることに繋がり、今後さらに深化させたいテーマです。

研究キーワード

フランス語学 認知言語学 意味論 語用論



モロッコを中心とした中東・北アフリカ政治研究

准教授 **白 谷 望**

(シラタニ ノゾミ)

外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻



研究シーズの内容

モロッコを中心に、中東・北アフリカ地域の権威主義体制の研究をしています。

- ・モロッコのイスラーム主義運動の研究（2008 - 2014 年）
- ・モロッコ君主制を支える政治制度の研究（2013 年 - ）
- ・アラブ君主制諸国の比較研究（2013 年 - ）
- ・モロッコ君主制の宗教・伝統儀礼の研究（2014 - 2016 年）
- ・権威主義的君主制下の議会・政党の機能に関する研究（2018 年 - ）

研究者からのメッセージ

専門は、モロッコを中心とした中東・北アフリカ地域の研究です。主に比較政治学の手法を用いて、「同地域ではなぜ、権威主義体制が長期間維持されるのか」という問題関心のもと、研究を進めています。現在は、2011 年からの「アラブの春」で共和制以上の安定性を見せた君主制諸国（モロッコ、ヨルダン、湾岸諸国）に注目しています。

研究キーワード

政治学 地域研究 中東・北アフリカ モロッコ イスラーム



カタルーニャの独立問題とスペイン

教授 奥野 良知

(オクノ ヨシトモ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻

研究シーズの内容

1. カタルーニャはなぜ独立を望むのか？ スペイン・カタルーニャ問題はどんなふうになっていくのか？
2. カタルーニャの集合的アイデンティティはどのように形成されたのか？
3. カタルーニャの集合的アイデンティティと同地の産業革命（工業化）
4. スペインの一体性は人間の基本諸権利に優先するとするスペイン・ナショナリズムはなぜ、どのように形成されたのか？

【カタルーニャ (Catalunya)】



研究者からのメッセージ

専門は、地中海に面しスペインとフランスにまたがって存在しているカタルーニャ地方の研究です。独自の言語・文化・歴史を持ち、スペインのなかでは極めて珍しく、議会主義・民主主義・共和主義の伝統や商工業の伝統があり、比較的強い集合的アイデンティティを有する（だが閉鎖的な訳では決してない）地域です。カタルーニャという地域を通して、国民国家を再考することが私の根本的な問題関心です。

研究キーワード

カタルーニャ 地域研究 集合的アイデンティティ 国民国家



地域の「らしさ」の可視化と共有一地理学からの試み

教授 竹中 克行

(タケナカ カツユキ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻

研究シーズの内容

- 地理学を基礎として、景観に表出する地域の来歴から今を生きるわれわれにとつての資産を見つけ出し、将来に繋ぐための手助けとなる方法論の構築を進めています。変化を重ねるなかで育つ個性にこそ、生きた地域の魅力があるというのが、研究の基本的な視点です。
- これまで、名古屋・中川運河をフィールドとして、地域の「らしさ」を可視化・共有するためのコミュニケーションツールにあたる「空間コード」を開発しました（左図参照）。今後、このツールに改良を加えながら、他の地域にも応用していきたいと考えています。
- 主な連携先として、地域らしさの継承と進化に関心をもつ自治体を想定しています。景観デザインなどの外形的側面にとどまらず、土地利用計画を柱として、都市政策の各分野の連携を模索したいと考えています。

研究者からのメッセージ

大学院時代からの私の専門のフィールドは地中海ヨーロッパです。外国でのアカデミックな研究を基礎として、そこで得た知見を日本での研究実践にいかすべく努力してきました。異なる地域の現実から学ぶ国際性のある研究教育を大学における自分の行動指針としています。研究の中長期的目標としては、地理学の視点・方法を基礎としつつ、都市計画や建築などの計画論への橋渡しの方法論を構築したいと考えています。

研究キーワード

地理学 都市論 地域づくり 地中海ヨーロッパ



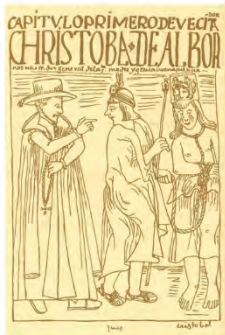
カナダ・アメリカ・中南米先住民の宗教・神話・儀礼



教授 谷口 智子

(タニグチ トモコ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語専攻



写真上：17世紀のアンデスのインディオ、ワマン・ボマが描いたスペイン人巡察使アルボルノス。インディオの「偶像崇拜」を取り締まった。

写真下：カナダの先住民クリー族のサンダンス儀礼の会場とティピ（テント）、そして夏のオーロラ。



研究シーズの内容

- 1.2008- 現在「スペイン植民地における魔術師・魔女狩りに関する研究」（平成20年度科学研究費補助金基盤（C）研究代表者 谷口智子）
- 2.2008「古代メソアメリカの宗教的世界観の視覚化」（平成20年度大学教育の国際化加速プログラム、杉山三郎、谷口智子、河中治樹との共同研究）
- 3.2010「中米古代都市 Cholula のモニュメントと表象：データベースと学術ネットワークの構築」（平成20年度頭脳循環を活性化させる若手研究者海外派遣プログラム 杉山三郎、谷口智子、嘉幡茂、小林貴徳との共同研究）
- 4.カナダ・アメリカ・中南米先住民の世界観の研究（神話、儀礼）
- 5.地球環境問題と宗教、アートとパーマカルチャー、エコビレッジ、自然農
- 6.キリシタン研究

研究者からのメッセージ

教員生活15年目に突入し、100人近くのゼミ卒業生を輩出しています。私の専攻は宗教学。カナダ、北米、中南米の先住民宗教とヨーロッパ人の接触に関して研究しています（近世初期スペイン植民地の異端審問や魔女狩りはその中の一例です）が、先住民の知恵に学ぶことは多く、近年は地球環境問題に関連し、パーマカルチャーや自然農にも関心を持っています。パーマカルチャーのワークショップも企画しています。

研究キーワード

ラテンアメリカ研究 宗教学 先住民 環境 パーマカルチャー

地域社会にみる多言語化



准教授 糸魚川 美樹

(イトイガワ ミキ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語専攻

スペイン語医療通訳勉強会



研究シーズの内容

「スペイン語と社会」が研究テーマです。「なぜスペイン語？」と問われることがあります。まずその問い自体が意味することを問うことから研究が始まりました。スペイン語から出発して、ジェンダー、多言語社会、言語権、情報保障、医療通訳という分野に研究対象を広げています。

＜共同研究＞①科研費基盤研究（c）「地域の多言語化促進要因と担い手に関する国際比較研究」（2016～）研究代表者、②厚生労働行政推進調査事業費補助金「医療通訳認証の実用化に関する研究」（2017）研究分担者など

＜学術論文＞単著「法律における『性』の記述」堀田英夫編『法生活空間におけるスペイン語の用法研究』ひつじ書房（2016）、単著「文化の仲介者たちースペインにおける公共サービスの実践と課題ー」竹中克行編『グローバル化と文化の境界』昭和堂（2015）ほか

＜社会活動＞あいち医療通訳システム通訳養成専門会議委員

研究者からのメッセージ

世界中に多くの話者がいるという理由で、スペイン語を学び始める人が多いようです。それだけでなく、スペイン語を使ってどんなことをしたいのか、だれとどんなコミュニケーションをとりたいたのかなどをもいっしょに考えてみてください。スペイン語を例に、社会とことばの関係を考えていきたいと思います。

研究キーワード

スペイン語 多言語化 情報保障 言語権 医療通訳

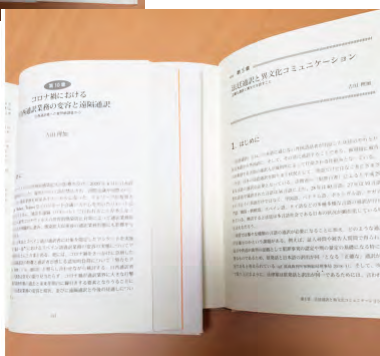
「通訳」を介した（異文化）コミュニケーション



准教授 **吉田 理加**

(ヨシダ リカ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語専攻



研究シーズの内容

通訳を介した（異文化）コミュニケーションがどのように行われるのか、そして、「通訳」という社会的営為は一般にどのように捉えられているのかに関心を抱いています。特に、法廷などのコミュニティにおける「通訳」に焦点をあてています。

共同研究：

文科省科研費基盤研究(c)「記者会見通訳データーを用いた日中・日西並行コーパスの構築と応用研究」(20K12563) 研究分担者
厚労省科研費(エイズ対策政策研究事業)「iTesting チャネルによるHIV 検査体制の構築と確立のための研究」(22HB1001) 外国語話者へのアウトリーチについて研究分担者
日本通訳翻訳学会での研究プロジェクト「日本におけるトランスレーション・ポリシー」、「通訳翻訳研究における会話・談話分析の展開」に参加

研究者からのメッセージ

「通訳(者)」と言えば、「透明」な存在と捉えられる傾向がありますが、実際には「透明」ではないコミュニケーションの参与者です。「通訳(者)」はコミュニケーションにおいてどのような役割を果たしているのか、一緒に考えませんか？特に、行政、医療、司法などのコミュニティ通訳が果たす役割について人々の「意識」と実際の通訳「実践」の間に解離があることを「意識化」できるような研究を目指しています。

研究キーワード

通訳学(コミュニティ通訳)、異文化コミュニケーション
言語人類学、言語イデオロギー、談話分析

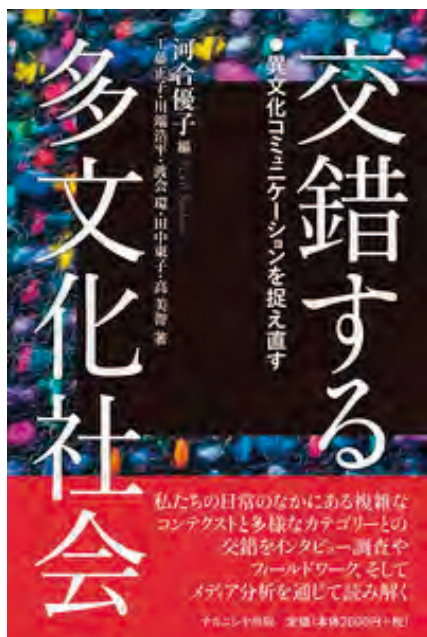
ブラジルおよび海外におけるブラジル人女性



准教授 **渡会 環**

(ワタライ タマキ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語専攻



研究シーズの内容

1. ブラジルにおける人種・エスニシティの問題
2. ブラジルにおけるジェンダーの問題
3. 海外におけるブラジル人女性移民の生活世界の構築過程
在仏ブラジル人女性の生活世界の構築過程に関する研究(2016－継続中)
現代ブラジルのジェンダーに関する研究(2015－継続中)
在日ブラジル人女性の生活世界の構築過程に関する研究(2012－継続中)
国際移動によるブラジル人女性の「人種化」の研究(2008－2014)

研究者からのメッセージ

専門はブラジル地域研究です。ブラジルが私にとって特に魅力的に映るのは、多民族社会であるために多様な文化があり、ダイナミックに文化そして社会が形成され続けている点です。多文化化が進む日本社会はこのブラジルから学ぶことが多いと思います。この数年は、海外に移住したブラジル人女性の生活世界について社会学と人類学の立場から研究をしています。

研究キーワード

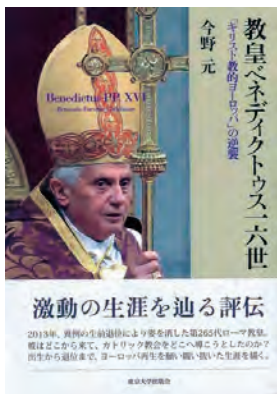
ブラジル地域研究 ジェンダー インターセクショナルリティ

ヨーロッパ国際政治史・ドイツ政治思想・日独関係史

教授 今野 元

(コンノ ハジメ)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻



研究シーズの内容

1. ヨーロッパ国際政治史：ヨーロッパの国家がどのように形成され、どのような歴史を辿り、どのように変容したのかを、神聖ローマ帝国末期（マインツ大司教ダールベルクを中心に）、ドイツ帝国におけるプロイセン王国（ポーランド系貴族フッテン＝チャプスキ伯爵を中心に）などを題材に描く。
2. ドイツ政治思想：ドイツにおけるアイデンティティ思想がどのように展開したかを、政治評論家マックス・ヴェーバーやバイエルン出身のローマ教皇ベネディクトゥス六世などを題材に描く。
3. 日独関係史：ドイツの政治や政治関係諸学が近代日本にどのような影響を与えたかを、吉野作造、上杉慎吉、神川彦松、大串兎代夫、矢部貞治、安井郁などを題材に描く。
4. 愛知県の民俗祭礼：県内各地の祭礼を見て回り、愛知県の人間や風土を描く。

研究者からのメッセージ

学問は政治の道具ではありません。何にでも「説明責任」を求めるのが昨今の風潮ですが、学者に即効性があり見栄えがする「社会貢献」ばかりを求めるなら、学問の発展は歪になるでしょう。逆説的なことですが、学者とは一般社会から距離を置いて自分の世界を極めることによって、却って一般社会の中にいる人々が気付かないことを、一般社会の人々にも伝えるという職業だと思います。その意味で、曲学阿世は学者の社会的責任の抛棄になると思っています。

研究キーワード

ヴェーバー フッテン＝チャプスキ ベネディクトゥス六世

初習外国語（ドイツ語）の教材開発

教授 人見 明宏

(ヒトミ アキヒロ)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻



研究シーズの内容

私の主な研究分野は、①ドイツ語教育、②ドイツ語学、ドイツ語文法です。

①ドイツ語教育の分野では、動詞の人称変化、名詞の性、名詞の複数形など、初学者にとって覚えるのが困難な文法事項を整理して、本学外国語学部ドイツ語圏専攻の文法（1年次）の教科書などに活かしています。その際、既習文法事項の知識を活かして、新しい文法事項を学習することに留意しています。

②ドイツ語学、ドイツ語文法の分野では、伝達価値と言語表現、テキストの構造、文の統語構造について考察しています。近年は、特に形容詞について、具体的には、形容詞とその目的語、特に前置詞格目的語の語順、述語形容詞を伴った結果構文、述語内容語的付加語などを研究しています。

研究者からのメッセージ

初学者にとって、分かりやすく、かつ内容的にも十分なドイツ語文法の教材開発を目指しています。その際、学習者が苦手な文法項目を自分で把握し、学習を進めていけるような、自律学習がキーワードになっています。

研究キーワード

ドイツ語学 ドイツ語文法 ドイツ語教育

表 34: 第1人称動詞

第1人称動詞	現在人称変化
不定形: lernen	
動詞: lerne	
ich	lerne
du	lernst
er	lernt
wir	lernen
ihr	lernt
sie	lernen

表 35: 第3人称動詞

第3人称動詞	現在人称変化	過去人称変化	未来人称変化	現在人称変化
不定形: wissen		不定形: lernen		不定形: lernen
動詞: wisse		過去基本形: lerne	動詞: lerne	動詞: lerne
er	kennt	不定形: lernen	動詞: lerne	動詞: lerne
du	erkennt	過去基本形: lerne	動詞: lerne	動詞: lerne
er	kennt	過去基本形: lerne	動詞: lerne	動詞: lerne
wir	wissen	不定形: lernen	動詞: lerne	動詞: lerne
ihr	wissen	過去基本形: lerne	動詞: lerne	動詞: lerne
sie	wissen	過去基本形: lerne	動詞: lerne	動詞: lerne

* 基本形が -e で終わる場合は、o がつく。



ドイツ中近世都市における暴力と暴力のコントロール

准教授 **池田 利昭**

(イケダ トシアキ)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

研究シーズの内容

人間の歴史は暴力のコントロールの歴史でした。私はこれまで、正当な暴力の行使を独占する近代国家が出現する以前、すなわち中世および近世のドイツの都市社会をおもな対象に、都市住民が日常生活においてふるう暴力と、それをコントロールしようとする統治権力の政策について考察してきました。現在は、日常的な暴力のみならず、都市騒擾のようにより集団的で大規模な暴力も対象として、統治権力がどのような方法で暴力のコントロールに成功したか、あるいは失敗したかを考察しています。

研究者からのメッセージ

近年、暴力のコントロールがどのような方法でなされるかが経済発展に計り知れない影響を与えるという、仮説を提示した画期的な研究が現れました。私のこれまでの研究には、暴力のコントロールと経済発展という視点が欠けていました。今後は、かかる仮説をドイツ史上の具体例を通じて論証できるか、検討してみたいと思います。

研究キーワード

ドイツ中近世史 都市 暴力



中国近代思想

教授 **川尻 文彦**

(カワジリ フミコ)

外国語学部 中国学科

研究シーズの内容

清末から民国初期にいたる中国の思想史を研究しています。西洋列強による「半植民地」化の危機にさらされた中国が改革への模索を行った時期です。日清戦争の敗北も大きなきっかけになり、思想界では王朝体制を支える伝統儒教への批判と「再解釈」が試みられ、同時に中国を強国にするための西洋の思想や学術の導入が叫ばれました。一足早く近代化に成功した日本は、西洋の学術や思想——当時の言葉で「西学」——を紹介する書籍を豊富にもっており、そのような日本語の書籍は中国人にとって「東学」と呼ばれ（中国共産党の成立に寄与した社会主義思想の伝播もその一つでした）、西洋近代文明のエッセンスを導入する際に重視されました。明治日本は近代中国における近代的な知識や制度の生成に大きな影響をもたらしたのです。以上の見取り図を踏まえ、より大きく「中国の近代とは何か」を思想史研究の立場から問いつづけています。

研究者からのメッセージ

「改革開放」の1980年代から今日まで日本人の中国イメージは大きく変わりました。当時、中国が「経済大国」になると誰が予想できたでしょうか。また日中関係は悪化の一途をたどっています。現実の中国の変化は私たちの予想を裏切るほど激しく、専門家ですら予測がつきません。今こそ10年、20年ではなく、100年、150年の視野で中国や日中関係を考察する必要性を痛感します。

研究キーワード

近代 思想史 清末中国 明治日本 中国哲学 梁啓超 東学



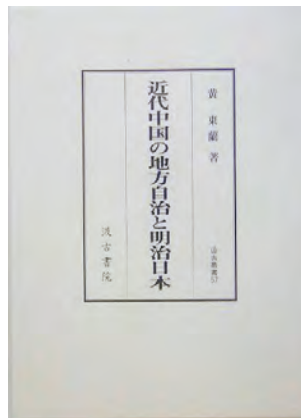


近代日本における中国史の通史的叙述

教授 黄 東 蘭

(コウ トウラン)

外国語学部 中国学科



研究シーズの内容

東アジアにおける「近代知」の形成という問題は、近年、日本や中国、韓国、台湾の学界において関心を集めています。私は、明治期に近代的学校制度が導入された後に刊行された漢史、支那史、東洋史の通史書を体系的に分析しています。この研究から、江戸時代の藩校の漢史教育で培われた漢学的中国史叙述が、ヨーロッパ近代の学問の影響の下で、いかに文明史、東洋史といった「近代知」に転換したかを明らかにしたいと考えています。

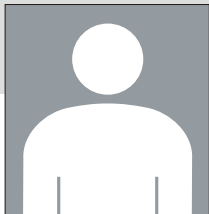
これまでに明治初期の漢文・和文の中国史関係の歴史教科書、ヨーロッパ文明史の影響を受けた田口卯吉の『支那開化小史』、明治期東洋史学の代表的成果とされる桑原隲蔵の『中等東洋史』の中国史叙述について分析し、国内外の学術誌や講演などを通じてその成果を発表しました。現在は、那珂通世や宮崎市定の支那史、東洋史の通史書のテキスト比較を通じて、「支那史」から「東洋史」への転換にともなう中国史叙述の変化を実証的に解明する作業に取り組んでいます。

研究者からのメッセージ

街に行くと、本屋の店頭には中国史関係の書物が多く並んでいます。そのなかには、中国崩壊論や中国脅威論を唱える文句が目につきます。多かれ少なかれ、現実の中国と表象された中国との間に開きがあるのは、今の時代に限ることではありません。私が研究の対象とする明治時代の日本も同じ状況でした。明治の知識人たちがいかに現実の中国と向き合いながら中国の歴史を書き続けていたかを考察するのが私の研究テーマです。

研究キーワード

支那史 東洋史 中国史叙述 明治日本

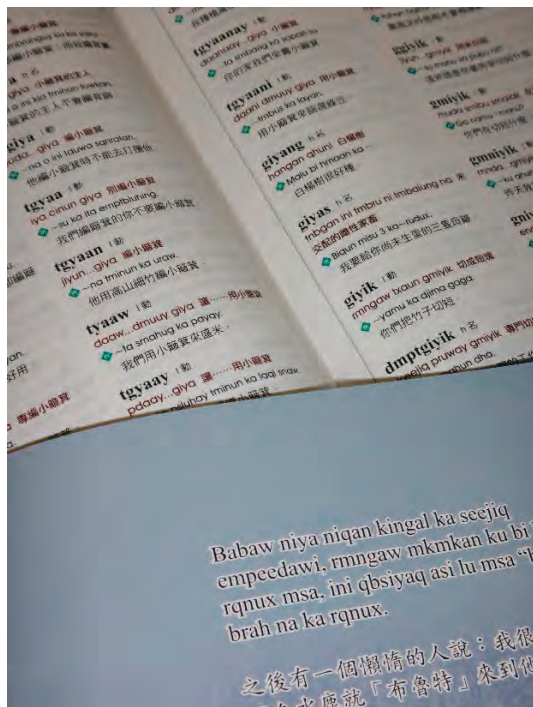


台湾の少数民族の言語セデック語の文法

教授 月 田 尚 美

(ツキダ ナオミ)

外国語学部 中国学科



研究シーズの内容

専門は言語学です。台湾の少数民族言語の一つ、セデック語の文法を研究しています。

台湾の少数民族の言語は、長年の国語中心政策のために、若い世代、子供たちへの継承が途絶えかけ、絶滅の危機に瀕しています。現在は民進党政権下で再活性化のための政策が採られています。

【著書】

2009年「セデック語」『ニューエクスプレス・スペシャル 日本語の隣人たち』中川裕監修、白水社

【現在の研究課題】

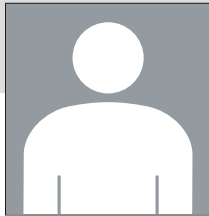
セデック語の文法の記述

研究者からのメッセージ

台湾の少数民族の言語について、彼らの言語が絶滅の危機に瀕している状況について、再活性化運動について、お話できるかと思います。

研究キーワード

言語学 台湾原住民族 セデック語 文法



アジアにおける農産物貿易と日本の食

教授 西野 真由

(ニシノ マユ)

外国語学部 中国学科



海外で販売される日本産農産物

研究シーズの内容

近年、日本の「食」は世界各地で注目を集め、海外での和食人気が拡大しています。日本の農林水産物・食品の輸出は伸び、海外における日本食レストランの数は大幅に増加しており、なかでもアジアはその中心地といえ、日本の食文化は、健康、安心・安全をキーワードに広がりを見せています。そうした状況のなか、日系の食品産業（ここで食品産業とは、農業企業、食品加工企業、外食産業、食品小売業等をさす）はどのような戦略のもと海外進出を行っているか研究を行っています。

【書籍出版・学術論文】

・「アジアの「和食」と日系外食チェーンの展開」鈴木隆・西野真由編『現代アジア学入門』芦書房、2017年4月

・「外食企業のグローバル化と海外進出戦略」『日系食品産業における中国内販戦略の転換』日本農業市場学会研究叢書 筑波書房、2015年4月

研究者からのメッセージ

主にアジアにおける農産物貿易、外食企業、食品加工業、農業企業のアジア地域への進出について調査・研究を行っています。日本の食品産業の海外進出は、1990年代以降中国を中心に大きく進展しましたが、2000年代以降は、中国におけるコスト上昇等の要因により、日本への原材料供給基地としての役割は低下し、消費者の購買力の向上にともない市場としての存在感を増しています。企業は新たな販売戦略の構築を求められています。

研究キーワード

農産物貿易 日系食品産業 販売戦略 中国 香港 台湾



三字名詞の日中対照研究

准教授 袁 曉 今

(エン ギョウキン)

外国語学部 中国学科

命名実験(例題)

【問題(中)】一座大约建于160年前的半圆形石桥，用于灌溉，中间有放水孔，长78米，高20米，这是一座技术水平极高的历史建筑物。

【問題(日)】約160年前に建てられた半円形の石橋。橋の中央に灌溉のための放水口があり、長さは78米、高さは20米。高い技術を誇る歴史的建築物。



【被験者から得た命名例(中)】

構成役割 【単孔橋】 【圓孔橋】 【石拱橋】

形式役割 【圓拱橋】 【半月橋】 【扇形橋】

【箕面橋】 【古石橋】 【万年橋】

目的役割 【水道橋】 【潤田橋】 【灌溉橋】

主体役割 なし

【被験者から得た命名例(日)】⇒ 調査中

研究シーズの内容

現代中国語の「語構成論」「語彙意味論」、中でも「三字名詞」が主な研究分野である。

中国語の三字名詞の語構造と意味構造の規則性について、言語使用者の認識度を測定するため、三字語の命名実験を行い、これを分析した。一方、日本語にも三字名詞は多数あり、語彙意味における日中両言語の類型を見るため、今後、日本語においても、三字語の命名実験を行いたい。これらの実験結果から、同じ指示物に対し、中国語と日本語との間での「クオリア構造」の異同を対照したい。

「クオリア構造」は名詞分析に有力な考え方である。複合名詞の修飾部は中心部の「クオリア構造(その名詞を説明する四つの性質)」のどの性質を特定しているかを考察することで、その名詞の意味構造を解明できる。例えば、「瓦煎餅」「海老煎餅」「鹿煎餅」「揚げ煎餅」においては、修飾部の「瓦」「海老」「鹿」「揚げ」はそれぞれ、中心部「煎餅」の「形式(外観)」「構成(主原料)」「目的(餌)」「由来(製法)」という四つの性質を特定していると言える。

研究者からのメッセージ

現代中国語学においては、「語」の研究は「文」の研究ほど盛んではない。「名詞」研究もほかの品詞に比べ、乏しいといえる。また、「三字語」研究については、中国では「対を良しとし、偶を尊ぶ」という通り、「二字語」研究ほど重視されていない。

しかし、近年、新語をはじめ、三字語の台頭が顕著に見られ、その重要性は増している。この研究分野を今後、さらに深化させるべく、「三字名詞」研究に注力したい。

研究キーワード

語構成論 語構造 クオリア構造

三字名詞 日中対照研究



戦後台湾の文学史を通俗の視点から捉え直す

准教授 張 文 菁

(チョウ ブンセイ)

外国語学部 中国学科



研究シーズの内容

専門分野は台湾文学です。1895年から1945年までの日本植民統治を経験した台湾が、どのように戦後初期から中国語の図書市場を構築したかについて、通俗小説を軸に研究しています。

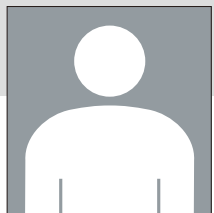
作品の出版や流通をめぐる、作者・読者・貸本屋・文壇・メディア・市場・文化政策など、多角的な視野から分析することで、従来の文学史を再解釈しています。

研究者からのメッセージ

戦後の台湾は、中華民国体制下で「脱日本化」、さらに中華文化圏への再編入を果たしました。その間に行われた日本の植民地時期に対する再評価は、台湾の歴史的脈絡から振り返って考察することが重要です。日本の植民地だった台湾の戦後の歩みについて、ご理解いただくお手伝いができると思います。

研究キーワード

中国語圏の通俗小説 台湾文学 中国近現代文学



現代中国語文法、日中対照言語学、中国語教育

准教授 楊 明

(ヨウ メイ)

外国語学部 中国学科

研究シーズの内容

主として現代中国語に関する言語学で、特に認知言語学のパラダイムで現代中国語の語彙・文法を中心とし、日本語との比較研究も視野に入れた研究を行っています。

これまでは、中国語における動詞や可能表現や結果構文を中心に研究を行ってまいりました。現在、主に取り組んでいる研究課題は下記のとおりです。

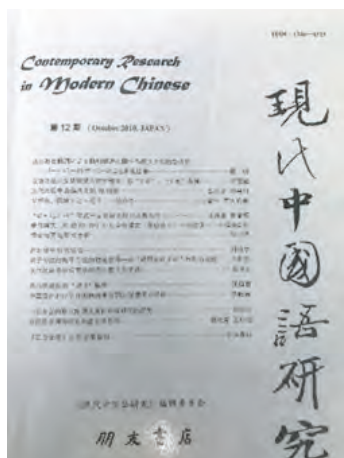
- 中国語の二重主語構文に関する共時的・通時的な研究
- 中国語の把構文に関する語用論的な研究
- 中国語の文末語気助詞「了2」に関する語用論的な研究

研究者からのメッセージ

本学の中国学科では、学生が中国語を専攻として学んでいます。学生が中国語や中国語圏の国々に関する知識を武器にして就職活動時や就職後の競争に勝ち抜かなければなりません。そのような学生に中国語の文法や語彙が実際にどのように使われているのかについてわかり易く且つ正確に解説できるように、日々研究を重ねてきました。

研究キーワード

言語学、外国語教育、中国語学



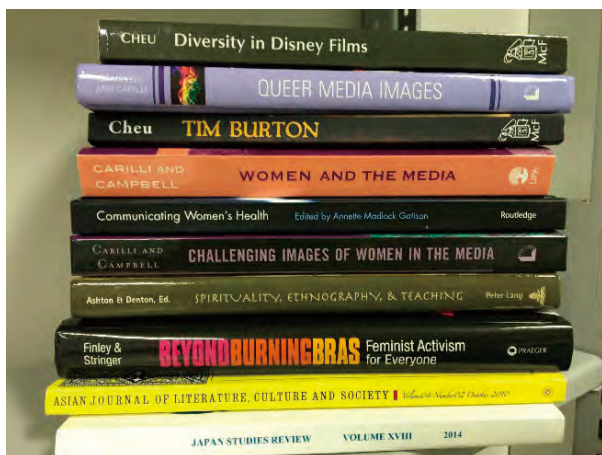


文化、人間関係、ジェンダー研究

教授 秋田 貴美子

(アキタ キミコ)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

女性学、文化人類学の領域で主に日本の文化と人間関係を研究している。日米文化、メディア、マンガ・アニメ、ハリウッド・ディズニー映画、家庭内外の女性の役割に関する研究論文がある。文化的価値観、偏見、差別はどのように生まれ、人の考え方、生き方、人間関係をいかに影響するのかについて研究している。

単著 “The transgender super nanny,” Intersectional Media, Lexington Books, 2021

単著 “Japanese women’s suicide and depression,” Communicating Women’s Health, Routledge, 2016

共著 “Mixing man and monkey in Planet of the Apes,” Tim Burton, McFarland & Co., 2016

単著 “Queer male TV commentators,” Queer Media Images, Lexington Books, 2013

研究者からのメッセージ

米国の大学・大学院 (Saint Mary’s College 及び University of Central Florida にて) で合計13年間教鞭を執り (Tenured Associate Professor)、在米期間は合計20年。2014年帰国以降、国際関係学科にて英語科目を担当。米国では Communication 科目担当 (異文化、ジェンダー、非言語、家族、マンガ・アニメ学)、大学院セミナー担当 (国際 Com、異文化 Com、研究方法論)。

研究キーワード

ジェンダー 日米文化 人間関係 メディア マンガ アニメ



アフリカを中心とした異文化理解の研究と実践

教授 亀井 伸孝

(カメイ ノブタカ)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

これまで、おもにフランス語圏の西・中部アフリカの九つの国々にて、狩猟採集社会の子どもと遊びの調査 (写真上)、手話に関するフィールドワーク (現地調査) などを行ってきました。

大学では、異文化理解の基礎理論である文化人類学、アフリカ地域に関する講義などを担当するほか、フィールドワークの技法を学生たちと共有する社会調査実習に取り組んでいます。

多文化・多言語の共存という観点から、外国人や障害をもつ人々を包摂する社会を目指すことに関心があり、研究テーマにするほか、大学では障害学生支援の業務にも取り組んできました。

【研究テーマ】狩猟採集社会の文化人類学的研究／ろう者と手話に関する人類学的研究／アフリカ子ども学／遊びの人類学 ほか

【教育上の取り組み】社会調査実習／映像制作実習／旅の写真展／食文化で学ぶアフリカ／バナナ料理教室 (写真下) ほか

研究者からのメッセージ

「学問は、足で歩き、手を動かしながらするもの」という側面を大切にしています。学生たちにも、本やウェブの情報だけに頼るのではなく、現地を訪れ、自分の手で写真や動画を撮り、あるいは実際に料理を作りながら世界の食文化への理解を深めるなど、体験に基づいた学びを推奨しています。市民のみなさんにも、体験に基づいた異文化理解のスタイルを提案していければと願っています。

参考サイト: 「亀井伸孝の研究室」 <http://kamei.aacore.jp/>

研究キーワード

文化人類学 アフリカ地域研究 フィールドワーク 子ども 手話

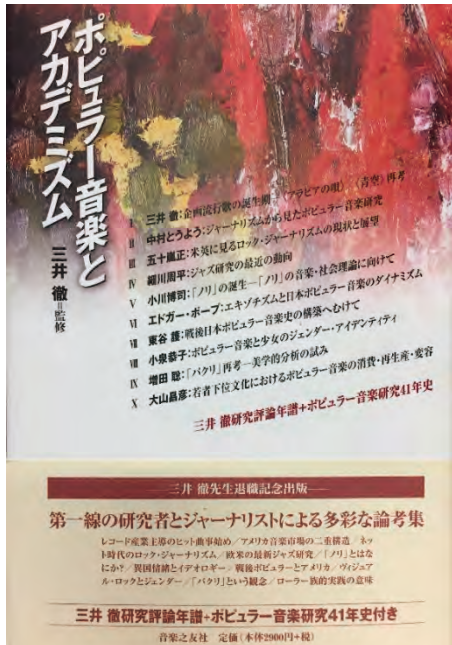


音楽におけるエキゾチズム

教授 ポープ・エドガー・ライト

(ポープ エドガー ライト)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

音楽におけるエキゾチズム（異国情緒・異文化情緒）

戦前・戦時中日本のポピュラー音楽における大陸アジアの表象

明清楽（日本における中国系音楽）の明治時代から昭和初期にかけての変遷、日本のポピュラー音楽との関係

日本と欧米の音楽における中東に対するエキゾチズム

戦前日本のジャズ、日本で流行したアメリカの「ジャズソング」

研究者からのメッセージ

研究キーワード

芸術学 美術史 ポピュラー音楽史 文化人類学 民族音楽学

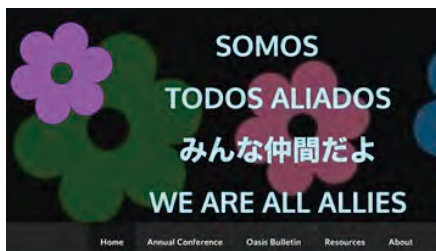


多様なコミュニティの子どもたちへのメンタルヘルス支援

准教授 カールソン・アンドレア

(カールソン・アンドレア)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

多様性が理解され、受け入れられる社会にはまだなっていません。このことは、LGBTQ+ や多文化をルーツとする若者など、多様な背景やアイデンティティを持つ子どもや若者の心の健康に影響を与える可能性があります。そのため、私は、あらゆる年齢、民族、宗教、能力、障害、性別、性的指向を持つ人々を包括し、多様性を認める学校、コミュニティ、職場を作るにはどうしたらよいかを知りたいと考えています。現在、私は以下の分野について研究しています。

△日本における多様なコミュニティの子ども・若者のメンタルヘルスニーズ。

△日本における多様なコミュニティの子ども・若者の精神的・社会的支援の利用可能性。

△LGBTQ+ を自認する子どもや若者を支援するための学校の方針と実践。

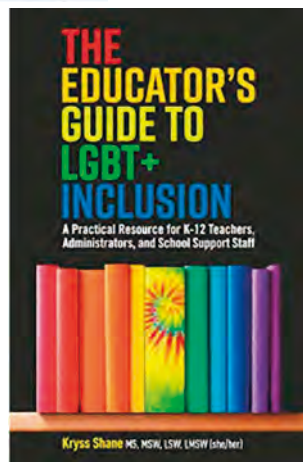
また、疎外されたコミュニティの若者が集まり、経験を共有し、仲間関係を築くための安全な空間として、空き家となった古民家を利用することを調査しています。

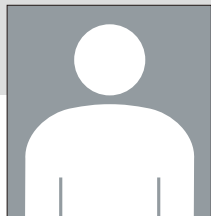
研究者からのメッセージ

研究に関連して、私は学生、精神保健の専門家、ソーシャルワーカー、教師などとともに、毎年いくつかの多言語セミナー、ワークショップ、シンポジウムのコーディネートをしています。これらのイベントは、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が、子どもや若者の生活に影響を与えるようなトピックについて、つながりや協力関係を築き、専門知識や経験を共有し、情報やリソースを交換するためのプラットフォームとなることを主な目的としています。

研究キーワード

ダイバーシティ、子ども、若者、多文化、LGBTQ+、メンタルヘルス支援、ソーシャルサポート





ポルトガル語を学んで、使って、役立てて

准教授 **高坂 香津美**

(コウサカ カツミ)

外国語学部 国際関係学科



リノモ藤が丘駅で高坂が撮影した写真



<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol62/>

外務省ホームページより引用

(2017年10月13日最終アクセス)

研究シーズの内容

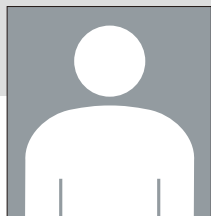
日本に暮らす外国人住民の中で第5番目に位置づけられるブラジル人に着目し、多文化化する日本社会における外国語としてのポルトガル語教育をテーマに研究しています。こうした中、日本人の高齢化とともに、外国人住民にも高齢化の波が押し寄せています。そこで、日本社会と同様、多文化化する介護現場において、日本人介護従事者がブラジル人介護利用者にサービスを提供する際、また、ブラジル人介護従事者が日本人介護利用者にサービスを提供する際、どのような知識を身につけておくべきかを探ることが現在の私の関心事です。

研究者からのメッセージ

これまで様々な学部・学科の学生に対するポルトガル語教育を担当してきました。その中で感じるのは、地域に多くのブラジル人が暮らしているものの、街で突然、声をかけることは不自然であるため、実際にブラジル人と会う、あるいは、ポルトガル語を用いるというある種特別な機会を設け、学生のポルトガル語の学習動機を高めることが教員の果たす役割の一つであるかもしれないということです。そこで、多文化化する介護現場を学生とともに訪問できたらと思います。

研究キーワード

ポルトガル語教育 多文化共生 外国人住民の高齢化



アイルランドにおける文化ナショナリズム

准教授 **福岡 千珠**

(フクオカ チズ)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

社会学的観点から、アイルランド共和国および北アイルランドにおける文化ナショナリズムの研究をしています。近年はとりわけ後者を主に対象としています。北アイルランドでは長く紛争が続いていましたが、1998年にベルファスト合意が成立しました。その後の社会では、対立する考え方や文化に「価値の同等性 (parity of esteem)」を認めることが目指されました。しかし、紛争が続いていた社会では、「文化」は政治と不可分であり、他者の文化の「価値」を認めることは容易なことではありません。また、「文化」をめぐる議論が、北アイルランドの自治政府の存続をも揺るがす事態となっています。本研究では、北アイルランドの「文化」をめぐる言説を分析するとともに、異なるものの見方を共有する手段としてのメディアの多様化にも焦点を当てています。

写真：ストーモント国会議事堂

研究者からのメッセージ

社会学的な観点から、アイルランドの文化ナショナリズムを研究しています。とくに近年は、和平成立後も変化を続けている北アイルランド社会に注目しています。

研究キーワード

社会学 ナショナリズム アイルランド



高度経済成長下のベトナム農村の研究

准教授 **藤倉 哲郎**

(フジクラ テツロウ)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

もともとベトナムの労働問題の研究をしていました。企業・労働調査を繰り返すなかで、工場ではたらく不熟練青年労働者と農村社会とのつよい結びつきに気づかされました。現在、就労と家計に着目して農村調査を実施しながら、近年、変化の著しいベトナム社会を理解することをめざしています。

【主な著作】

- ◆『ベトナムにおける労働組合運動と労使関係の現状』
(2017) 東海大学出版部
- ◆「高度経済成長下ベトナムにおける新しい労働者層の形成と展望：メコンデルタ地方都市における外資企業の事例から」(2018)
(荒神衣美編著『多層化するベトナム社会』(アジア経済研究所 所収))

【現在の研究課題】

「高齢化期ベトナム農村での非農業就労による世帯・地域社会への影響と組織・制度の役割 (科学研究費助成事業：若手研究)」

研究者からのメッセージ

経済成長著しいベトナムも、とくに農村での高齢化が進むなど、日本とも共通の課題を抱えています。環境・社会・経済など様々な側面からの社会の丸ごと理解を目指してきた農村研究の経験が、日本の農村問題や地域振興の課題にも役立てられればと願っています。

研究キーワード

ベトナム地域研究 農村社会経済論 労働問題



国際投資仲裁（企業・投資先外国政府間の仲裁）

准教授 **山下 朋子**

(ヤマシタ トモコ)

外国語学部 国際関係学科



研究シーズの内容

1. 国家間法としての一般国際法規則の現代グローバル法秩序への適用 (科学研究費若手研究 B：2017 年 -2020 年)
2. 現代グローバル法秩序における投資家の慣習法規範形成に与える役割 (2016 年度サントリー文化財団「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」)

【主な研究内容】

- ・外交的保護制度の理論と実際 (2007- 現在)
- ・国際人権法と国家責任法との交錯—外交的保護制度の新展開の可能性 (2009-2012)
- ・主権概念の再構築による「法的」人道的介入—国際司法裁判所における個人の保護— (2013-2014)
- ・投資紛争における損害と責任の国際公法的評価 (2014- 現在)

研究者からのメッセージ

私が現在注目している国際投資仲裁は、企業が投資先の外国政府を直接相手取り、国際投資紛争解決センター (ICSID) 等の国際的な場で仲裁を行うという制度です。国際法の中では新しい制度で、2000 年以降に爆発的に利用されるようになりました。ものづくり県と呼ばれる愛知県では、多くの企業が海外との取引を行っているため、今後このような制度が積極的に活用されていくことになるでしょう。

研究キーワード

国際法学 国際公法 外交的保護 管轄権 国際投資



教授	池 田 周
	(イケダ チカ)
外国語学部	英米学科

現在の研究課題

1. 小学校英語教育における音韻認識および初期リテラシー指導の意義と方法 2. 小・中・高等学校の英語科教員養成と研修のあり方 3. 英語リーディングにおけるテキスト中の論理関係の把握

教授	石 原 覚
	(イシハラ サトル)
外国語学部	英米学科

現在の研究課題

古英語の聖書的表現に関する研究

准教授	阿 南 東 也
	(アナミ ハルヤ)
外国語学部	英米学科

現在の研究課題

アメリカ政治外交、政治学

准教授	佐 藤 雅 哉
	(サウ マサヤ)
外国語学部	英米学科

現在の研究課題

アメリカ現代史（アラブ・イスラエル紛争、国際女性運動）

講師	小 倉 悠 輝
	(オグラ ユウキ)
外国語学部	英米学科

現在の研究課題

アメリカ文学 モダニズム詩・現代詩

教授	野 内 美 子
	(ヤナイ ハルコ)
外国語学部	ヨーロッパ学科フランス語圏専攻

現在の研究課題

EU における通貨・財政政策の改革

准教授	伊 藤 滋 夫
	(イトウ シゲオ)
外国語学部	ヨーロッパ学科フランス語圏専攻

現在の研究課題

1. 中世後期・近世フランスにおける地方財政、とくに直接税徴税システムの形成 2. 18世紀フランスにおける公債制度と金利生活者の社会的様相 3. 18世紀フランスにおけるフィナンシエ（財務官僚・金融業者）の人脈関係

准教授 **原 潮 巳**

(ハラ シオミ)

外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻

現在の研究課題

1. マルセル・ブルースト 2. 第3共和政下の小説と音楽 3. ベル・エポックの文化

教授 **江 澤 照 美**

(エザワ テルミ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻

現在の研究課題

日本における外国語としてのスペイン語教育 (ELE 教育) と効果的なスペイン語教授法の追求、MCER 及び PCIC・NRE 研究

教授 **小 池 康 弘**

(コイケ ヤスヒロ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻

現在の研究課題

1. キューバ現代政治 (ナショナリズムと社会主義の関係を軸に 1990 年以降のキューバ社会の動態および革命体制の継承と変容について) 2. ソフトパワー外交 (キューバを中心に) 3. ラテンアメリカにおける社会発展と民主化、あるいは国家と社会の関係 4. 海外 (特にメキシコ) での長期インターンシップを通じた人材育成

講師 **田 邊 まどか**

(タナベ マドカ)

外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻

現在の研究課題

1. スペイン黄金世紀 (16, 17 世紀) 文学
2. ルイス・デ・ゴンゴラ

教授 **櫻 井 健**

(サクライ タケシ)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

現在の研究課題

1. 言語変化 2. 言語接触

教授 **平 井 守**

(ヒライ マモル)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

現在の研究課題

1. ヴェルター・ベンヤミンのモノドロギーについての研究 2. 「秘められたドイツ」とゲオルゲ・クライスについての研究 3. マックス・コメレルの批評活動についての研究

教授 **山 本 順 子**

(ヤマモト ジュンコ)

外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

現在の研究課題

1. 表現主義とダダイズム 2. 知覚変容論 3. メディア論

准教授	杉原 周治
	(スギハラ シュウジ)
外国語学部	ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

現在の研究課題

1. 基本権競合論 2. 放送法制と放送の自由 3. インターネットと法

准教授	四ツ谷 亮子
	(ヨツヤ リョウコ)
外国語学部	ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻

現在の研究課題

・地域活性化のプラン策定におけるパフォーミングアーツの可能性について
・日独における劇作品の翻訳と俳優の身体の変遷について

准教授	小座野 八光
	(コザノ ヤウコウ)
外国語学部	中国学科

現在の研究課題

1. 大恐慌期・第2次大戦期前後のジャワ村落社会の変容プロセス 2. 第2次大戦期との関わりにおける東南アジア地域社会研究

教授	東 弘 子
	(アズマ ヒロコ)
外国語学部	国際関係学科

現在の研究課題

社会制度の中での言語学。日本社会における情報保障と「日本語」の権力に関する考察。新しいメディアにおける表現の日本語教育への活用の研究。とくに海外での日本ポップカルチャー作品（アニメ・マンガ等）の受容の中での言語と文化。

教授	木下 郁夫
	(キノシタ イクオ)
外国語学部	国際関係学科

現在の研究課題

1. 外交関係 2. 国際ガバナンス 3. 国際仲裁

教授	高橋 慶治
	(タカハシ ヨシハル)
外国語学部	国際関係学科

現在の研究課題

1. キナウル語記述研究 2. チベット語構文論

教授	半谷 史郎
	(ハンヤ シロウ)
外国語学部	国際関係学科

現在の研究課題

日本人の見たソ連（特に1956年の日ソ国交回復後の戦後期）

准教授 矢 野 順 子

(ヤノ ジュンコ)

外国語学部 国際関係学科

現在の研究課題

ラオスの国民国家建設と在外ラオス人

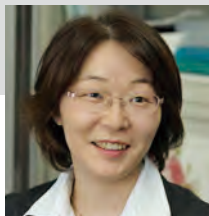
准教授 山 口 雅 生

(ヤマグチ マサオ)

外国語学部 国際関係学科

現在の研究課題

1. 最低賃金の政策効果 2. 長期停滞と経済成長 3. 金融政策と為替レート
の動向

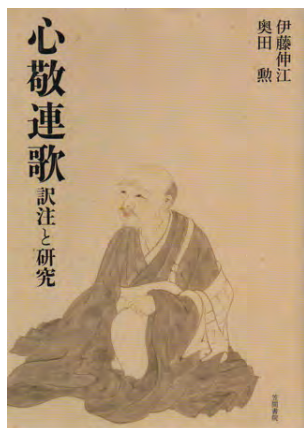


愛知県の文学

教授 **伊藤 伸江**

(イトウ ノブエ)

日本文化学部 国語国文学科



芭蕉句碑
「夏の月御油よりいでて赤坂や」
(愛知県豊川市赤坂町)

研究シーズの内容

古来、愛知県は東海道の要地として、多くの文学者たちが旅をしました。古くは在原業平から、西行も、宗祇も、そして、芭蕉もその足跡を記しています。東海道のみならず、三河国から知多半島、渥美半島経由で伊勢国に至る道筋を連歌師や俳人が旅をし、水辺の自然を題材に豊かな文学が生まれています。旅に生きた歌人、連歌師、俳人たちの残した紀行文や和歌、連歌、俳諧作品から、尾張国、三河国の各地の先人の営みを探っています。

【書籍出版】

共著『心敬連歌 訳注と研究』（平成 27・笠間書院）平成 28 年度文部科学大臣賞受賞

共著『中世日記紀行文学全評釈集成 第 7 巻』（平成 16・風間書房）等

研究者からのメッセージ

現代の日本文化の源流であり、今も変わらぬ価値を持つ古典の魅力を引き出し、伝えることを目的として、カルチャーセンターなどの講座で、百人一首や徒然草についてお話しています。古典の思想を読み直すが、個人にとって、新たな明日を生きる力になるようにと願いお話しています。また、愛知のさまざまな地域の自然をテーマにした先人の文化の豊かな蓄積に改めて目を向けることで、地域への愛着と誇りを共有することも素晴らしいと思っています。

研究キーワード

和歌・連歌・俳諧・俳句 心敬 宗祇 芭蕉 紀行 日記



日本の説話文学

教授 **中根 千絵**

(ナカネ チエ)

日本文化学部 国語国文学科



研究シーズの内容

1. 『今昔物語集』 諸本の成立の様相
2. 医事説話の注釈
3. いくさの物語の研究

上の写真は、『今昔物語集』に由来の話が載る愛知県豊川市にある犬頭神社です。

下の写真は、浄瑠璃姫物語に関連する愛知県岡崎市の碑です。

説話文学は、こうした地域の伝承に基づいた話も多くあります。

こうした観点から、初学者向けの本『愛知で知る読む日本文学史15講』（三弥井書店、二〇一七年九月刊）を刊行しています。

研究者からのメッセージ

『今昔物語集』などの説話文学を専門にしています。講演やレクチャーなどお役にたてるかと思います。

研究キーワード

日本文学 中世説話文学 医書と説話 17世紀の中世文学受容

談話論的物語論的品詞分類

教授 福 沢 将 樹

(フクザワ マサキ)

日本文化学部 国語国文学科

研究シーズの内容

学校の国語の時間に習った品詞分類は、抜本的な見直しが求められています。特に「ねえ、ちょっと」のような呼びかけや、「んー」のようなあまり意味のなさそうな、言葉のような言葉でないような存在については未開拓の領域です。

同じ「ちょっと」という言葉であっても、用法によってさまざまな品詞へと転成します。

話し手・聞き手・傍観者たちの間で談話が繰り広げられる中で、談話の開始・継続・終了といった側面から品詞を見直してみましょう。また日常会話も「物語」を語っているという側面を持つことから、文学論的な視点も合わせて考えてみましょう。

研究者からのメッセージ

学校で習ったことは、そのままにしておいては勿体ないです。卒業後も一生かけて【個人的に】アップデートし続け、【自分だけの】ものを創り上げていくのがよいと思います。ことに日常の言葉というものは、素人でも深い考えができそうに思えないでしょうか。私の研究が何かのヒントになればと思います。

研究キーワード

文学 各国文学・文学論 日本語学 物語論 文法

日本近現代詩に探る「不安」と「生」

教授 宮 崎 真 素 美

(ミヤザキ マスミ)

日本文化学部 国語国文学科

研究シーズの内容

戦争、病い、不況、災害など、社会事象や自然現象による「不安」は、人にさまざまな表現をもたらしてきました。自身を取り巻く不安な事象を、人はどのように内面化し、相対化し、また、乗り越えてゆこうとするのか、その際の表現行為は、人にどのような意味や力をもたらすのか、日本の近現代詩に象られた「不安」から考えます。

【関係著書】

『鮎川信夫研究—精神の架橋—』(2002 日本図書センター)
『戦争のなかの詩人たち—「荒地」のまなざし—』(2012 学術出版会)
『言葉の文明開化』(共著) (2007 学術出版会)
『コレクション・都市モダンイズム詩誌〈第13巻〉アルケイユクラブの構想』(編著) (2010 ゆまに書房)
『コレクション・都市モダンイズム詩誌〈第30巻〉戦後詩への架橋〈2〉』(編著) (2014 ゆまに書房) ほか

研究者からのメッセージ

「不安」は、私たちの「生」の感覚を揺るがしますが、「不安」に基づく表現を追究することは、同時に「生」の諸相をあぶり出すことにもつながります。作品の中のたった一語に注がれた眼差しから、世界が大きく広がってゆくような対象との向き合い方をおして、このテーマを捉えてゆきたく思います。

研究キーワード

文学 日本文学 近・現代詩



漢文学、中国古典学、中国中世の学術

准教授 **洲 脇 武 志**

(スウキ タケシ)

日本文学部 国語国文学科

研究シーズの内容

〈専門〉

中国南北朝隋唐時代の学術

〈主な研究課題〉

南北朝隋唐時代における学術（主に礼学）の展開とその継承
儒教における服喪儀礼の理論とその実際の運用
『漢書』及び『文選』の注釈の受容（含む日本）

〈主な書籍〉

- ・単著『漢書注釈書』（遊学社、2017年）
- ・共訳『全訳顔氏家訓』（汲古書院、2018年）
- ・共訳『中国史書入門 現代語訳 隋書』（勉誠出版、2017年）
- ・共訳『朱子語類』訳注 卷八四～卷八十六』（汲古書院、2015年）

研究者からのメッセージ

先人は漢文で書かれた中国の書籍から多くの知識を学び、それらを取捨選択したりアレンジしたりして自国の文化を発展させてきました。中国の文化を知ること、より深く日本文化を知ることができるのではないのでしょうか。また、先人は漢文で数多くの文章を書いてきました。漢文で書かれた文書や碑文なども積極的に読解し、郷土史などにも貢献したいと考えております。

研究キーワード

唐代 経学 儒教 『論語義疏』『漢書』『隋書』『文選』



平安時代の皇女と王権の研究

准教授 **本 橋 裕 美**

(モトハシ ヒロミ)

日本文学部 国語国文学科

研究シーズの内容

平安文学における女王と王権についての総合的研究

- ・斎宮の文学史（2011 - 2016）
- ・皇女・女王と王権に関する文学史的研究（2014 - 2016）

研究者からのメッセージ

平安文学、特に『源氏物語』を中心に研究しています。平安文学には、たくさんの女性たちが登場します。天皇家の姫君である「皇女・女王」はとりわけ身分が高く、さまざまな役割を担っていました。政治に利用されることがあっても、気高く生きた彼女たちの姿を物語文学を読むところから分析します。女性の在り方を考える上でも、皇女・女王の活躍を知っていただけたら幸いです。

研究キーワード

斎宮 中古文学 日本文学



無頼派を中心とした昭和文学

准教授 若松 伸哉

(ワカマツ シンヤ)

日本文化学部 国語国文学科

研究シーズの内容

- ①石川淳や太宰治を中心とした昭和初期から戦時下の日本近代文学研究
- ②虚構としての文学作品と現実の同時代社会の関連についての考察
- ③〈不安〉から照らす〈生〉の諸相についての考察

主に昭和期の文学を中心として、虚構である文学作品と現実の社会との関連を考えており、文学作品が人間社会をどのように虚構面で支えているか、ということを研究テーマとしています。それはまた人間の〈生〉という根源的な局面に文学がどのように影響を与えるかという問題でもあると考えています。

写真上：昭和初期の文芸雑誌『作品』

写真下：文芸雑誌『文学界』創刊号（昭和8年10月）目次

研究者からのメッセージ

昭和期の日本近代文学を専門としており、太宰治や石川淳といった作家に関しての講演や、文学研究から見た国語教科書についての講演などをこれまでも行ってきており、こうした活動を通して地域に貢献できると考えています。また、本学において舞台演出家をお招きして「不安と生」をテーマにした学術講演会も企画しました。

研究キーワード

日本文学 日本近代文学 昭和文学 石川淳 太宰治

愛知・東海地域における歴史文化遺産の探究

教授 上川 通夫

(カミカワ ミチオ)

日本文化学部 歴史文化学科

研究シーズの内容

日本史、特に中世（平安時代後期、鎌倉時代、室町・戦国時代）の歴史について、地域史や民衆生活史に重点を置いて研究しています。世界史のなかの日本中世民衆生活史という視野で、愛知・東海地域の歴史を探っています。

その場合、古文書や古記録といった史料に基づいて、歴史上におけるナマの声を探るよう努めています。『愛知県史』『瀬戸市史』『三重県史』『亀山市史』などの編纂に携わってきました。地元にはほかにも自治体史がとても充実しています。それらをじっくり活用することが大事です。また、寺院などで調査することも必要で、愛知ないし東海地域の豊かな文化遺産をさらに見出そうとしています（左下写真は学生との古文書調査）。

専門書として『東アジア世界における日本中世仏教』（2012年）などがありますが、上に挙げた自治体史のほか、『国境の歴史文化』（編著、2012年）が直接関係します。

研究者からのメッセージ

地域の民衆生活史には、先人たちが苦闘の歩みの中で見出してきた、生きる希望とその継承・発展を後世に託す思いが含まれています。それらを埋没させず、しっかり聞き取る必要があります。歴史を考えることは地道かつ主体的な知的創造活動です。それは趣味や懐古ではなく、人間存在の本質的な理由をヒューマンな見地から探究する営みです。身近な歴史にそれらを実感することは、私たちの未来を理想に近づける第一歩でしょう。

研究キーワード

史学 日本史 中世史 地域史 民衆史 仏教史



列島の外からとらえる日本の憲法の過去と現在

教授 川畑 博昭

(カワバタ ヒロアキ)

日本文化学部 歴史文化学科



スペイン領グラン・カナリア島テルデ市「ヒロシマ・ナガサキ広場」にある日本国憲法9条の碑

研究シーズの内容

【主たる関心領域】

1. 君主制（天皇制）と共和制（大統領制）からの主権論
2. 軍事主義との対抗のなかでの平和主義の比較憲法史
3. 法の移植と法多元主義をめぐる歴史と理論

【これまでの研究】

- ・ラテンアメリカにおける共和制と大統領制の歴史と意義に関する比較憲法研究
- ・外国からみた天皇制の意味
- ・ラテンアメリカにおける開発のための法に関する歴史と理論
- ・スペインの君主制と日本の天皇制
- ・近代以前の人民主権に関する憲法史研究

【以上を踏まえた、これからの研究】

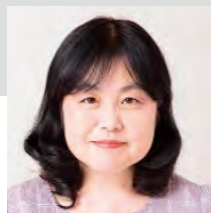
- ・平和主義と日常の憲法意識
- ・土着性（人間と自然）と憲法の関わり

研究者からのメッセージ

ペルーやブラジルを中心とした中南米の共和制の国々から憲法の研究を始め、イベリア半島の国々を研究の対象に含めながら、憲法をめぐる過去と現在を日常から発して考えてきました。最近では少しずつ、これまでの縁を頼りに、イベリア世界とは異なる地にも目を向けることを考え始めています。日頃から、日本列島の外に出て、そこで得られる眼を大切にしたいと思っています。「同じ」ではなく「違う」ことを大切にする発想から、「より良い社会」への展望は拓けると思うのです。

研究キーワード

憲法 大統領制 天皇制 平和主義 主権 法多元主義



日本の古代史

教授 丸山 裕美子

(マルヤマ ユミコ)

日本文化学部 歴史文化学科



研究シーズの内容

1. 日本古代と中国唐の制度・文化の比較研究
2. 正倉院文書と敦煌・トルファン文書についての研究
3. 平安時代の貴族社会についての研究
4. 愛知・東海地方の古代史研究

【書籍】

- ・単著『正倉院文書の世界』（中公新書、2010年）
- ・共著『日本の歴史 08 古代天皇制を考える』（講談社学術文庫、2009年）
- ・単著『清少納言と紫式部』（山川出版社、2015年）
- ・共著『愛知県史 通史編 原始・古代』（愛知県、2016年）

【新聞など】

- ・『朝日新聞』土曜版 be に4週ごとに「表裏の歴史学」を連載中（2015年10月～）

研究者からのメッセージ

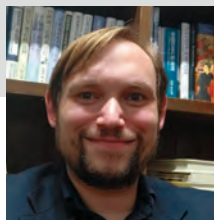
日本古代史、7世紀～11世紀（飛鳥・奈良・平安時代）の制度や文化を中心に研究しています。

日本古代史全般、愛知・東海地域の古代史や、古代天皇制について、また正倉院文書から読み解く古代の生活、平安時代の貴族の日記（御堂関白記など）の講読などをテーマにした講演やレクチャーに対応可能です。

研究キーワード

日本古代史 律令制 神祇祭祀 正倉院文書 天皇制



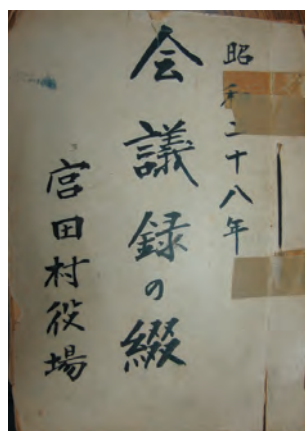


日本近現代史、地方史研究、市町村合併史

准教授 **クラマー スベン**

(クラマー スベン)

日本文化学部 歴史文化学科



研究シーズの内容

市町村合併を中心に日本の地方行政区画・自治体の再編成の歴史について研究しています。市町村合併の中で住民の対応に特に興味があります。市町村首脳部と住民の関係、地元政治家の動向、合併をめぐる賛否の背景と展開などについて調べています。

住民の合併賛否では、経済的な利害関係だけで十分に説明できない事例があります。そこで「住民帰属意識」(ローカル・アイデンティティ等)を手掛かりに住民の合併への対応を分析しています。

【主な研究業績】

単著『昭和の大合併』と住民帰属意識』(九州大学出版会、2020年)

研究者からのメッセージ

住民帰属意識と言えば、地名が重要な要素の1つです。地名をめぐって自分の研究では福岡県筑紫郡太宰府町(現・太宰府市)と奈良県天理市の事例を取り扱いました。今年の4月に愛知に来たばかりです。地名に関して愛知・東海地方での新しい出会いをお楽しみにしています。

研究キーワード

日本史 日本近現代史 地方史研究



学問と戦争・社会との関係、中国地誌

准教授 **柴田 陽一**

(シバタ ヨウイチ)

日本文化学部 歴史文化学科



著書『帝国日本と地政学』の表紙



2017年8月、建設中の蓮塘口岸(国境検問所)
中央の川より左は香港、右は広東省深圳市

研究シーズの内容

専門は人文地理学です。なかでも、①地理学史、②中国地誌を主に研究しています。

①これまで、近代の日本(植民地を含む)と中国において、地理学(者)が戦争や社会とどのように関わったのかを研究してきました。そのうち、アジア・太平洋戦争期における日本と満洲の地政学についての研究は、著書『帝国日本と地政学』(清文堂出版、2016年)にまとめました。現在は、地理学とその隣接分野を視野に入れて、日本と中国の比較研究に取り組んでいます。

②これまで、中国東北地方や華南地方でフィールドワークを行い、地方都市のアイデンティティ形成プロセス、都市部における学区再編と学校間格差、香港への越境通学児童の発生要因などを論じてきました。今後は、北京大都市圏の空間構造の再編について調査する予定です。

研究者からのメッセージ

日本のことを理解するためには、もちろん日本の歴史・社会・文化などを必死に勉強しなくてはなりません。しかし、それだけではなく、比較の視点を持つことが、より深い日本理解を可能にします。

日本で当たり前になっていることは、他の国でも当たり前でしょうか。もしそうでないなら、その理由は何でしょうか。人文地理学はこういう視点を大切にしています。

研究キーワード

人文地理学 地理学史 中国地誌 地政学 満洲



パキスタン・アフガニスタンの考古学

准教授 **内 記 理**

(ナイキ サトシ)

日本文化学部 歴史文化学科



パキスタンのダルマラジカー寺院址



パキスタンの
ジョーリアーン寺院址

研究シーズの内容

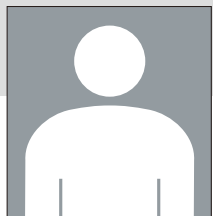
主にパキスタンやアフガニスタンの歴史と文化の検討を通じた、ユーラシア大陸の東西文化交渉の歴史を研究しています。仏教の要素が深く浸透する日本の歴史文化とは何なのかを考える上で、仏教が興隆したパキスタン・アフガニスタン地域の歴史や文化の検討は不可欠です。研究の手法として、物質資料に基づく考古学の方法論を採用しています。

研究者からのメッセージ

パキスタンやアフガニスタンは、治安が悪く、地理的にも遠く離れ、イスラーム教が信仰される点で文化的にも日本からは遠い存在ですが、日本の歴史や文化を考える上で無視することのできない地域です。日本の社会に、この地域の歴史や文化を知ることの重要性を伝えていきたいと思います。

研究キーワード

考古学 東西文化交渉史 ガンダーラ



資源変動への地域の対応に関する研究

准教授 **服部 亜由未**

(ハトリ アユミ)

日本文化学部 歴史文化学科



日記を読み解くことで、当時の様子が見えてきます。
(服部の家に残っていた大正期の日記)



「語り」も重要な資料です。
(東南海地震・三河地震の経験者への聞き取り調査風景)

研究シーズの内容

専門は歴史地理学です。
地域に刻まれたさまざまな歴史を、空間的展開も視野に入れて読み解いています。
特に、資源変動への地域や人々の対応について研究しています。史料や古地図、聞き取りや現地調査等から得られる情報を組み合わせ、その地域に何が起こったのか、どのように対応したのかを考えています。

また、学生とともに、フィールドワークを通して地域の魅力を探し、現代において歴史的な町並みをいかに保存、活用すれば良いのかといった問題に取り組んでいます。

研究者からのメッセージ

日本には、その土地もしくは遠く離れた結びつきのある土地の歴史を伝える史料が、各地に眠っています。同時に、消えていく史料があることも事実です。各地に残っている史料を、丁寧に読み解くことで新たな事実の発見にもつながります。史料や語りから見いだされる新たな地域像を読み解くことに貢献したいと考えています。

研究キーワード

人文地理学 歴史地理学

教授 井戸 聡

(イデ サトシ)

日本文学部 歴史文化学科

現在の研究課題

1. 地域社会における近現代化による変動と再構成についての社会学的把握
2. 都市―農村間の社会文化的関係についての構造的把握
3. 現代地域社会の人々の社会的な生についての社会学的把握

教授 樋口 浩造

(ヒグチ コウゾウ)

日本文学部 歴史文化学科

現在の研究課題

1. 日本近現代思想史
2. 東アジアから考える日本ナショナリズム論
3. 東アジア、国内各地の戦争遺跡の調査、掘り起こし



明治期における小学校理科の誕生

教授 **伊藤 稔明**

(イトウ トシアキ)

教育福祉学部 教育発達学科

初等教育施策を中心としてみた 1885 年の文部省

伊藤稔明

はじめに

本書において 1885 (明治 18) 年は教育現場から学校現場への移行時期である。この年、文部省第 32 号をもって教育令は改定された。教育令改定は、初等教育の諸法改正のなかで、町村人民の教育費負担軽減を目的として策定されたものである。

1885 年以前の日本は、西園庵令での膨大な事業支出を削減した津島財政改革のなかで、それ以前に打ち出さるような自然災害に連綿と影響を及ぼした。地方農村は凶作に苦しんでいた。これにより資本と労働の分離が加速し、農家の没落が進行した。このとき、農家の没落は、1885 年以前の産業革命がもたらしたものであり、地方農村の没落は、産業革命の結果である。地方農村の没落は、産業革命の結果である。地方農村の没落は、産業革命の結果である。

産業革命によって日本は近代国家へと変貌した。明治政府は、1872 年文部省令第 31 号をもって「学校令」を公布し、日本における初等教育を統一した。このとき、初等教育は、初等教育令によって規定された。初等教育令は、初等教育の諸法改正のなかで、町村人民の教育費負担軽減を目的として策定された。初等教育令は、初等教育の諸法改正のなかで、町村人民の教育費負担軽減を目的として策定された。

初等教育令は、初等教育の諸法改正のなかで、町村人民の教育費負担軽減を目的として策定された。初等教育令は、初等教育の諸法改正のなかで、町村人民の教育費負担軽減を目的として策定された。

本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。

本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。

本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。本書は、1885 年における文部省の初等教育政策のありかたを明らかにする。

研究シーズの内容

明治 10 年代の終わり、未曾有の経済不況のなかで、教育の再改正が行われました。その再改正教育令の実施策のなかで、初等教育の教科としての理科は誕生しました。松方財政進行のなかでの事象は経済的な視点なしには考察することができません。我国初等教育史上唯一、職業小学校を規定した「小学校及小学教場教則綱領」をはじめ、この時期には初等教育のなかに実業教育が台頭してきています。これらを背景に、小学校における理科が誕生してきた訳であるものの、そうした初等教育における実業教育の展開の背景は十分な説明がされていないので、ここを解明する研究を続けております。

研究者からのメッセージ

理科という教科とは、そもそも何なのか、について考察していきたいと考えています。

研究キーワード

理科教育史



明治期の伝統的地場産業と実業教育機関の関係

教授 **内田 純一**

(ウチダ ジュンイチ)

教育福祉学部 教育発達学科

研究対象の地域・産業・学校

①地元産業界の近代化に貢献し、現在に至るまで存続しているもの

瀬戸陶器学校	愛知県	窯業
大湊工業補習学校	三重県	造船業
会津漆器徒弟学校	福島県	漆工
本郷窯業徒弟学校		窯業
桐生織物学校	群馬県	繊維業
伊勢崎染織学校		繊維業

など

②大きな期待を受けながらも、短い期間で廃校になってしまうもの

知多郡豊醸組合立実業学校	愛知県	醸造業
津名郡陶器学校	兵庫県	窯業
山中漆器徒弟学校	石川県	漆工

など

研究シーズの内容

明治期における伝統的地場産業と実業教育機関の関係について、①西洋の知識・技術を導入して近代化を図る地元産業界の動向、②その過程で設立されることになる実業教育機関の果たした役割、③実業教育機関に対して寄せられた地元の期待と現実をみます。実業教育（特に工業教育）の振興を目指した「実業教育費国庫補助法」(明治 27 年)の公布を契機に、全国各地で実業教育機関が設立されることになったため、明治 30 年前後に設立された、初期の実業教育機関（窯業、繊維業、漆工など）に焦点を当てます。設立された実業教育機関には、①地元産業界の近代化に貢献し、現在に至るまで存続しているものと、②大きな期待を受けながらも、短い期間で廃校になってしまうものがあるので、存続／廃止の要因を明らかにしたいと考えています。

研究者からのメッセージ

「ものづくり大国」日本のルーツについて、教育史の立場から研究しています。特に、昔から地域に根ざしている伝統的地場産業に注目し、①明治維新（近代化）という大きな時代の変化に対する、地元の苦勞・努力と教育の役割、②近年大きな課題になっている、地域社会と学校との関係の在り方について、考える素材を提供できればと思っています。なお、これまでに、『愛知県教育史』『名古屋教育史』などの地方教育史編纂にも関わっています。

研究キーワード

日本近代教育史 伝統的地場産業 実業教育機関 学校と地域の連携

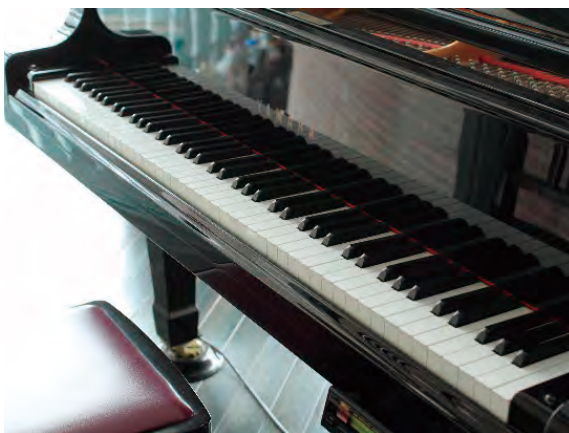


音楽の創作を支える技能の獲得と発達

教授 **高橋 範行**

(タカハシ ノリユキ)

教育福祉学部 教育発達学科



研究シーズの内容

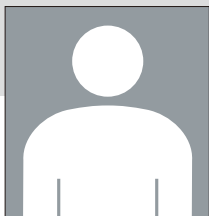
音楽の学びにおいて「創る」活動は極めて重要であるにも関わらず、音楽教育においては必ずしも積極的に実践されていません。創る活動に比重を置いた音楽教育を展開する上では、音楽の創作がどのような技能によって支えられているのか、創作によって学習者と指導者の双方にどのような変化がもたらされるか、を明らかにする必要があります。これらについて、可能な限り実証的に検討したいと考えています。

研究者からのメッセージ

自ら音楽を創ることの価値と面白さを共有できるような音楽教育観を定着させていきたいと考えています。

研究キーワード

音楽創作 音楽構造の学習 技能の発達と獲得 音楽教育観 学習観

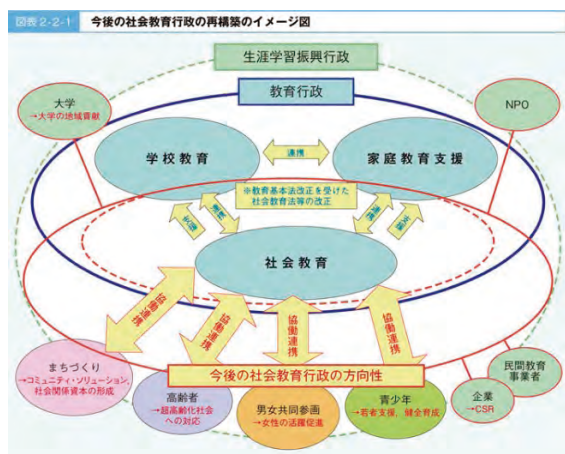


EU および日本における成人教育の研究

教授 **田村 佳子**

(タムラ ケイコ)

教育福祉学部 教育発達学科



『平成 24 年度 文部科学白書』90 頁

研究シーズの内容

成人の学習および子どもを含む地域における学習

【諸外国における成人の学習】

- ・ EU における生涯学習政策
- ・ 英国大学成人継続教育研究
- ・ アメリカ合衆国における働く女性の学習の歴史
- ・ 占領下日本における社会教育研究

【地域における学び】

- ・ 男女共同参画と学習
- ・ 子どもと地域社会
- ・ 子どもと図書館・博物館

研究者からのメッセージ

社会教育・成人教育の研究をしています。人は一生学び続ける存在であり、無限の可能性を秘めています。地域の皆さんとともに学んでいきたいです。

研究キーワード

教育学 社会教育 継続教育 成人教育 コミュニティ教育



非行少年の被害経験が心理特性と非行性に及ぼす影響

教授 **堀尾 良弘**

(ホリオ ヨシヒロ)

教育福祉学部 教育発達学科



研究シーズの内容

【研究テーマ】

1. 問題行動を起こす児童生徒の心理とその対応
2. 非行少年の心理特性
3. 無気力と疎外感の分析

【主な研究内容】

1. 非行少年の被害者性—被害経験と加害行為
2. スクール・カウンセリングの現状と課題
3. 生徒指導・教育相談の理論と事例分析

研究者からのメッセージ

児童生徒の理解や教育心理相談に有効な心理検査法、思春期・青年期の心理的危機のアセスメント、非行少年の被害経験と心理特性の分析などを研究しています。これらは臨床心理学、人格心理学、犯罪心理学の融合的専門領域です。大学院では専門的な心理検査法の研究、心理臨床現場の具体的な事例分析、研究誌掲載論文の読解・批判的検討などを通じて研究指導をしています。

研究キーワード

非行心理、被害経験、問題行動



子育て・保育・教育における地域での連携

教授 **山本 理絵**

(ヤマモト リエ)

教育福祉学部 教育発達学科

研究成果著作物



研究シーズの内容

- ① 幼児の人間関係の発達とその援助に関する研究（とくに集団保育における発達障害の傾向のある子どもたちの支援、インクルーシブ保育）
 - ② 学童期の子ども自立と人間関係の指導方法や支援体制の検討
 - ③ 親の子育て不安と子育て困難、子育て支援・地域ネットワークづくりに関する研究
- ・ 多動・衝動的傾向を示す 幼児・児童の発達と育児困難状況及び援助方法
 - ・ 人間関係に困難を抱える幼児の小学校への移行期における異年齢保育による援助方法
 - ・ 教育と福祉の連携による人間発達の保障に関する理論と実践の研究—地域ネットワークづくりを中心に
 - ・ 早期発達支援・特別支援教育に関する研究
 - ・ 幼児期のプロジェクト活動の展開方法に関する研究
 - ・ 自治体における子ども・子育て支援の現状と課題

研究者からのメッセージ

近年、保育所・幼稚園・小学校等では、落ち着きがなかったり友達との関係がうまく結べなかったりする子どもたち（なかには発達障害が疑われるケースもあります）の指導が大変になってきています。また、親の子育ての不安や困難も年々増していますが、それらの背景にある問題や支援方法について、広く社会に目を向けて探究していきたいと思っています。

研究キーワード

教育学 特別支援教育 幼児教育 保育学 教育方法

学校現場におけるカリキュラム・指導・評価方法の研究



准教授 **大 貫 守**

(オオスキ マモル)

教育福祉学部 教育発達学科



↑ 初等・中等教育学校において進めている、ICT 機器を用いた授業づくりや評価のあり方に関する研究の一場面です。実際に学校現場に赴いて、授業研究やそれ以前の段階での指導案づくりやその検討等を共同で行い、一緒に授業づくりに取り組んでいます。

研究シーズの内容

・初等・中等教育学校におけるカリキュラムづくりや授業づくり（教育目標・教育内容・教材・教具・学習形態・教育評価）に関する研究
・高等学校における探究学習の評価に関する研究
理科に留まらず、様々な教科の授業において、どのような子どもの姿を目指し（教育目的）、そこに向けてどのような内容（教育内容）をカリキュラムとして組織し、どのような深さでそれらを学ぶことを目標とし（教育目標論）、その目標に向けて、すべての子どもたちの発達をどのように助成していくのか（教材・教具・指導過程・学習形態）、そして子どもたちの到達をどのように評価し、目標に向けて授業を改善していけるのか、もしくは目標自体を改訂していけるのか、ということに焦点を合わせて、授業やカリキュラムづくりに学校現場の先生方と共同研究に取り組んでいます。

研究者からのメッセージ

探究することは、観察や実験のプロセスを学ぶことと捉えられがちですが、そのようなプロセスを学ぶことだけが探究的な学習ではありません。より広い視点から探究ということについて考え、学校において探究はどのように指導し、評価をすることができるのか、一緒に考えてみませんか。

研究キーワード

教育評価論、教育課程論、教育方法論

学校管理職の職能開発、学校運営への父母参加



准教授 **葛 西 耕 介**

(カサイ コウスケ)

教育福祉学部 教育発達学科



研究シーズの内容

学校経営、教育法規を専門にしています。主な研究は、第1に、学校管理・経営職、学校事務職員、教育委員会幹部職員の専門職能開発です。これらの職員は、授業をする教師とは異なる専門性・職能（マネジメント能力、リーダーシップ能力）が必要です。その開発手法の研究と、研修プログラムの実施を、全国の学校管理職、教育委員会職員の方と共同で進めています。

第2に、日本の学校運営への父母参加の制度と思想のイギリスやドイツとの比較研究です。日本には PTA や学校運営協議会がありますが、諸外国に比べて親が学校運営に発言し協議・参加していく制度は立ち遅れています。こうした公教育における親の位置を問い、公教育は誰のために存在しているのかを問う研究をしています。子どもの権利は親の権利とともに追究される必要があります。

研究者からのメッセージ

上記2点を中心とした、共同研究、勉強会、研修プログラム開発、研修会講師、専門的助言、取材などについて、お声がけください。学校・教育行政機関のみならず、市民・諸団体・企業の方とも一緒にできると嬉しいです。

研究キーワード

学校管理職研修、学校運営協議会、親の権利



幼児期における自他の心の理解の発達

准教授 **瀬野 由衣**

(セノ ユイ)

教育福祉学部 教育発達学科

研究シーズの内容

幼児がどのような過程を経て、自分と他者が異なる心の世界（表象世界）をもつことに気づいていくのかに関心をもって研究を進めています。ここ数年は、2～3歳児の仲間同士の相互作用に着目した観察研究を行っています。2歳児クラスでの観察から、子ども同士の「通じあい」は、まず、身ぶりや言葉の繰り返しを通してなされていくこと、その後、2歳児クラス後半に言葉を軸にしてテーマを立ち上げ、ごっこあそびを展開するようになることがわかってきました。様々な理論的見解に学びながら、この転換期に子どもたちの中に何が起きているのか、その不思議に迫りたいと考えています。

研究者からのメッセージ

発達心理学は、人間の原点に迫ることが出来る学問領域だと考えています。子どもが発達していく過程は、未だ不思議に満ち溢れています。「発達の不思議」と、それを支える「他者とのかかわり」、この二つの視点を大事にして、教育や研究活動を行っています。

研究キーワード

発達心理学 幼児 2歳児 自己 表象 自他関係 シンボル



ペルーの学校体育におけるカリキュラム開発

講師 **久我 アレキサンデル**

(クガ アレキサンデル)

教育福祉学部 教育発達学科

研究シーズの内容

ペルーの学校体育におけるカリキュラム開発に関する研究を進めるなかで、現在は次の3点の研究課題に取り組んでいます。

- ①体育のカリキュラム開発に関わって、カリキュラムを構成する理論的な枠組みと実践的な課題の検討。
- ②体育の授業づくりに関わって、制度的なカリキュラムから具体的な授業（指導案）づくりまでのカリキュラムの展開過程の検討。
- ③学校体育における、教科体育と教科外体育（部活動・運動会など）の関連性についての考察。

研究者からのメッセージ

とりわけ開発途上国においては、体育やスポーツが教育・健康・平和などにかかわる開発の手段として注目されるようになり、また、多国籍化が進む昨今の社会情勢において、体育やスポーツが言語の壁を越えるコミュニケーション・ツールとして機能している状況が窺えます。教育学的観点に加え、社会的な側面からみた学校体育開発の意義及び課題を意識しつつ研究活動を進めています。

研究キーワード

体育科教育学 スポーツ国際開発学



精神障害福祉史にみる受容と排除の論理構造

教授 宇都宮 みのり

(ウツノミヤ ミノリ)

教育福祉学部 社会福祉学科

研究シーズの内容

上記のテーマを達成するために、以下のような研究を進めています。主に近代日本を対象とする歴史研究です。

- ①精神障害者関連法案審議過程にみる法改廃過程分析
- ②慢性三疾病（精神疾患、ハンセン病、結核）の処遇史の比較分析
- ③養生から健康への「健康観」の変化と「有疾観」の形成過程
- ④衛生行政が果たした保護機能と統治・管理的機能
- ⑤精神障害者関連法改正と社会的イベントとの因果関係
- ⑥家族が果たした役割としての保護と社会防衛の二重拘束性
- ⑦精神保健福祉専門職の保護機能と管理的機能
- ⑧市民による精神保健福祉活動の歴史的展開とその意義
- ⑨当事者の語りにみる当事者にとっての受容と排除の意味
- ⑩医療保護制度・事業等に関する史資料の調査と保存

研究者からのメッセージ

*医療保護制度・事業、精神病院・療養所、ハンセン病問題、結核療養所・保養所等に関する史資料の保存、整理にご協力ください。

研究キーワード

精神障害者監護法 医療保護制度・事業史 社会福祉事業史



社会的ケアと高齢者ソーシャルワーク

教授 田川 佳代子

(タガワ カヨコ)

教育福祉学部 社会福祉学科

研究シーズの内容

高齢者の社会的ケア領域におけるソーシャルワーク実践について調査研究を行うとともに、ソーシャルワーク理論について研究を行っています。最近の論文「オランダの社会的ケアとアクティヴ・シティズンシップ」、「オランダのアムステルダムにおけるアウトリーチワーク」、「ソーシャルワークの倫理と社会正義への責任」学会報告「抑圧を焦点としたクリティカル・ソーシャルワークー「境界」から問いなおすー」過去の主な論文「高齢者ケアマネジメントにおける倫理的意思決定ーソーシャルワークにおける道徳的推論の適用に関する議論からの一考察ー」（受賞論文）、「介護サービス計画の決定作成における倫理的ディレンマケアマネジャーに対する訪問面接調査からー」など。

研究者からのメッセージ

国から地方へ、自治体から民間へ、政府から市民へ分権化、民営化が進められるなか、市民と行政、市民と専門職の関係がより自律的であること、また、社会的ケア政策において市民の選択と発言力が高められることが重要となってきます。市民の参加とパートナーシップによる協働の創出を焦点として研究を進めています。

研究キーワード

ケア アクティヴ・シティズンシップ ソーシャルワーク 高齢者





精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト

教授 **橋 本 明**

(ハシモト アキラ)

教育福祉学部 社会福祉学科



研究シーズの内容

市民の精神障害への関心と理解が深まることをめざして、精神医療に関する歴史を素材にした教育的プログラムの開発をしています。その重要な柱と位置づけているのが、「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」です。2014 年秋からこれまでに、日本国内・国外の各地を移動して、小規模ながらも計 9 回の精神医療の歴史展示を行ってきました。

研究者からのメッセージ

移動展示ですので、どこにでも出張いたします。もし、ご希望があればご連絡ください。写真で紹介しているのは、2017 年 3 月に京都（ひと・まち交流館）での展示の様子とチラシです。

研究キーワード

精神医療史 ミュージアム 展示



多文化共生、コミュニティ、地域福祉

教授 **松 宮 朝**

(マツミヤ アシタ)

教育福祉学部 社会福祉学科



研究シーズの内容

- ・地方都市におけるソーシャル・キャピタル構築に関する研究 (2007-2009)
- ・外国人と地域の共生に関する研究 (2001- 継続中)
- ・都市農業の展開に関する実証研究 (2006- 継続中)
- ・地域福祉とコミュニティ・ソーシャルワークに関する研究 (2011- 継続中)
- ・孤独死・孤立死をめぐる研究 (2007- 継続中)
- ・貧困と社会的排除に関する研究 (2009- 継続中)

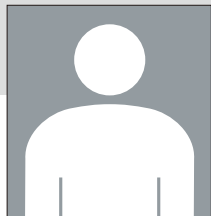
研究者からのメッセージ

地域、コミュニティに関する実践的な研究を進めています。

研究キーワード

多文化共生 コミュニティ 都市の農 地域福祉

保健医療福祉領域における支援者支援



准教授 **大賀 有記**

(オオガ ユキ)

教育福祉学部 社会福祉学科



研究シーズの内容

医療ソーシャルワーク・医療福祉を専門としています。

主な研究テーマは、保健医療福祉領域における支援者支援です。特に独居高齢者の在宅療養や看取りにかかわる支援者のバックアップ体制について研究しています。

【主な書籍出版・学術論文】

- ・『ソーシャルワーク支援の発展的二重螺旋構造－役割喪失にともなう悲嘆作業過程の分析』相川書房、2014年（単著）
- ・「医療ソーシャルワーカーの役割のあいまい化からみる専門職性についての検討－役割理論と組織システム論の観点から」『社会福祉学評論』13, 57-68.2014年（単著）
- ・「地域におけるデスカンファレンスの専門職役割遂行サポート機能－文献レビューからの考察」『人間発達学研究』8, 23-36.2017年（単著）

研究者からのメッセージ

人は誰でも病気やけがをする可能性があり、いつか必ず最期を迎えます。人が人生の最期まで尊厳を保持して住みなれたまちで生きていくためにはどんな支援が必要か、また支援者のバックアップ体制として何が必要かについて研究しています。これらの研究を通じ、支援現場のバックアップに努めたいと思っています。

研究キーワード

医療ソーシャルワーク 看取り 悲嘆

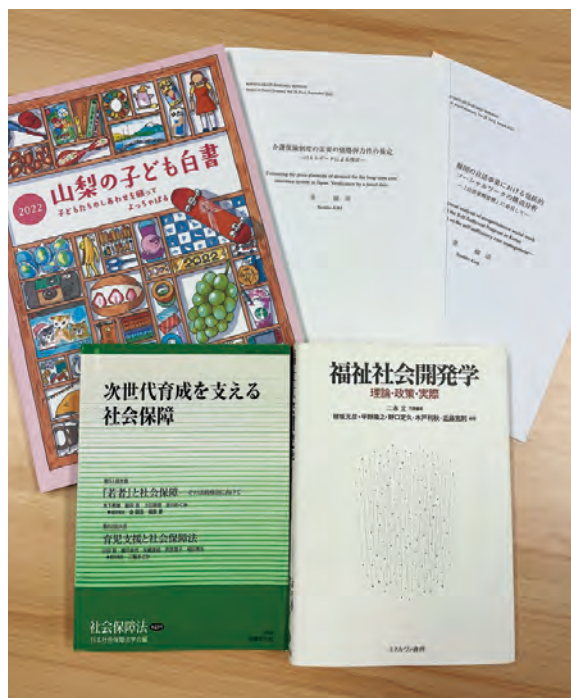
貧困・格差の動態分析、社会保障の政策評価



准教授 **金 碩 浩**

(キム ソコ)

教育福祉学部 社会福祉学科



研究シーズの内容

少子高齢化の深化や非正規雇用の拡大等、社会経済構造が類似する日本と韓国をリサーチフィールドとして社会保障政策の分析に取り組んでいます。最近では、以下のようなテーマに関心を持っています。

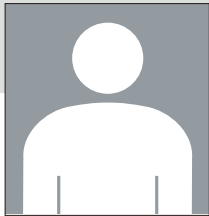
- ① 貧困・格差・不平等の動態を分析した上、所得保障政策及び生活困窮者自立支援政策の在り方を検討すること
 - ② 計量経済学の分析手法を用いて、公的扶助制度や介護保険制度等様々な社会保障制度の政策効果を検証・評価すること
- これらの研究を通して日韓両国における社会保障システムの共通性と相違性が解明できればと考えています。

研究者からのメッセージ

行政機関をはじめ、社会福祉法人やNPO法人、民間団体等で日々蓄積されていく大量のデータは、制度・政策が私たちの生活にどのように影響を与えているかを検証可能にするとても大切な財産です。企画によって行われた調査の結果だけでなく、普段行う業務によって得られる膨大なデータの活用について一緒に考えてみませんか。

研究キーワード

社会福祉学、社会保障論、政策評価論



臨床心理学、家族心理学

准教授 **森川 夏乃**

(モリカワ ナツノ)

教育福祉学部 社会福祉学科

研究シーズの内容

家族成員間コミュニケーションや、家族関係が子どもの心理に与える影響といった、家族の心理に関する基礎的研究をしています。また、家族への臨床的支援に関する研究として、心身症の子どもを持つ家族への心理支援に関する研究をしています。

1：夫婦関係や親子関係が青年期のきょうだい関係に与える影響

2：心身症の子ども（特に起立性調節障害の子ども）を持つ家族における、親子関係と子どものストレスとの関連や、親が抱えるストレスに関する研究

研究者からのメッセージ

家族は、人が最初に出会う最も身近な集団です。人の心にとって、家族という存在はどのように関わっているのでしょうか。家族が多様化している現代において、一つの価値観にとらわれることなく、様々な家族に目を向け理解を深めていくことが求められるでしょう。

研究キーワード

短期療法 家族療法 家族心理学 臨床心理学



高齢者の健康増進、ロコモ・フレイル・介護予防

講師 **慎 少 帥**

(シン ショウスイ)

教育福祉学部 社会福祉学科

運動教室の風景



研究シーズの内容

- ・青年期の高い体力と運動スポーツ実践は高齢期のフレイルを防ぐか？
- ・健康度評価・改善システムを内蔵する体重計開発
- ・高齢者の下肢機能低下予防・改善運動教室による介入効果の検討
- ・軽度な要介護高齢者を対象とした新たな下肢機能測定法の検討

研究者からのメッセージ

青年期のスポーツ実践・体力・運動能力が中高齢者のロコモ度やフレイルにどのような影響を与えているかの解明を研究課題としています。

研究キーワード

健康増進学 運動疫学 測定評価学 スポーツ科学

ドイツの障害児者家族の支援の歴史



講師 高柳 瑞穂

(タカヤナギ ミズホ)

教育福祉学部 社会福祉学科



研究シーズの内容

〈研究論文の一部〉

・単著「戦後ドイツにおけるインテグレーション概念及び実践の変遷:ドイツ知的障害育成会連盟レーベンスヒルフェの活動史を手がかりとして」『田園調布学園大学紀要』14 1-16 2020年3月.

・単著「ドイツ民間福祉頂上6団体の組織化前史:19世紀からヴァイマル共和国成立まで」『環境福祉学研究』3(1) 7-19 2018.

〈競争的資金の一部〉

・分担「日本障害児教育の欧米依存からの脱却と自立のための欧米障害児教育の理論的歴史的総括」科学研究費 基盤研究(B) 2015年4月 - 2018年3月

・代表「ドイツ知的障害親の会レーベンスヒルフェの地域史研究:特殊教育との人的連続性」科学研究費 若手研究(B) 2012年4月 - 2017年3月

研究者からのメッセージ

家族はしばしば「当事者支援」の周縁に置かれがちですが、親固有のニーズやきょうだい固有のニーズは確実に存在し、「家族という当事者」であるとも言えます。家族やきょうだいがどのような思いや困難を抱えてきたかについて、当事者や専門職との協働や緊張関係にも焦点を当てながらドイツの歴史を研究することで、現代日本の諸問題を逆照射したいと考えています。

研究キーワード

社会福祉学 障害者福祉論 社会福祉史

教授	稲 嶋 修 一 郎
	(イナシマ シュウイチロウ)
教育福祉学部	教育発達学科

現在の研究課題

1. 走、跳、投、打、蹴等の動作について、合理的な身体の動かし方の探究 2. 幼児、児童の身体活動、生活習慣等の実態と改善に関する研究 3. 障害のある児童生徒の体育に関する研究

教授	久 保 田 貢
	(クボタ ミツグ)
教育福祉学部	教育発達学科

現在の研究課題

1. 平和教育 2. 教師教育 3. 社会科教育

准教授	藤 原 智 也
	(フジワラ トモヤ)
教育福祉学部	教育発達学科

現在の研究課題

1. カリキュラム編成論・教授－学習方法論・授業構成論 2. 造形美術に関する認知発達 3. 教育改革と美術科教育

准教授	三 山 岳
	(ミヤマ ガク)
教育福祉学部	教育発達学科

現在の研究課題

1. 特別な支援が必要な子どもに対する巡回相談 2. 保育・教育現場における気になる子への発達支援 3. 被虐待児に対するケア

准教授	渡 邊 眞 依 子
	(ワタナベ マイコ)
教育福祉学部	教育発達学科

現在の研究課題

主な研究課題は、1. 幼小接続期の教育方法とカリキュラム編成、2. プロジェクト型保育・教育実践の開発研究、3. ドイツにおける学力向上政策と教育方法・カリキュラム改革の解明です。

教授	野 田 博 也
	(ノダ ヒロヤ)
教育福祉学部	社会福祉学科

現在の研究課題

1. 貧困対策におけるストック資源充足の意義と課題 2. 日米における公的扶助の諸条件とその正当性に関する研究 3. 社会的排除を助長する福祉政策

教授	山 本 か ほ り
	(ヤマモト カオリ)
教育福祉学部	社会福祉学科

現在の研究課題

社会学、家族社会学、社会調査法

准教授 **村 田 一 昭**

(ムラタ カズアキ)

教育福祉学部 社会福祉学科

現在の研究課題

1. 子ども虐待に関する研究
2. 児童養護施設の専門性に関する研究
3. 児童相談所におけるソーシャルワーク実践に関する研究
4. 社会福祉実習教育に関する研究

准教授 **渡 邊 か お り**

(ワタナベ カオリ)

教育福祉学部 社会福祉学科

現在の研究課題

1. 社会福祉教育におけるソーシャル・アクションの位置づけに関する研究
2. 地域組織化活動に関する研究

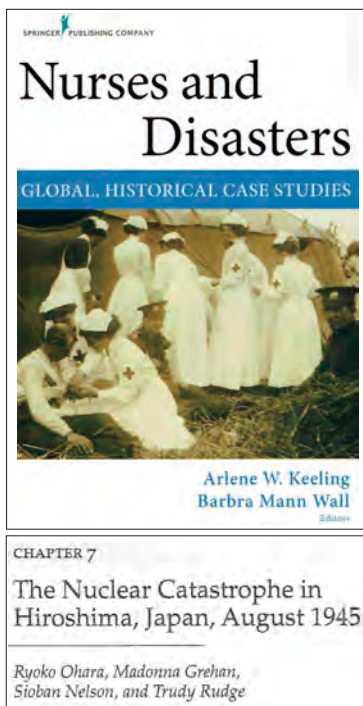


看護・助産学実習に関する研究

教授 **大原 良子**

(オオハラ リョウコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 広島の実爆者救護に関する看護師の口述史
2. 子どもを亡くした女性とその家族への支援
3. 助産師教育の国際比較
4. 看護・助産学実習に関する研究
5. 日露戦争時に来日した米国看護師について

【主な研究内容】

自己実現理論を応用した長期固定型看護学実習の構築 (2015 -)
 避妊・STD 予防カウンセリングの開発とウェブを用いたサポートシステムの構築 (2007 - 2009)
 児を亡くした家族への助産師による地域拠点型支援プログラム及びシステムの開発 (2005 - 2007)
 熟練助産師の技としての分娩時モニタリングケアの構造化とその検証 (2004 - 2005)
 リハビリテーション専門看護師養成カリキュラムの開発 (2003 - 2004)
 被爆者看護にあたった看護婦の体験 (2001 - 2002)

研究者からのメッセージ

看護師は世界で最も多く存在する専門職の1つです。どの国にも必要な職業です。グローバル化の中ぜひ、日本だけでなく海外にも目を向けて、看護師として世界を目指してください。また、助産師という職業は主に母親と赤ちゃんのお世話をする看護職です。思春期から、老年期の女性の健康問題や疾病の予防などに関わる職業でもあります。

研究キーワード

母性看護・助産学 臨床看護学 看護学実習 地域母子保健

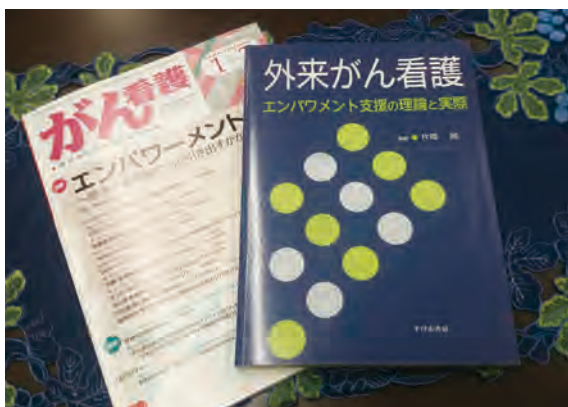


外来通院するがん患者のエンパワメント

教授 **片岡 純**

(カタオカ ジュン)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

がんの治療の場合は入院から外来へと移行し、高齢のがん患者が増えています。外来治療を受けながら、通常の生活の営みをするためには、患者さん自身が病気や治療に伴う様々な問題に主体的に取り組むことが求められます。患者さんやご家族が、問題に取り組むことを支援する（エンパワメント）看護について探求しています。

〔研究課題〕

- ・外来通院するがん患者エンパワメントを促進する看護モデルの開発
- ・外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラム（共同研究者）
- ・高齢がん患者向けの教育マテリアルの作成
- ・がん薬物療法をうける高齢者の療養生活を支援する看護師育成プログラムの開発

研究者からのメッセージ

がん専門病院での看護師経験を経たのち、がん患者の看護の研究を継続しています。また、がん看護に携わる看護師の養成もしています。「大変な病気にかかったとしても人は誰もが自分らしく生きようとする力を潜在的に持っている。看護師は人の持つ力を信じることで、そして、その人が力を十分に発揮できるよう生活の営みを整えることが看護の役割である」と伝えることを大切にしています。

研究キーワード

がん看護 外来 エンパワメント 外来化学療法看護



自己免疫性甲状腺疾患とHLA の関連

教授 片 平 正 人

(カタヒラ マサヒト)

看護学部 看護学科

Characteristics	Low-normalbuminuria group (n = 261)	High-normalbuminuria group (n = 143)	Low-microalbuminuria group (n = 343)	High-microalbuminuria group (n = 88)	P value
Sex, n (male/female)	169/93	78/65	197/146	64/24*	0.014
Age (years)	62.9 ± 11.4	65.8 ± 10.3†	68.2 ± 10.5†	65.9 ± 11.8	<0.001
Duration of diabetes (years)	9.0 ± 6.3	11.3 ± 6.5	12.6 ± 6.1†	14.9 ± 8.7§§	<0.001
BMI (kg/m ²)	23.2 ± 4.1	24.0 ± 4.0†	24.8 ± 3.7	24.4 ± 3.1	0.042
Systolic BP (mmHg)	129 ± 18	130 ± 18	132 ± 18	135 ± 19†	0.017
Diastolic BP (mmHg)	73 ± 12	72 ± 12	73 ± 11	73 ± 11	0.138
UACR (mg/g creatinine)	8.5 ± 3.4	21.5 ± 4.3†	73.8 ± 32.9§	213.2 ± 43.1§§	<0.001
Serum creatinine (mg/dL)	0.76 ± 0.17	0.76 ± 0.20	0.82 ± 0.20§	0.87 ± 0.22†	<0.001
eGFR (mL/min/1.73 m ²)	75.5 ± 17.0	74.2 ± 20.9	68.2 ± 18.7§	68.4 ± 20.9†	<0.001
A1C (%)	7.2 ± 0.9	7.1 ± 0.6	7.8 ± 1.1§§	7.8 ± 1.0§§	<0.001
Hb (g/dL)	14.0 ± 1.5	13.7 ± 1.5	13.5 ± 1.4†	13.8 ± 1.5	<0.001
Ga (%)	20.1 ± 4.6	20.0 ± 3.9	22.2 ± 4.7§	23.5 ± 6.5§§	<0.001
Serum albumin (g/dL)	4.2 ± 0.5	4.3 ± 0.1	4.2 ± 0.3	4.1 ± 0.3§	0.015
GA/A1C ratio	2.8 ± 0.4	2.9 ± 0.4*	2.9 ± 0.4*	3.0 ± 0.3†	<0.001
Treatment of diabetes					0.035
Diet	32* (12.3)	10 (7.0)	19* (5.5)	3 (5.7)	
Oral and/or GLP-1RA	172 (65.9)	96 (67.1)	217 (63.3)	50 (56.8)	
Insulin	33* (12.6)	37 (25.9)	107 (31.2)	33* (37.5)	

Data are expressed as n (%) or mean ± SD unless otherwise stated. Low-normalbuminuria group, UACR <13 mg/g creatinine; high-normalbuminuria group, UACR 13–29 mg/g creatinine; low-microalbuminuria group, UACR 30–49 mg/g creatinine; high-microalbuminuria group, UACR 50–299 mg/g creatinine; BP, blood pressure; Hb, hemoglobin; A1C, and glycylglycyl-L-proline; GLP-1RA, glucagon-like peptide 1 receptor agonist; eGFR, estimated glomerular filtration rate; *Absolute value of adjusted residual >1.96, †P < 0.05 vs. low-normalbuminuria group, ‡P < 0.001 vs. low-normalbuminuria group, §P < 0.01 vs. high-normalbuminuria group, §P < 0.001 vs. low-normalbuminuria group, §P < 0.01 vs. high-normalbuminuria group.

Table 1

HLA DRB1-DQB1 haplotype frequency in HT patients and control subjects.

DRB1-DQB1	Patients (n = 104)	Controls (n = 516)	P value	OR (95% CI)
-01:01→05:01	7 (4.38)	22 (3.8)	0.892	—
-04:02→04:01	14 (8.33)	67 (13.0)	0.0797	—
-08:03→08:01	25 (15.28)	31 (6.0)	3.5E-04	2.81 (1.61–4.92)
-09:01→03:03	35 (21.28)	69 (13.4)	0.0176	1.76 (1.12–2.78)
-13:02→06:04	21 (12.5)	28 (5.4)	0.0264	0.22 (0.05–0.81)
-15:01→05:02	6 (3.73)	59 (11.4)	0.0021	0.28 (0.12–0.69)
-15:02→05:01	27 (13.42)	46 (8.9)	0.0666	—
Others	31 (32.35)	196 (38.0)	—	—

Data are n (%).

HLA, human leukocyte antigens; HT, Hashimoto's thyroiditis; OR, Odds ratio; CI, Confidence intervals.

研究シーズの内容

1. 自己免疫性甲状腺疾患とHLA（ヒト白血球抗原）の関連
2. 1型糖尿病とHLAの関連
3. 糖尿病・内分泌疾患における臨床検査
4. 糖尿病・内分泌疾患をもつ患者の心理・背景

【主な研究内容】

- ・1型糖尿病とHLAの関連に関する研究（2001—2014）
- ・橋本病とHLAの関連に関する研究（2012—継続中）
- ・バセドウ病とHLAの関連に関する研究（2014—継続中）
- ・糖尿病の臨床検査に関する実証的研究（2000—継続中）
- ・サイトカインによる下垂体 POMC 遺伝子発現の調節に関する研究（1995—1998）
- ・糖尿病・内分泌疾患をもつ患者の心理・背景（2017—継続中）

研究者からのメッセージ

これまで一般病院で医師として勤務し、自身が臨床医として感じた疑問を基に臨床研究の形へと発展させてきました。これまでの研究分野についての研究を継続する一方、今年からは看護学分野と関連のある糖尿病・内分泌領域の研究を始めています。

研究キーワード

内分泌学 甲状腺 糖尿病 バセドウ病 橋本病 HLA

育児支援に関する研究

教授 神 谷 摂 子

(カミヤ セツコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 育児期の継続した育児支援及び虐待予防に関する研究
2. 母乳育児支援に関する研究
3. 妊娠・出産・産褥期の国際比較に関する研究
4. 助産師教育に関する研究
5. 産後ケアに関する研究

【主な研究内容】

- ・大学の子育て広場を活用した妊娠期から育児期までの継続支援教育プログラムの作成（2017～）
- ・妊娠・出産・産褥期のケアおよび助産師教育についての国際比較に関する研究（2014～）
- ・自宅出産が主流であった時代に活動した助産師のケアに関する研究
- ・大学院の助産師教育における乳児期の継続家庭訪問支援教育プログラムの開発（2010～）
- ・母乳育児継続に関連する要因（2009～2017）
- ・大学を拠点とした子育て支援事業に関する研究（2007～）

研究者からのメッセージ

少子化となった日本において、妊娠・出産・育児を楽しむことができるような支援をしたいと考えています。女性に寄り添い、女性自身が持っている力を引き出すこと、そして家族も含めた支援ができる助産師でありたいと思っています。また、助産師教育に関して、女性の持つ力を最大限に活かし、女性とその家族を中心とした妊娠期から育児期まで継続した支援が提供できるような助産師の育成を目指しています。

研究キーワード

育児支援 産後ケア 虐待予防 助産師教育 母乳育児支援



子どもに対するプレパレーションの研究

教授 服部 淳子

(ハトリ ジュンコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 入院児の発達段階と性差に則してカスタマイズ可能なプレパレーション・ツールの開発：入院している子どもたちの不安やストレスを少しでも軽減するために、子ども向けの説明用パンフレットを作製しました。このパンフレットは、折りたたむと花びらの形になり、遊びの要素と頑張ったことを可視化できる勲章的な要素を取り入れています。手術や採血といった検査・処置の12種類を開発しました。(2012～2015 科研費挑戦的萌芽 24660011)

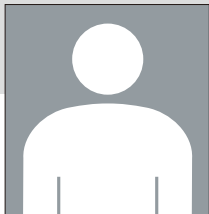
2. 発達障害児の種類や程度に則してカスタマイズ可能なプレパレーション・ツールの開発：発達障害児に対して、安全にケアを提供するためには、障がいや程度や内容に応じた説明が重要となります。そこで、発達障害児に必要なプレパレーション内容を調査し、効果的なツールを検討し、視覚的な理解を促すツール（写真左側）と視覚的理解だけでなく、触覚的に感覚を理解できるようなツール（写真右、下側）を開発しました。(2015～2017 科研費基盤研究 C15K11718)

研究者からのメッセージ

子どもの入院・治療に対する恐怖や不安を軽減するために、様々なプレパレーション・ツールを開発し、効果を検証しています。有効なプレパレーション・ツールは無料ダウンロードシステム (<http://kansei-interaction.com/feeling/>) を通して、臨床の皆様に還元しています。

研究キーワード

心理状態の評価 プレパレーション 発達障害 小児看護学



地域高齢者の摂食嚥下障害の早期発見・予防

教授 深田 順子

(フカダ ジュンコ)

看護学部 看護学科

嚥下障害リスク評価尺度改訂版	
あなたのこ3ヶ月くらいの食事中に出現する症状についておたずねします。次の症状がどれくらいあったか「いつもある」「時々ある」「まれにある」「ほとんどない」の中から1つ選んで○をつけてください。	
No.	質問項目
1	水分や食べ物が鼻にあがる
2	食べ物をいつまでも飲み込まずに嚥んでいる
3	水分が飲み込みにくい
4	ご飯が飲み込みにくい
5	食べ物がのどにひっかかる感じがする
6	食べ物がのどに残る感じがする
7	食事中や食後に濁った声に変わる
8	水分や食べ物が口に入ったらとたんにむせたりせきこんだりする
9	水分や食べ物を飲み込む時にむせたりせきこんだりする
10	水分や食べ物を飲み込んだ後にむせたりせきこんだりする
11	水分を飲み込むときにむせる
12	ご飯を飲み込むときにむせる
13	嚥むことが困難である
14	硬い食べ物を避け、軟らかい食べ物ばかり食べる
15	口がバサバサしていると感じる
16	バサバサ、モサモサした食べ物は飲み込みにくい
17	口から食べ物がこぼれる
18	ことが明瞭でない
19	食べ物を飲み込んだ後に舌の上に食べ物が残る
20	食べるのが遅くなる
21	食べ物や酸っぱい液が胃からのどに戻ってくる
22	食べ物が胸につかえる感じがする
23	胸やけがする

研究シーズの内容

専門は、周術期看護と摂食嚥下障害看護です。

高齢者の死因第3位の肺炎の誘因でもある摂食嚥下障害（飲み込みの問題）の早期発見・予防のための研究を行っています。主な関連論文と著書は以下のとおりです。

1. 高齢者における嚥下障害リスクに対する他者評価に関する研究，日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌，10（3）：220－230，2006
2. 高齢者における嚥下障害リスクに対するスクリーニングシステムに関する研究，日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌，10（1）：31-42，2006.
3. 嚥下障害ナースング フィジカルアセスメントから嚥下訓練へ，医学書院，2000.

研究者からのメッセージ

地域で生活する高齢者が、加齢に伴う摂食嚥下（飲み込み）障害をきたさないように、左記に示した評価尺度を用いて異常の早期発見のためのスクリーニングや予防のための体操などについて研究をしています。また、現在、食道がんで手術を受ける高齢者に対し、術後合併症等を予防するための看護プログラムについて研究をしています。

研究キーワード

看護学 臨床看護学 周術期看護 摂食嚥下障害看護



高齢者ケア領域における倫理的課題

教授 藤野 あゆみ

(フジノ アユミ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

高齢者ケア領域における倫理的課題に関する研究

近年、高齢者の生活の場は多様化し、自宅ではなく、高齢者ケア施設で暮らす方も多くなっています。どこで暮らしていても、高齢者ご本人が「私は尊重されている」と実感し、安心して過ごせることを目指して、倫理教育プログラムの開発に取り組んでいます。

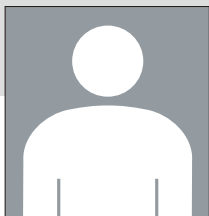
現在、高齢者ケア施設のスタッフの方と共に「介護老人保健施設の多職種を対象にした倫理教育プログラムの開発と縦断的評価（2016- 継続中）」に関する研究を行っています。

研究者からのメッセージ

高齢者ご本人とご家族が尊厳を保持し、その人らしい生活を送れるようにするためのお手伝いをしたいと考えています。現在、高齢者ケア施設の入所者の方々への支援を中心に取り組んでいますが、地域で暮らす高齢者の方とご家族への支援も行っていきたいと思っています。

研究キーワード

老年看護学 高齢者ケア施設 倫理

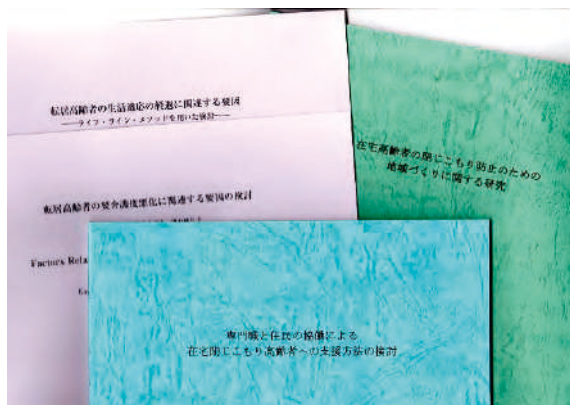


高齢者の介護予防に関する研究

教授 古田 加代子

(フルタ カヨコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

公衆衛生看護学を専門として、高齢者の介護予防に関する研究に取り組んでいます。人生を全うするまで、できるだけ自立して生き生きとした生活を送りたいという事は高齢者に共通した願いであり、家族の願いでもあります。この願いを叶えるために高齢者個人への働きかけにとどまらず、家族、そして地域全体で介護予防について考え、実践できるシステムを構築したいと考え、研究を進めています。

【研究テーマ】

1. 高齢者のヘルスプロモーションに関する研究
2. 高齢者の閉じこもりおよびその予防に関する研究
3. 閉じこもり高齢者への災害支援に関する研究
4. 高齢者の転居後の生活適応に関する研究

研究者からのメッセージ

閉じこもり高齢者を中心とした介護予防に関する研究を20年近く続け、ここ数年は主に転居高齢者の問題に取り組んでいます。子供との同居・近居等を目的に転居する高齢者に対しては、Relocation damageを小さくし、転居後の生活適応を促すための支援が必要です。共同研究の他、高齢者の介護予防、転居高齢者への支援などに関心のある自治体、団体等からの相談、講演などに可能な限り対応します。

研究キーワード

公衆衛生看護学 介護予防 高齢者 閉じこもり 転居

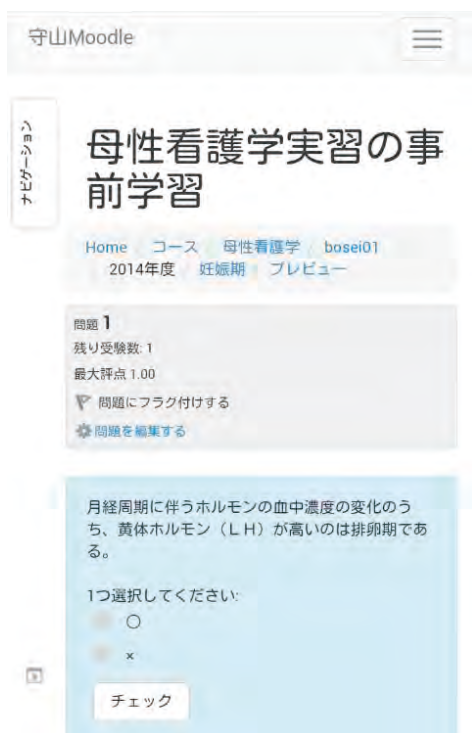


ICTを用いた看護技術教育の効率化

教授 箕浦 哲嗣

(ミノウラ テツジ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 箕浦哲嗣：紙媒体資料の自動採点の試みー授業支援ボックスを利用してー。大学 ICT 推進協議会 2015 年度年次大会（名古屋市），2015.12.
2. 横井達枝 1, 箕浦哲嗣, 大津廣子（1 愛知医科大学看護学部）：危険場面における看護学生と熟練看護師の注視の比較。日本看護技術学会誌，13(2)：132-139, 2014.
3. 箕浦哲嗣, 大林陽子, 大橋幸美：Moodle を用いた母性看護学実習の事前学習ツール。大学 ICT 推進協議会 2014 年度年次大会（仙台市），2014.12.

研究者からのメッセージ

サーバ管理者として長年様々な取り組みを行ってきました。スマートフォンでアンケートを収集したり、予習復習サイトへアクセスすることが当たり前になってきています。質問等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

研究キーワード

ICT LMS 看護技術教育 効率化 可視化



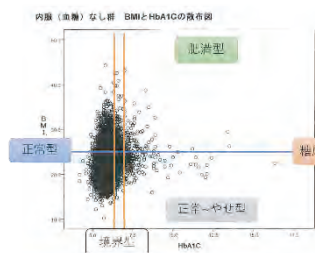
健診データによる若年性糖尿病予備群の要因分析

教授 柳澤 理子

(ヤナギサワ サトコ)

看護学部 看護学科

肥満と糖尿病の関係



太っている人だけが糖尿病になるのではない

糖尿病型の地理的分布 40-50代男性



研究シーズの内容

糖尿病の有病率が高い市の保健師さんたちと共同で、糖尿病予備群、特に若い頃から HbA1c（糖尿病の指標）が高くなる人々、やせているのに HbA1c が高くなる人々の要因の探索をしています。行政の保健師さんだけでは難しい分析を、大学の統計ソフトを使って行ったり、地理的な分布を検討したりすることを通して、効果的な糖尿病予防プログラムの開発を目指しています。

そのほかに、下のような研究もしています。

- ・タイにおける特別な保健医療ニーズをもつ児の養育者のニーズ
- ・体圧計測ウェアを用いた褥瘡予防支援
- ・開発途上国の母子保健・母子健康手帳の効果測定
- ・在留外国人保健
- ・生活習慣病とその要因

研究者からのメッセージ

公衆衛生看護学、在宅看護学、国際看護学を教授しています。保健師や訪問看護師の方々との共同研究や事業評価、看護分野の国際協力、在留外国人などをテーマにした大学院生の研究指導をしています。既存のやり方を踏襲するだけではなく、理想の看護や保健のあり方を目指して、新しい考えや方法を開拓していくような方々との協働を期待します。

研究キーワード

母子保健 生活習慣病 感染症対策 在宅看護 在留外国人



思春期のメンタルヘルスリテラシーに関する研究

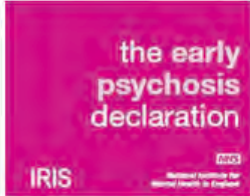
教授 **山田 浩雅**

(ヤマダ ヒロマサ)

看護学部 看護学科

WHOとIEPAによる国際共同宣言

2004年



“学校に通う15歳のすべての若者が、精神病に
対処しうる知識を身につけるべきである”

研究シーズの内容

- ・思春期のメンタルヘルスリテラシーを実施する教員に関する研究 (2017 -)
- ・メンタルヘルスの早期教育に対する当事者家族の望み (2016)
- ・「精神保健に関する早期教育介入」研究
- ・思春期のメンタルヘルスに関する早期教育的介入に関する実証的研究 (2010 - 2014)
- ・小・中学校における精神疾患教育の導入について－当事者家族の面接調査から－ (2010 - 2014)
- ・慢性統合失調患者のセルフケアエージェンシーの評価的操作能力に関する質的記述的研究 (2008 - 2011)

研究者からのメッセージ

H23 年厚労省が重点的に取組む疾患「がん・脳卒中・心臓病・糖尿病」の4大疾病に、「精神疾患」を加え、5大疾患となりました。近年、職場でのうつ病や高齢化に伴う認知症の患者が増加し、予防対策や治療的な対応の必要性が高くなってきています。精神疾患の予防や偏見の改善のためには、精神保健教育が必要であり、小・中学生の時期から正しい知識を得て、継続的に安心して取組める工夫が大切であると思います。

研究キーワード

メンタルヘルスリテラシー 思春期 精神保健 啓発活動

看護学部



海外赴任者の女性配偶者支援 / 渡航看護に必要な力

准教授 **青柳 美樹**

(アオヤギ ミキ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

夫の海外赴任に同行する配偶者は毎年2～3万人と推計されます。心理的負荷を抱えて帰国される方もいらっしゃいます。配偶者の皆様が元気で海外生活を送るための方法を模索したいと考え次の課題について研究を進めてきました。

1. 帯同配偶者のメンタルヘルスの特徴とニーズ
2. 帯同配偶者の社会参加と人との付き合いの変化
3. 帯同配偶者のコミュニティ支援の検討

また、上記研究を進めていく中で、渡航者の健康リスクに関わる看護職が必要な力を明らかにすることが渡航者への健康支援につながると考え、渡航看護のコンピテンシー・モデルを構築するための研究を始めています。

他にも、高齢者の介護予防に関する研究として、寒冷地域での筋肉、筋肉量、食生活、活動量の季節変化に関する研究を行っています。

研究者からのメッセージ

夫の海外赴任に同行したことが、現在の研究のきっかけとなりました。配偶者の皆様は、付き合いや外出困難さなど心理的負担を抱える一方で、その経験を前向きに捉えようともされています。ポジティブ心理の側面から配偶者の皆様の役に立てればと考えています。

海外渡航の健康リスクへの意識はまだ低い状況です。健康リスクを意識するきっかけづくりができればと考えています。

研究キーワード

渡航看護 コンピテンシー 帯同配偶者 コミュニティ支援

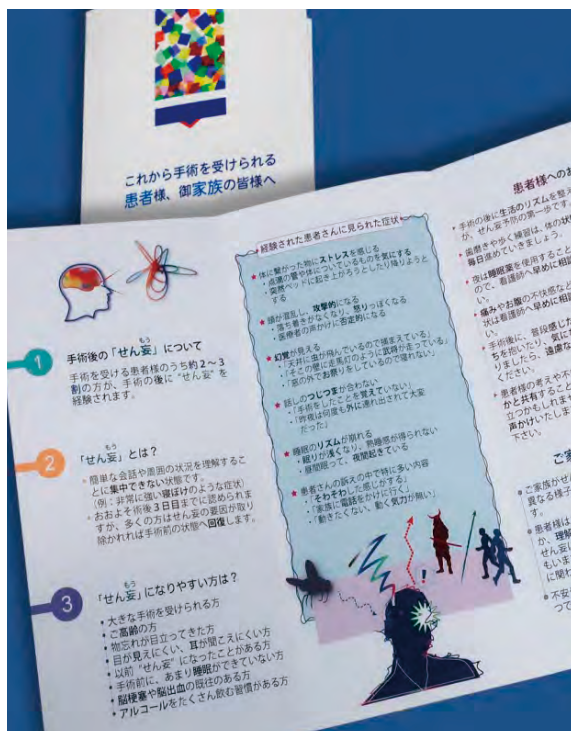


術後せん妄症状看護の質指標の構築

准教授 石光 芙美子

(イシミツ フミコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

せん妄は軽度の注意障害と意識レベルの低下が主な症状で、非常に強いねぼけのような状態です。70 歳以上の高齢者に発症しやすく、手術や全身麻酔、薬剤などの身体的な要因で起きます。また子供の場合、インフルエンザによる高熱で発症することもあります。

せん妄は一時的に発症するもので、その後多くの方が元の状態へと回復しますが、せん妄が遷延化した場合、その後に認知症を発症するリスクを高めます。したがって、せん妄自体の発症を回避する手立てを確立することが重要な課題となっています。これまで取り組んできた課題は次の内容です。

- ①術後せん妄の前駆症状を観察するツールの開発
- ②高照度光療法を用いた術後せん妄発症回避手法の効果
- ③閾値下せん妄から捉えたせん妄ケア構築に関する研究
- ④“せん妄からの回復”を支援する看護師の臨床知

研究者からのメッセージ

これまでは臨床現場を中心に、患者様にご協力をいただきながら、せん妄ケアの構築を進めてきました。現在は、手術を受ける患者様とご家族へ向けた、「術後せん妄」に関するパンフレット（写真）を作成しています。せん妄は認知症と同じく、身近にある症状です。最終的には、一般の方にも“せん妄”について知って頂く取り組みをしていきたいと考えています。（パンフレットの内容は JSPS 科研費 JP22792199、JP26463320 の助成を受けたものです）

研究キーワード

術後せん妄 閾値下せん妄 看護介入 質指標 睡眠障害

福島原発事故後の親子の生活と健康

准教授 牛島 佳代

(ウシジマ カヨ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 福島原発事故後の親子の生活と健康に関する研究
2. 水俣病被災地域住民の健康度を規定する社会的要因の検討
3. 環境災害後の地域・家族・個人の回復過程に関する研究

【主な研究内容】

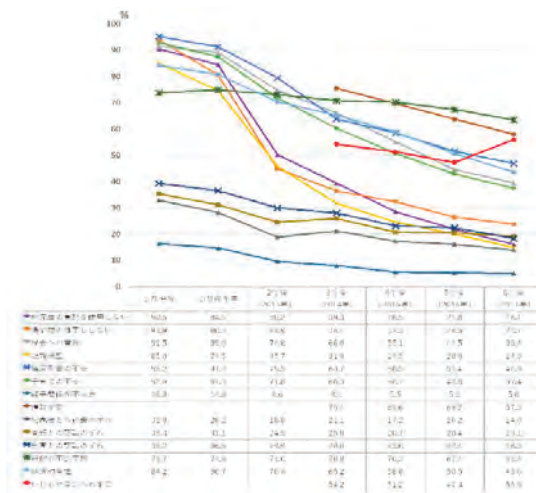
- ・水俣病被災地域の社会的環境と健康度に関する社会疫学研究
- ・社会環境・育児支援ネットワークと母親の健康・子どもの発達に関する研究
- ・災害ストレスに脆弱な母子に対する心理社会的支援とのためのシステム構築

研究者からのメッセージ

環境災害、特に人為起源の環境災害を経験した個人、家族、地域の Well-being に必要な条件とは何かについて社会学的、そして公衆衛生学的観点から研究を続けています。

研究キーワード

社会医学 環境災害 親子の Well-being





医療の安全性と質評価

准教授 **宇 城 令**

(ウシロ レイ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

主に、医療の安全性と質評価について研究をしています。
以下の URL より、左記の DVD などにアクセスできます。

<http://reimdsc1w.wixsite.com/mysite>

[研究課題]

- ・転倒・転落事故予防をめざす患者・家族と医療者による協働的リスク回避システムの開発 (2009-2012)
- ・レジリエンス・エンジニアリングによる新たな医療安全文化を醸成するシステムの開発 (2014-2017)
- ・大規模医療データベースを用いた看護実践データが予測する患者アウトカムモデルの開発 (2018- 継続)

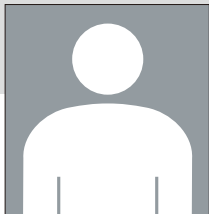
研究者からのメッセージ

看護職が提供した看護や医療について、できる限り客観的に評価していくことが重要と考えています。そのためには、看護職は何をし、対象者への影響はどうであったのか可視化する必要性を感じています。

研究キーワード

医療安全 チーム医療 転倒・転落 医療の質 DPC

看護学部



アイルランド文学、及び医療系英語研究

准教授 **片岡 由美子**

(カタオカ ユミコ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

アングロ=アイリッシュ文学文化研究

医療英語 身体医文化論

海外留学と異文化コミュニケーション

アイルランド詩人 W.B. イェイツの作品とポップカルチャーの領域における影響に関する研究 (2010-2014)

アイルランド人劇作家 J.M. シングの日本上演に関する傾向と特徴に関する研究 (2014)

看護学部生の海外研修プログラムの開発と検討 (2005-)

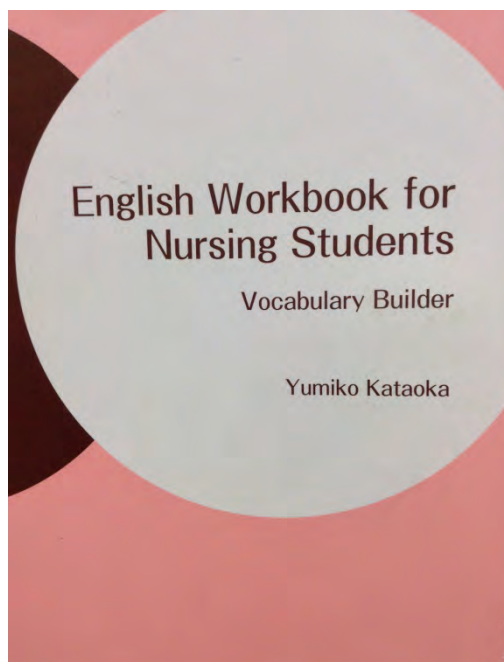
看護学部生の海外体験と異文化コミュニケーション上の問題点 (2007-)

研究者からのメッセージ

英語担当教員として教養英語を、また看護学部教員として看護学部生のための専門科目を担当しています。特に「日本と世界」という視点から、グローバルな問題を扱っています。医療関連の英語講読に加え、英語圏の文化を扱った授業を専門科目の中で行い、英語を通じて看護の専門知識にプラスとなるような文化論に接し、医療者としての人間性の涵養を目指しています。

研究キーワード

英文学 英語圏文化・国際交流



スピリチュアルケアの実践性

准教授 河村 諒

(カムラ リョウ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

1. 高齢者施設におけるスピリチュアルケアの実践性に関する研究
2. 死別に伴う悲嘆に対するスピリチュアルケアの実践に関する研究
3. 医療・福祉分野における対人援助職のバーンアウト予防に関する研究

研究者からのメッセージ

エンド・オブ・ライフケア及びグリーフケアにおけるスピリチュアルケアのあり方に関する研究を主に行ってきました。

さまざまな領域の方々とともに共同研究を行うことができるとと思っています。

研究キーワード

スピリチュアルケア エンド・オブ・ライフケア グリーフケア

小児慢性疾患患者の「生活力」支援

准教授 汲田 明美

(クミタ アケミ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

〈研究テーマ〉

・小児慢性疾患患者の「生活力」支援について

科研16K12159(平成28～令和4)、科研22K11035(令和4～令和6)の助成もいただき、現在は、思春期の炎症性腸疾患患者の支援の研究をしています。

〈学術論文〉

・成人移行期の炎症性腸疾患患者への生活力支援のツール、「豊かな生活をするノート」の作成(共著、筆頭著者)(愛知県立大学看護学部紀要Vol28, pp119-128, 2022)

・成人炎症性腸疾患患者や支援者が考える成人移行期炎症性腸疾患患者の「生活力」(共著、筆頭著者)(愛知県立大学看護学部紀要Vol26, pp103-111, 2020)

・母親が認識した、思春期発症の子どもがSLE(全身性エリテマトーデス)患者である自分を受け入れていくプロセス(共著、筆頭著者)(思春期学36(2)pp255-265, 2018)

・思春期患児の成長過程における母子の相互作用により、慢性疾患患児の親が子離れを余儀なくされるプロセス(共著、筆頭著者)(思春期学34(3)pp335-345, 2016)

・JIAで在宅自己注射療法を行う子どもの家族へのグループインタビュー形式の話し合いの効果(共著、筆頭著者)(日本小児看護学会誌19(2)pp1-8, 2010)

研究者からのメッセージ

小児期に発症した小児慢性疾患患者は、思春期に、「病気を持つ自分として思春期を過ごす」ことにも取り組みます。「病気と付き合いながら、どうやって過ごすか」、「病気を持ちながらの自分の将来はどうか」等の気持ちを持ち、過ごしているのではないかと思います。医療者にできる彼らの「生活力」を支援したいと考えて研究を行っています。支援に使用するツールを作成しました。(写真、豊かな生活をするノート、Happifullノート、小学生用、中学生以上用、科研費16K12159の助成で作成しました。)

研究キーワード

生涯発達看護学 小児慢性疾患患児や難病の患児への支援プログラム

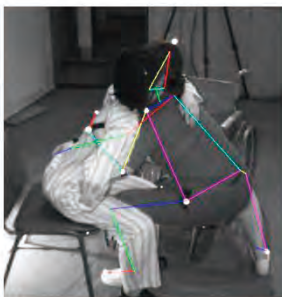


看護師の腰痛予防のための作業姿勢に関する研究

准教授 **佐藤 美紀**

(サトウ ミキ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

看護師の職業病といわれて久しい腰痛について、予防策を講じるための研究を作業姿勢の観点から行っています。
現場の実態調査から始め、その結果をふまえた具体的な改善策を臨床の方々で検討していけたらと考えています。

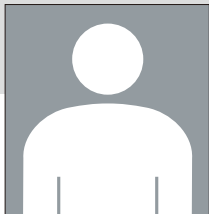
研究者からのメッセージ

作業姿勢の観点からは、車椅子移乗の際の介助動作について、三次元動作解析装置を用いて、看護師および看護学生の姿勢を解析したことがあります。
姿勢や動作について計測してみたいなどありましたら、応じることができるとは限りません。

研究キーワード

看護師の姿勢 腰痛予防

看護学部



看護アセスメントと看護援助技術教育の研究

准教授 **曾田 陽子**

(ソタ ヨウコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

看護アセスメント、つまり看護師が行う臨床推論と判断の的確さは、有効な看護ケアを提供する上で重要です。エキスパートナースは患者さんの状況をどのように理解して必要な看護を判断しているのか、新人ナースはエキスパートナースの思考と何が違い、どこを支援・強化すればよいのかを検証し、看護師のアセスメント能力を強化するためのプログラムづくりの研究に取り組んでいます。

さらに、的確な判断に基づいて有効な看護ケアを提供するための看護援助技術と、その教育の研究にも取り組んでいます。

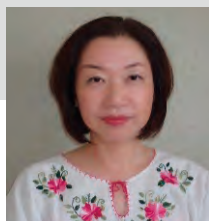
研究者からのメッセージ

患者さんの多様なニーズを判断し効果的な看護ケアを提供することは、看護師に求められる重要な実践能力ですが、一朝一夕で身につくものではありません。臨床家の方々と協力し合いながら、忍耐強く、その能力向上のお手伝いできればと考えています。

研究キーワード

看護アセスメント 看護師の臨床推論 臨床判断 看護援助技術教育

地域における高齢者とその家族への支援



准教授 **松岡 広子**

(マツオカ ヒロコ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

世界中で人口の高齢化と核家族化が進んでいます。高齢者とその家族をどのように支えていくかは地域の課題であると同時に世界が直面している課題でもあります。介護予防から認知症介護における家族支援までを研究テーマとしています。

【学術論文】

- ・メキシコシティ高齢者文化センター利用者の生活意識—自らの老年期に対する意気込み—「月間総合ケア」17(6) 2007.
- ・メキシコにおける高齢者社会参加のための公的支援—首都高齢者文化センターの事例—「国際保健医療」23(3) 2008.
- ・Path dependence in social and psychological risk factors for dementia. Dementia & Neuropsychologia 5(1) 2011.
- ・開発途上国における認知症高齢者とその家族に対する社会的支援—メキシコシティの民間団体主導の事例—「応用老年学」11(1) 2017.

研究者からのメッセージ

大学近隣の高齢者サロンで学生とともにお手伝いをしています。そこで作成した作品の展示会（写真上）をメキシコの高齢者文化センター（写真下）で開きました。メキシコにはわが国ほど恵まれた医療や介護の制度はありませんが、力強く“人生のデザート”を楽しんでいる高齢者がたくさんいます。ひとりでも多くの人にそのような老年期を享受していただくために、介護予防や認知症予防の地域活動に貢献したいと思います。

研究キーワード

高齢者 介護予防 認知症 家族支援 メキシコ

新人看護師の患者との関わりに関する研究



講師 **籠 玲子**

(カゴ レイコ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

現在取り組んでいる研究はテーマは、
1. 徳の倫理の視点からの新人看護師の患者との関わりに関する研究ですが、
2. 看護師の自律性に関する研究
3. 基礎看護教育に関する研究
の研究も実施しており、研究分野として関心があります。

研究者からのメッセージ

看護師が患者さんとのように関係を形成するかに関心があり、現在、倫理の側面から研究を行っています。
看護学生から看護師となる段階の基礎教育に役立つ研究、看護師として働く中で成長を支援できるような研究をしたいと思っています。

研究キーワード

看護師—患者関係 徳の倫理



科学的ヘルスケア改善システムの看護管理への応用

講師 賀 沢 弥 貴

(カザワ ミキ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

〈書籍出版〉

- ・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 (1):看護管理 第3版、メディカ出版 (共著)
- ・看護学実践 Science of Nursing- 看護管理学、日本放射線技師会出版会 (共著)
- ・知る・活かす看護管理学、ピラールプレス (共著)

〈研究テーマ〉

- ・医療専門職における組織的人材育成
- ・看護管理学の教育方法の開発と評価
- ・看護職の多様な雇用形態の活用モデル
- ・医療安全対策と医療の質評価
- ・医療専門職のキャリア開発が病院経営に与える影響
- ・看護師人員配置と看護の質評価
- ・バランスド・スコアカードの看護管理への適用

研究者からのメッセージ

科学的ヘルスケア改善システムの看護管理への応用を基盤とし、患者アウトカムの向上を目指しております。

研究キーワード

人材育成 医療安全 質評価 病院経営

看護学部

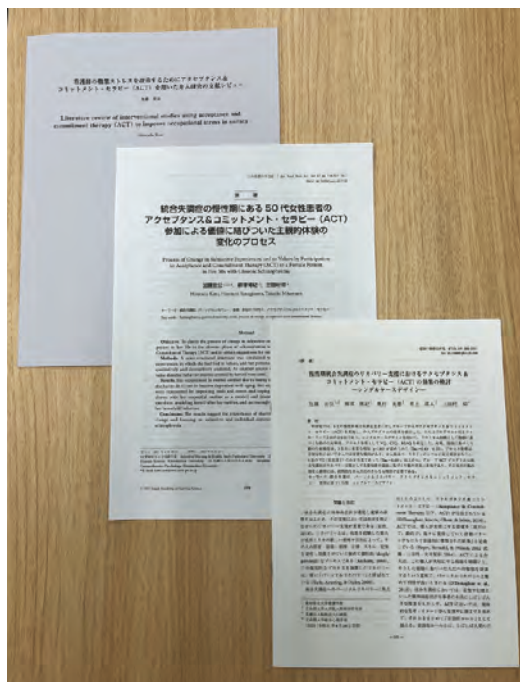


精神保健における継続的プロセス支援の研究

講師 加 藤 宏 公

(カウ ヒロタダ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

精神疾患を抱える人のパーソナルリカバリー支援や、看護師の職業ストレスへの支援など、継続的プロセスに対する臨床行動分析を用いた研究を行っています。

【学術研究論文】

- ・慢性期統合失調症のリカバリー支援におけるアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) の効果の検討-シングルケースデザイン- 認知行動療法研究, 47, 249-260, 2021.
- ・統合失調症の慢性期にある50代女性患者のアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) 参加による価値に結びついた主観的体験の変化のプロセス. 日本看護科学会誌, 42, 518-527, 2022.
- ・看護師の職業ストレスを改善するためにアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) を用いた介入研究の文献レビュー. 愛知県立大学看護学部紀要, 28, 25-37, 2022.

研究者からのメッセージ

精神疾患を抱える人への看護において、治療後も続くリカバリーのため、セルフマネジメントを維持していくための継続的なプロセスへの支援と方法論が必要です。認知行動療法や臨床行動分析を用いた支援と方法論を看護展開に応用することは、実証的な看護支援による対象者のQOL向上に役立ちます。

研究キーワード

精神看護学 文脈的認知行動療法 臨床行動分析



ヒアルロン酸合成を制御するシグナル、因子の解明

講師 **黒田 喜幸**

(クロダ ヨシユキ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

細胞外マトリックスの主成分であり、細胞間相互作用や細胞増殖などに関与することが知られているヒアルロン酸の合成量が、どのようなシグナルや要因により調節されているのかを研究しています。

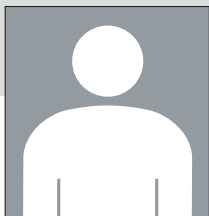
特に G タンパク質共役受容体 (GPCR) シグナルを中心として、ヒアルロン酸合成阻害剤である 4-メチルウンベリフェロンがもたらす影響も解析しています。

研究者からのメッセージ

生化学や分子生物学の分析・解析手法を看護学の研究にも活用していきたいと考えています。研究内容にかかわらず、生体サンプルなどの分析・解析の相談やお手伝いをさせていただきます。

研究キーワード

生化学 分子生物学 糖鎖生物学



育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の臨床的有用性の検証

講師 **近藤 彩**

(コンドウ アヤ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

近年、父親の育児参加が推進されるようになり、育児に積極的に取り組む男性は増加傾向にあります。国の施策においても、「父親の育児参加率を上昇させる」ことを目標に取り組んでいますが、依然として男性の育児参加は低い状況です。諸外国と比較すると、日本の男性の育児参加を示す育児時間は短く、労働時間は長く、仕事を終えてからの短い家庭での時間の中で家事・育児を行っているかと推察されます。その結果、育児疲れや育児不安に陥る父親の増加が危惧されています。そこで、育児に伴う不安や抑うつ傾向の早期発見とその予防に繋がる「育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度(MSCF)」を開発し、その信頼性・妥当性の検証(平成31年度～令和3年度)を行いました。令和4年度からは、MSCFの臨床的有用性の検証を行っています。

研究者からのメッセージ

父親の育児に伴う不安や抑うつ傾向の早期発見・予防に繋げることができるよう研究を進めています。

研究キーワード

育児 父親 メンタルヘルス

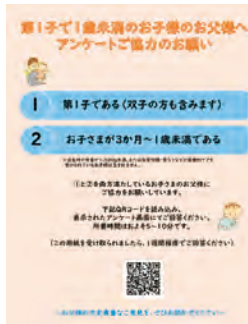


父親の子育て支援に関する研究

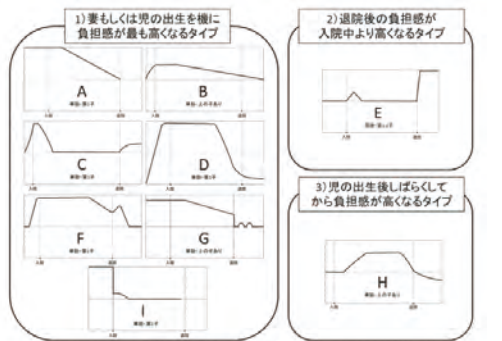
講師 清水 いづみ

(シミズ イヅミ)

看護学部 看護学科



父親へのアンケート依頼用
パンフレット(研究テーマ①)



NICUにおける
父親の心身の負担感の推移
(研究テーマ②)

研究シーズの内容

近年核家族化や共働きの増加等により、子育てのありかたが変化しつつあります。これまでは母親に焦点を当てた研究が多く、父親に関しては最近注目されるようになってきましたがまだ十分に研究がなされているとは言えません。

父親もケアの対象と捉えて育児における父親のおもいや現状について明らかにし、今後研究を重ねていくことで、国の法律や制度を充実させていく一助になると考えています。

＜過去・現在の研究テーマ＞

- ①父親の育児ストレスと子育て支援におけるニーズ
- ②NICUにおける極低出生体重児の父親の心身の負担感
- ③小児看護学実習におけるシミュレーション教育
- ④小児看護学実習における学生の困難感

研究者からのメッセージ

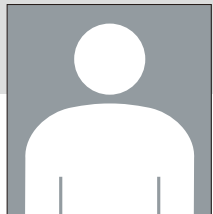
子どもと家族が笑顔で過ごせる社会を目指し、分野を超えて様々な方たちと協力しながら研究に取り組んでいきたいと考えています。

また、次世代育成をととして未来を担う学生と、『ともに考え、ともに学ぶ』ことで、研究がさらなる発展を遂げることを望んでいます。

研究キーワード

小児看護学 父親 子育て支援 NICU

看護学部



がん患者の意思決定支援に関する研究

講師 西尾 亜理砂

(ニシオ アリサ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

がん患者の意思決定に関する研究や基礎看護技術に関する研究を行っています。

がんと診断された患者さんは、治療法の選択や治療中止の決定、療養場所の選択など様々な意思決定場面に遭遇します。病気を抱えながら、人生における重大な選択を行う患者さんやご家族の負担は大きく、その負担を少しでも軽減するために何ができるのかを考えています。

【主な研究内容】

- がん患者の治療法の意思決定支援に関する研究 (2007- 継続中)
- 基礎看護技術に関する研究 (2009- 継続中)
- 新人看護師に対する看護技術研修に関する研究 (2009-2013)

研究者からのメッセージ

現代は2人に1人ががんに罹患すると言われています。がん患者さんひとりひとりが、自身が望む人生や価値観に沿って意思決定するために必要な支援を考え、保健医療福祉分野に貢献したいと思っています。

研究キーワード

看護学 がん 意思決定 看護技術

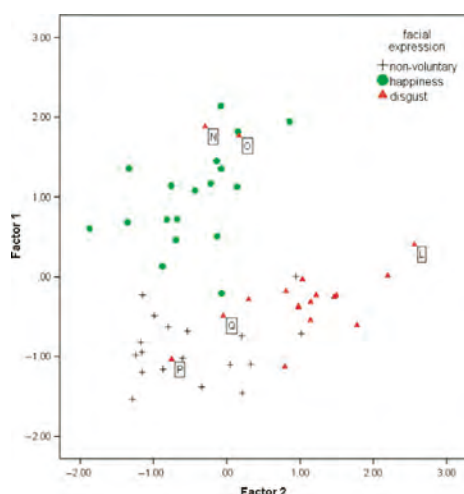
看護ケアに伴う生理学的変化の看護学的検討



講師 林 恵里子

(ハヤシ エリコ)

看護学部 看護学科



Characteristics of facial muscle activity during voluntary facial expressions: Imaging analysis of facial expressions based on myogenic potential data.
Kuramoto E, Yoshinaga S, Nakao H, Nemoto S, Ishida Y
Neuropsychopharmacology reports 39(3) 183-193 2019

研究シーズの内容

看護の効果を持視化するための試みとして、看護ケアに伴う生理学的活動を捉え、得られた結果を統合的に解析し、看護学的検討につながるよう研究を進めています。

筋電位活動を計測し、筋活動を視覚的に捉える手法として、筋電位トポグラフィ法があり、筋活動の部位や強さを色の濃淡で識別することができます。現在は、これを表情筋へ応用することにより、表情変化に伴う筋活動の変化の可視化を行っています。

表情観察の際の知識として、学修の一助につなげられるよう、継続しています。また、看護師の患者理解に対する客観性を高めることができるのではないかと考えています。(科研費:16K20727, 20K19032)

研究者からのメッセージ

これまで、看護学生が人間のからだのしくみを統合的に描くための基礎的研究に取り組み、学修過程をどのように工夫すれば、看護の専門性として高められるか、検討してきました。看護基礎教育において、臨床経験や研究内容をふまえて、根拠のある内容を伝えられるよう研鑽していきたいと考えています。

研究キーワード

基礎看護学

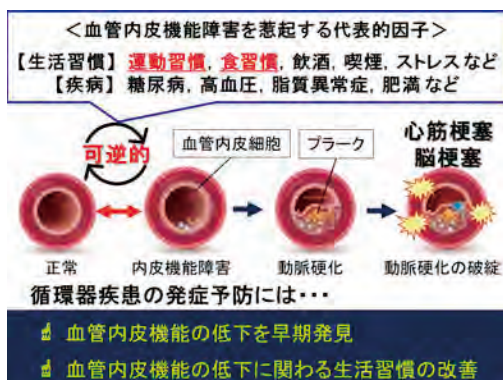
運動・栄養が動脈硬化に与える影響の解明



講師 三浦 康平

(ミウラ コウヘイ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

生活習慣病の中で、心血管性疾患の発症や進展には動脈硬化が深く関わっています。そして、動脈硬化発症の第一歩は、血管内皮細胞の軽微な機能障害から生じます。つまり、動脈血管の内皮機能をいかに正常、あるいは、よりよい状態に保つか、心血管性疾患の予防において重要な鍵となります。この血管内皮機能の状態の良悪というのは、一般的な生活習慣である運動や食事が強く影響しています。そこで、運動・栄養が動脈硬化に与える影響の解明するために、主に以下のテーマに関する研究に取り組んでいます。

【研究テーマ】

- ・運動と食事が動脈血管内皮機能に与える相互作用
- ・概日リズムを考慮した血管内皮機能に対する運動の垂急性効果

研究者からのメッセージ

運動と食事は、健康づくりにおいて根幹をなす要素であり、両輪の関係にあります。これらの相互作用や生活リズムとの関係が健康の保持増進にどのような影響をもたらすのか、エビデンスを発信し、地域に還元することで健康寿命の延伸に少しでも貢献できればと考えております。

研究キーワード

運動 栄養 動脈硬化 血管内皮機能 健康管理



看護師・保健師の臨床研究支援

講師 **横山 加奈**

(ヨコヤマ カナ)

看護学部 看護学科

実践に基づく研究 Practice Based Research

日々の看護実践から生まれた思い
思いから生まれた問い



問いに対する答え



研究シーズの内容

臨床研究の支援（論文になったもの）

ICU における鎮痛優先の鎮静の実践

離島への派遣看護師の経験

ステロイド治療を行う若い女性患者の思い

電子カルテ導入に伴う困難とその経過

看護師の環境整備に関する意識と看護理論の関係

過去・現在の研究テーマ

離島・へき地の看護

脳卒中後の摂食嚥下リハビリテーション

特定健診・特定保健指導が対象者にもたらす影響

社会的役割の負担と健康行動との関連

幼児健康度調査に関する研究

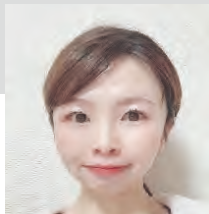
国保データ解析による糖尿病関連因子の研究

研究者からのメッセージ

看護師・保健師に対する臨床研究の要求は増えています。現場はたくさん抱え、研究のテーマには事欠きませんが、それを形にしている方法については、困難を感じているスタッフ、指導者が多い現状です。臨床現場の想いを、学会発表、論文投稿に繋げるサポートを、8年にわたり実践してきました。そのほかに、健診データの解析や離島・へき地の看護について継続して研究を行っています。

研究キーワード

臨床研究支援 離島・へき地の医療・看護 QOL GIS



医療的ケア児と家族のセルフケア支援

助教 **足立 奈穂**

(アダチ ナホ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

医療の進歩により、気管切開などの医療的ケアを必要とする児は、増加しています。医療的ケア児の場合、発達や病状が多様であることも相まって、養育する家族や支援する専門職者は児独自の体調管理の難しさからセルフケア支援について困難を抱えています。医療的ケア児が、乳幼児期から学童期・思春期へと成長するなかで、医療的ケア児と家族に対する理解やセルフケア支援の構築に向けて、取り組んでいます。

〔研究課題〕

- ・医療的ケア児のセルフケア支援に関する基礎研究
－セルフケア行動の解明－（2021－）

研究者からのメッセージ

医療的ケア児と家族への支援について探求しています。

医療的ケア児と養育する家族は、日常的に医療的ケアや体調管理を要するからこそ「強み」や「魅力」にあふれています。彼らの「強み」や「魅力」について多くの人に理解してもらい、生きる力を引き出すとともに、その子と家族らしい生活が送れるよう、分野を超えて共同できます事を期待します。

関心のある方、ご協力願える方はぜひご連絡下さい。

研究キーワード

医療的ケア 小児慢性疾患児 セルフケア 小児看護学



看護師と看護補助者の協働

助教 **荒木 亜紀**

(アラキ アキ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

- ・看護師と看護補助者の協働に関する研究をしています。
- ・修士論文テーマ「看護師が看護補助者に患者の直接ケアを委譲する際の思考と判断」

研究者からのメッセージ

近年、患者に安全・安心な医療や援助を提供するために、看護師と看護補助者の協働が推進されています。そこで、看護師には看護補助者と協働しながら看護を提供するための新たな能力が求められています。それらがなにかを明らかにし、必要な能力を向上させるための方策を考えていきます。

研究キーワード

看護師と看護補助者の協働



がん患者の価値観を捉える教育プログラムの開発

助教 **内村 葉**

(ウチムラ シオリ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

がん患者は、日々の生活のなかで自身の病状や取り巻く状況から様々な課題を抱えています。医療者は、患者に最善とされているCureやCareを提供するために、情報提供や理解を深められる関わりを行います。しかしながら、そのCureやCareは必ずしも患者の最善とはなりません。がん患者は、自身の意向や周囲の人々の考えも踏まえて、どのように過ごすか選択を迫られます。患者が自律した意思決定をすることができるよう、看護師には患者の価値観を捉えることが必要であると考えています。左図は、プログラム資料の一部です。

【研究課題名】

積極的治療ができなくなったがん患者の意思決定における倫理的問題に関与できる看護師の教育プログラムの開発

ー倫理的感受性と倫理的推論に焦点を当ててー

研究者からのメッセージ

修士論文にて上記研究を行いました。また以前には、臓器提供に関する大学生の意識と意思表示、またその家族の意思表示について、研究を行ったこともあります。

どんな人でも、最期まで自分らしく過ごせることが最も大切であると、私は考えています。今後もがん患者等の倫理や意思決定、看護実践に関する研究を行い、臨床への還元に努めます。

研究キーワード

がん、倫理的問題、意思決定、臓器提供、意思表示

1. 倫理的問題を明らかにする方法



【教育プログラム事例】資料1

ある日、65歳代後半の女性、顔から鼻まで、いつも明るくハハと笑っている。前年癌診断で化学療法後、自身の言葉でこれまでの経過を説明することができ、治療に関する説明の聴には積極的に質問している様子あり。自分のことは自分で決めたいといつも言っていた。

化学療法終了後3か月が経過。体動困難と食欲不振、嘔気、嘔吐を主訴に受診。白毛増量は肉眼であり、人口気管となる。CT診断にて多発肝転移、腹水貯留がみられる。癌転移、後天性免疫不全、関節痛あり。下肢浮腫もみられる。

主治医より「癌は再発が頻りにあるものですね。胃に管（胃管）を入れて、癌を治しましょう」と本人も同意した。癌転移、関節痛、胃管挿入にて経過をみていくことになる。

主治医の考えとしては、ターゲッド療法に移行しており、今後状態が悪化していくことが予測され、予後は1-3か月程度とのこと。食事摂取は困難であることが予測された。数日後、医師から本人、夫に病状と治療方針を説明される。本人、夫ともに病状悪化について理解し、症状緩和を主として人工呼吸器について検討した。しかし主治医は、本人の食事摂取への強い思いを聞き、今後食事摂取の困難となることを伝えることができなかった。

本人「進行しているんですね。この胃（胃管）を入れたら、気持ち悪くなりそうです。どうにか食べられようとしてほしいです。この胃（胃管）はやっぱり入ったほうがいい？」

夫「胃管になったみたいで良かったです。胃と食べられるようにしてやって下さい。妻の希望が一番です。」

週に1回、癌転移も進行。経過をみていた。ある日午前中に3時間かけて腹水を引、経過した。午後には夫、通方に行き、親友が通方に来る。看護士が診察すると、4人で楽しそうに談笑しながら、デザートを食べる。

看護士「あれ？食べたいのになんて知らないのか？人間関係から話しているのに、いつもは食べているのになんて？」

その他、胃管から経路がみられず、原因は、家族ともに誤飲したデザートが詰まっていたことであった。数日後、再発となる。



母性看護学

助教 **勝村 友紀**

(カツムラ ユウキ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

1. 不妊治療看護に関する研究
2. 院内助産に関する研究
3. 切れ目ない継続支援に関する研究

助産師には、あらゆるライフステージにおける女性とその家族への支援を行うという役割が求められており、切れ目のない継続的な支援が必要だと考えています。

不妊治療の影響は育児期にも及ぶことが指摘され、子育て中に不妊治療を受け第2子、第3子を望む夫婦も増えてきています。不妊夫婦のニーズに合った看護ケアを提供するための研究を進めています。

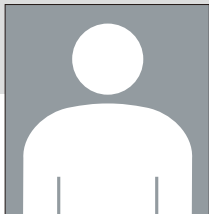
また、助産師主導のケアを提供する院内助産が開設され始めていますが、その機能は施設によって様々です。院内助産がうまく機能し、助産師が本来の役割を発揮できるような方法を考えています。

研究者からのメッセージ

助産師の役割は妊娠・出産・産後にとどまらず、大変多岐に渡っています。どのライフステージにおいても、必要なニーズを汲み取り、適切な支援を提供することが専門職としての助産師には求められていると考え、研究を進めています。

研究キーワード

生涯発達看護学 助産学 不妊看護 院内助産



前立腺全摘除術後患者のパートナーのレジリエンスに関する研究

助教 **金澤 美緒**

(カナザワ ミオ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

前立腺全摘除術後患者と共に暮らすパートナーのレジリエンスに関する研究

[学術論文]

手術を受けた前立腺がんサバイバーのレジリエンス。日本看護科学会誌, 38, 318-327, 2018

研究者からのメッセージ

前立腺全摘除術後患者とパートナーとが術後の困難にうまく適応しながら生きることを可能にする、患者とパートナーとが相互作用しながらレジリエンスを高める過程を促進する看護実践モデルの開発に取り組んでいきたいと考えています。

研究キーワード

前立腺全摘除術後患者、パートナー、レジリエンス、看護実践

精神看護学（精神鑑定・司法精神看護）



助教 **児玉 善明**

（コダマ ヨシアキ）

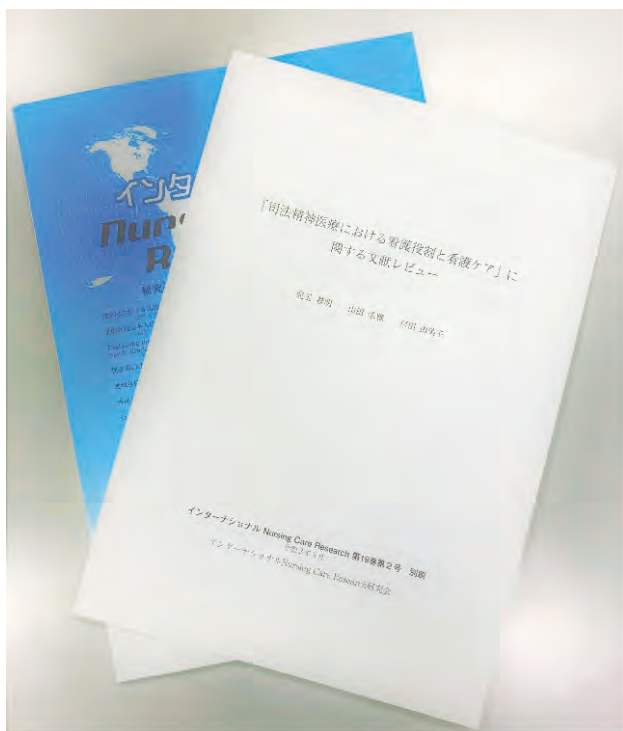
看護学部 看護学科

研究シーズの内容

精神科病院で関わる触法行為のある患者・対象者、特に精神鑑定の対象者へ関わる看護職の体験に焦点をあてた研究をしています。

〔学術論文〕

「司法精神医療における看護役割と看護ケア」に関する文献レビュー（インターナショナル Nursing Care Research.2020.）



研究者からのメッセージ

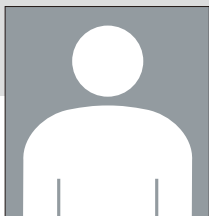
精神科看護師として精神保健福祉法・医療観察法での触法精神障がい者への看護実践や刑事精神鑑定対象者と関わる経験を通して、触法行為の当事者支援だけでなく、支援者支援も重要だと感じています。

また、精神科病院の看護職だけでなく、触法精神障がい者を支援している矯正施設や精神科訪問看護の看護職への支援に繋がるような研究をしたいと考えています。

研究キーワード

司法精神看護 精神鑑定 触法精神障がい者 支援者支援

高齢者が望む場所で生活し続けるための研究



助教 **竹内 佳見**

（タケウチ ヨシミ）

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

介護を必要とする高齢者が在宅で生活するにあたり、どのような支援が必要か研究を行っています。

研究者からのメッセージ

高齢者とその家族の生活を支えるための研究を行っていきたいと考えています。

研究キーワード

老年看護学 在宅介護



意思決定支援に関する研究

助教 田中 里佳

(タナカ リカ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

意思決定支援に関する研究を行っています。
がん患者だけでなく、病いをもった方は、治療法の選択、療養場所の選択等、病状により、幾度となく選択を迫られます。
その方の価値観や今後の望む生き方等を考え、意思決定すること、本人が納得した選択ができることが重要であると思っています。少しでもより良い選択ができるためには、どのような看護が必要であるのか考えています。

研究者からのメッセージ

意思決定支援は、どのような意思であってもご本人様が納得した上で選択できるように看護を行うことが重要だと考えています。
倫理的な問題も含んでいますので、研究を通して、少しでもよりよい意思決定、意思決定支援ができるよう貢献したいと考えています。

研究キーワード

意思決定 意思決定支援 がん看護 死生観

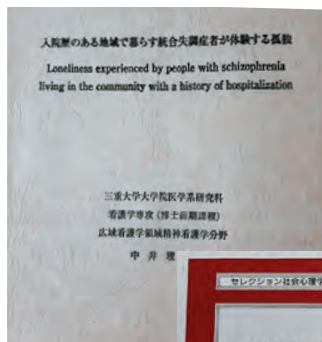


精神看護学

助教 中井 理賀

(ナカイ リカ)

看護学部 看護学科



研究シーズの内容

精神障害を抱える方、特に統合失調症をもつ方の生活が少しでも豊になるような関わりや支援を考えるため、統合失調症をもつ方の孤独を探索しています。

孤独は、ネガティブなイメージをもたれることが多く、実際、慢性疾患や喫煙と同レベルの健康被害をもたらすと言われています。一方で、プライベートな時間であり、社会の役割から解放され、自分自身について考える機会になり得るという考えもあります。

対人関係に悩まれている方が孤独のもつ良い側面をうまく利用することで、リカバリーにつながっていくのではないかと考えています。

研究者からのメッセージ

まだ経験は浅いですが、今後も当事者の方のお話を聞き、精神障害を抱えながら生活することへの思い等、より多くの方の声を社会に届けることで、少しでも貢献できればと思っています。

研究キーワード

統合失調症 孤独 地域生活



救急・重症患者の家族看護における研究

助教 **中村 剛士**

(ナカムラ ツヨシ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

わが国の救急搬送数は年々増加傾向にあり、重症度が中等症以上の患者の搬送も半数以上を占めています。救急搬送されてくる患者は瀕死状態であることが多く、患者本人が意思決定できません。そのため、家族が患者に代わって意思決定をすることが多く、非常に重い責務を負う。救急・重症患者の家族に対する支援として、心理的重責を軽減し、家族機能の低下を予防するためにも代理意思決定支援が急務かつ重要な課題です。救急・重症患者の家族看護について探究しています。

研究者からのメッセージ

子供のころ、自らの入院・手術といった病気体験によって自分の家族が崩壊していく様子を目の当たりにしました。臨床場面でもご家族が苦悩している様子を数多く見てきました。患者さんを含めた家族支援の重要性に気が付き、家族支援専門看護師を取得しました。また、救急・重症患者の家族支援における研究をおこなっています。

研究キーワード

家族看護 家族ケア 救急 クリティカルケア 意思決定支援



地域在住高齢者に対する意思決定支援

助教 **長谷部 七重**

(ハセベ ナナエ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

介護予防の段階にある高齢者の方に対するアドバンス・ケア・プランニングの普及に関する研究を行っています。

研究者からのメッセージ

新型コロナウイルス感染症流行前は、地域サロンで高齢者の方を対象に、アドバンス・ケア・プランニングや介護予防についての講話を行わせていただいていた。人生の最終段階を迎えても、住み慣れた地域でその人らしく過ごすことができるよう、お手伝いをさせていただけたらと考えています。

研究キーワード

老年看護学、アドバンス・ケア・プランニング、介護予防



生涯における女性のケアと継続的支援

助教 米川 美那

(ヨネカワ ミナ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

1. 更年期症状で悩む女性に関する研究
2. 看護・助産師教育に関する研究
3. 妊娠から切れ目ない継続的支援に関する研究

国際助産師連盟（ICM）は、「助産師の国際倫理綱領」を発表しており、そこに助産師は女性の権利擁護者となることが明示されています。助産師は、妊娠・出産に関連するケアだけでなく、あらゆるライフステージの女性や家族の健康を継続的に支援する役割が求められています。現在、その役割を担うことのできる助産師の育成に関わる研究を進めています。

また、将来的には、本学で開催している子育て広場において、女性を継続的に支援するプログラムを開催できることを目指しています。

研究者からのメッセージ

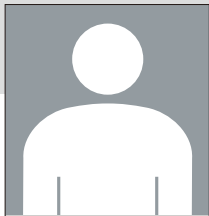
助産師として、あらゆるライフステージの女性を継続的に支援したい気持ちから、更年期症状で悩む女性へインタビューすることから始めました。その研究から、やはり女性や家族を継続的に支援する専門職の必要性を感じました。

現在は、その専門職育成に関わる研究を進めています。

研究キーワード

生涯発達看護学 助産学 助産師教育 更年期女性

看護学部



喉頭全摘術を受ける患者に関する研究

助教 渡邊 直美

(ワタナベ ナオミ)

看護学部 看護学科

研究シーズの内容

左図のように、手術療法を受けるがん患者の治療法の意味決定の構造や喉頭全摘術を受ける患者の意思決定に影響する要因を明らかにしてきました。今後も、喉頭全摘術を受ける患者に関する研究を進めていきたいと思っています。

[学術論文]

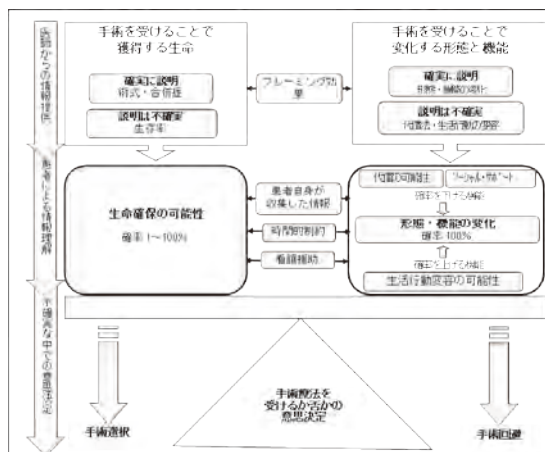
渡邊直美, 鎌倉やよい. 手術を受けるがん患者の意思決定に影響する要因. 日がん看護誌 .28(1),1-6,2004

研究者からのメッセージ

喉頭全摘術を受ける患者さんのお役に立てるような研究を行ってきたいと考えています。

研究キーワード

喉頭全摘術 むし 意思決定 集中治療



手術療法を受けるがん患者の意思決定に関する概念図試案

教授 黒川景

(クロカワ ケイ)

看護学部 看護学科

現在の研究課題

病理学、病理診断学、腫瘍病理、感染症の病理

准教授 広瀬会里

(ヒロセ エリ)

看護学部 看護学科

現在の研究課題

終末期にあるがん患者の在宅療養に向けた退院支援、終末期がん患者の意思決定支援

講師 尾沼奈緒美

(オヌマ ナオミ)

看護学部 看護学科

現在の研究課題

1. がん患者の治療の意思決定に関する研究 2. がん患者のリスク認知に関する研究 3. 医療におけるリスク・コミュニケーションに関する研究

講師 鈴木幸子

(スズキ サチコ)

看護学部 看護学科

現在の研究課題

母性看護学、ウィメンズヘルス、助産学

助教 伊藤裕子

(イトウ ヒロコ)

看護学部 看護学科

現在の研究課題

ICU サバイバーの在宅移行支援に関する研究



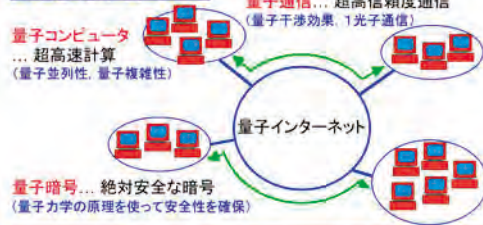
量子通信・量子暗号・量子コンピュータの研究

教授 臼田 毅

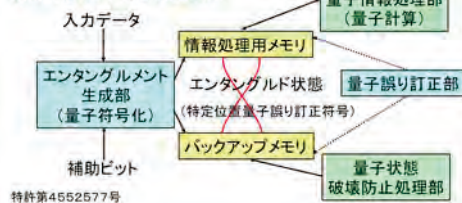
(ウスタ ツヨシ)

情報科学部 情報科学科

量子通信ネットワーク



技術の例(量子状態復元装置)



研究シーズの内容

光、電磁波、電気、磁気などの情報媒体は、究極的には量子力学の法則に従います。量子情報科学は、量子力学を基礎とした情報システムの設計を行うことで、システムの性能を格段に向上させることが期待されている新しい分野で、現在、各国で研究開発が進められています。私たちは、その基礎理論である量子情報理論、超高信頼度通信とされる量子通信、超高速計算とされる量子コンピュータ、絶対安全な暗号として期待される量子暗号について、研究を進めています（左上図）。

【最近の研究テーマ例】

- ・量子情報理論：有限の“けちん坊”量子情報源はあるのか？
- ・量子通信：多元量子信号に対するビームワンダリングの影響
- ・量子暗号：量子最適測定誤り率近似式と量子暗号評価への応用
- ・量子計算：量子-古典ハイブリッド計算による線形方程式の解法

研究者からのメッセージ

この研究を始めたのは30年近く前になります。当時の先進技術だった光通信よりも格段に先を行く夢の通信「量子通信」の存在を知ったためでした。以来、量子情報理論、量子暗号、量子コンピュータと、量子情報科学全般の研究に携わってきました。量子情報の研究者には、専門は他分野で、一部のテーマに一時的に興味を持って参入する人も多いのですが、一貫して研究を継続し、複数のプロジェクトを実施してきました。左下図に、企業と共同で取得した特許の例を示しました。

研究キーワード

量子情報科学 量子情報理論 量子通信 量子暗号 量子計算



離散事象システムの解析と応用

教授 太田 淳

(オオタ アツシ)

情報科学部 情報科学科

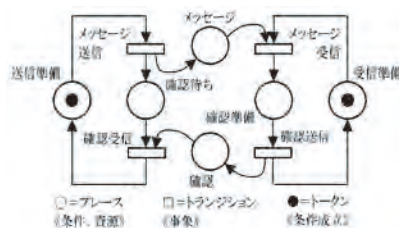


図1 簡単な通信プロトコルのペトリネットモデル

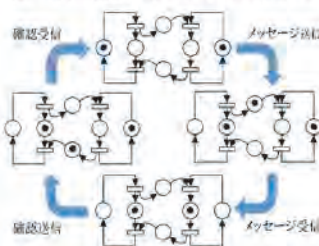


図2 ペトリネットモデルの動作

研究シーズの内容

離散事象システムとは、何かできごとが起こることでその状態が遷移していくシステムのことであり、それぞれのできごとの起こった時刻よりも、順序を重視するものです。このような離散事象システムとして表される対象には、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、通信プロトコル、生産システム、交通システム、ビジネスワークフローなど、人間が作ったシステムの多くが含まれます。離散事象システムを解析するためには、適切な数学モデルが必要であり、ペトリネットはそのようなモデルの一つです。ペトリネットは図的表現をもち、モデルを視覚的に理解することや、シミュレーションを行うことができる一方で、数学的表現によって、理論的な解析を行うことができます。このようなペトリネットの解析問題の理論的研究と、離散事象システムに対する応用研究を行っています。

研究者からのメッセージ

離散事象システムは有限個の状態をもつ多数の部分からなり、有限だが膨大であるシステム全体の状態を総当たりしなければ解決できない「組み合わせ最適化」問題に遭遇することがよくあります。ちょっと前までは組み合わせ最適化の壁によって理論的には解けるが現実規模の対象には適用できないような問題が、近年のコンピュータの飛躍的發展によって力ずくで解けるようになってきていると感じています。

研究キーワード

電気電子工学 通信・ネットワーク工学 離散事象システム



待ち行列モデリングと問題解決術

教授 奥田 隆史

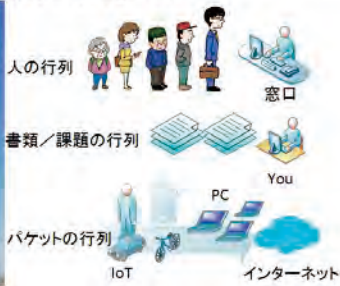
(オクダ タカシ)

情報科学部 情報科学科



★待ち行列バスターズ★

情報科学技術による賢いシェアリングで社会のムダな待ち行列をなくす！



研究シーズの内容

私はいわば“待ち行列バスターズ（退治屋）”です。皆さんの周りにはこんなことはありませんか。職場の書類の山が減らない、導入した情報システムの反応速度が遅い。家庭ではお子さんの宿題がたまる。近所の店舗では長蛇の列ができています。これらの現象に共通するのはサービスを受けるために生じている待ち行列です。職場では書類、情報パケット、家庭では宿題、店舗では人が待っています。

待ち行列は気合い、根性、残業、勤勉とかのガンバリにより一時的には減らせるかもしれませんが、でも根本的な解決はできません。私、“待ち行列バスターズ（退治屋）”は、イヤな待ち行列を退治する方法を日夜研究しています。退治方法に使う道具はシミュレーション、AI、IoT、ロボットなどの情報科学技術です。さらに人がそもそも持っている自律性、協調性、学習意欲なども活用します。

研究者からのメッセージ

世界経済は所有型経済から、自律・分散・協調型コモンズで展開される共有型経済へとシフトしつつあります。その結果、モノや労働力は、多くの人で共有しながら必要なときだけ利用／提供するというフロー型のリソースに変わりつつあります。待ち行列バスターズの出番が増えていきます。講演、相談、共同研究でお役に立てるかと思います。よりお役に立てることは、情熱を持った仲間同士で、楽しく学び合える、遊び心ある研究・勉強会を一緒に開催することです。ご連絡をお待ちしております。

研究キーワード

情報通信システム 待ち行列モデルと問題解決 知的生産の技術



パターン認識に関する研究

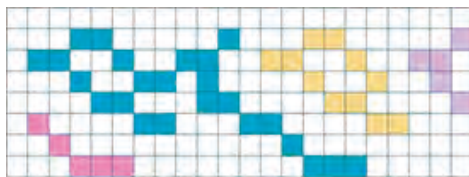
教授 何 立 風

(カ リフウ)

情報科学部 情報科学科

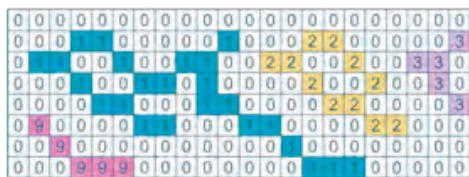
研究シーズの内容

- 1 画像中の物体の高速抽出（連結成分のラベル付け）方法
- 2 物体特徴（面積、重心、周囲長、円形度）の高速抽出方法
- 3 オイラー数の高速計算方法



背景画素 物体画素

ラベル付け前



ラベル付け後

研究者からのメッセージ

自動運転システムや人間型ロボットの時代が間もなくやってきます。自動運転システムや人間型ロボットの実現には、人間の視覚に相当する技術、いわゆるコンピュータビジョンが不可欠です。コンピュータビジョンは画像中の物体の自動認識（パターン認識）を行い、状況判断を支援します。これら関連の研究成果は、ものの自動分類、企業の製品の質量の自動検査などに応用することができます。

研究キーワード

パターン認識 人工知能 画像処理

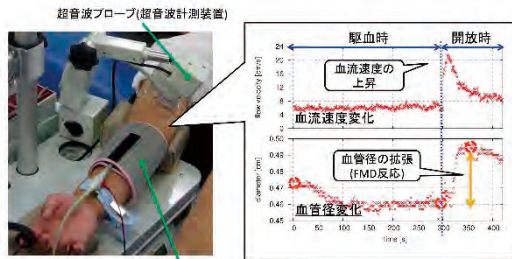


生体機能の解析・診断技術に関する研究

教授 神山 斉己

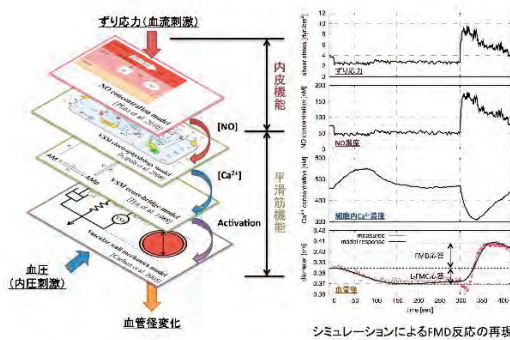
(カミヤマ ヨシミ)

情報科学部 情報科学科



(a) FMD検査の様子

(b) FMD検査結果の一例



シミュレーションによるFMD反応の再現

研究シーズの内容

■血管機能の解析診断技術

従来のFMD検査等の血流刺激に対し生じる血管応答に基づいた血管機能評価は、特定の時刻の最小径と最大径といった特徴量のみが用いられる「点」の分析でした。本研究室で開発した血管系のマルチスケールモデルのシミュレーションによって、FMD検査時のデータから血管内部の細胞生理メカニズムの特性、生理物質の動態（NO濃度やCa濃度等）が推定でき、動脈硬化の超早期診断も可能となります。

■視覚機能のシミュレーション技術

ヒトの眼球光学系、網膜錐体モザイクの解剖学的、生理学的特性に基づいた初期視覚系のコンピュータモデルを開発しています。外界像がヒトの視覚系でどのように受容、処理、表現されているか、その情報処理の具体的な様子を網膜内の神経細胞の応答レベルで明らかにすることができます。

研究者からのメッセージ

生命体の働き、仕組みについて、細胞レベルの特性から超精密なレベルでコンピュータモデル化するアプローチで研究を進めています。元々はモノを見る仕組みを科学的に理解するための研究手法として細胞モデリング技術を開発してきましたが、この手法が生命体の様々な部位に適用でき、血管系のモデル化・シミュレーションによって、動脈硬化の超早期診断技術等、医療応用にも威力を発揮することがわかってきました。

研究キーワード

生体情報科学 神経情報科学 シミュレーション



自律ロボット（エージェント）の協調動作の獲得

教授 小林 邦和

(コバヤシ クニカズ)

情報科学部 情報科学科

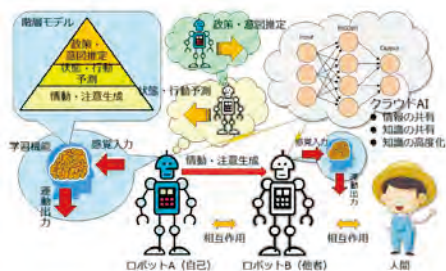


図1. 脳情報処理型インテリジェントシステムと知識再利用型インテリジェントロボットネットワークシステム

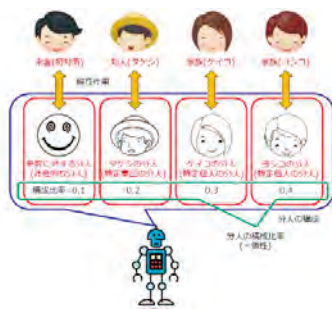


図2. 分人型ヒューマン-ロボットインタラクションシステム

研究シーズの内容

- 1) 脳情報処理模倣型インテリジェントシステムの研究開発
複数のロボット同士や人間とロボットが、共通の目的を目指して、協調動作を行うために、他者（ロボット）の行動予測や意図推定の研究を行っています（図1参照）。
- 2) 分人型ヒューマン-ロボットインタラクションシステムの研究開発
他者（人間やロボット）とコミュニケーションを取る際に、分人という概念を用いて、ロボットに個性を持たせる研究を行っています（図2参照）。
- 3) 知識再利用型インテリジェントロボットネットワークシステムの研究開発
個々のロボットが獲得した知覚情報、知識、行動規則をクラウドで共有し、再利用させる研究を行っています（図1参照）。

研究者からのメッセージ

大目標として、サービスロボットの社会への導入促進があります。人間が仕込んだ動作やコミュニケーションしか取れないサービスロボットは、一般ユーザからすぐに飽きられ、社会へ受け入れられることは難しいと思います。しかしながら、他者（人間やロボット）の意図が推定できれば、他者との円滑な協調動作が実現できます。また他者に応じて、コミュニケーションの様式が変更できれば、多様なコミュニケーションが実現できます。

研究キーワード

人工知能 知能ロボット ヒューマン-ロボットインタラクション



波動方程式族の逆問題に対する数値解法の研究

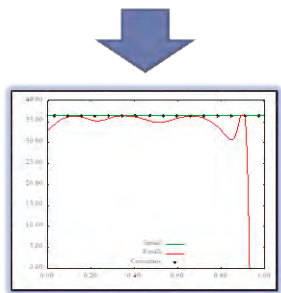
教授 代田 健二

(シロタ ケンジ)

情報科学部 情報科学科



振動を与えて
周波数データ取得



内部の壊れ具合を推定

研究シーズの内容

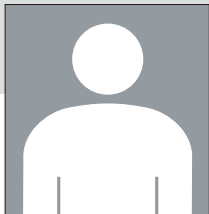
1. 波動方程式族の係数同定問題に対する数値解法の研究
2. 位相最適化手法を用いた逆問題数値解析の研究
3. 多倍長計算による逆問題高精度数値解法の研究

研究者からのメッセージ

偏微分方程式、特に波動方程式族で表現された数理モデルにおける逆問題・逆解析に対する数値解析・数値的再構成手法を研究しています。近年は、位相最適化（トポロジー最適化）手法の逆解析への応用を研究しています。

研究キーワード

逆問題 波動方程式族 数値解法 位相最適化手法



コンカレントシステムのモデル化および解析

教授 辻 孝吉

(ツジ コウキチ)

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

システムの動作は問題の設定により離散的な事象変化を用いて解析することができ、プログラムから人間の行動に至るまで非常に多くのものが含まれます。このようなシステムを解析するための有力な手法にPNモデルを用いる方法があります。本研究室ではPNの理論的研究とその拡張モデル（量子PN、Fuzzy-PN等）の提案、学習推論機構の提案、それらの理論的検討、シミュレーションを通して実情報システムへ応用（学習型Fuzzy推論、通信プロトコル、量子コンピュータ、自律分散システム、生産システム等に応用）を研究しています。その他、コンカレントシステム関連の研究（格子グラフ、カオス、記号解析等）も行っています。

* 詳細は左記アドレスをご参照ください。

研究者からのメッセージ

情報システムに関する数理を基本に、人間の動作から、通信、プログラム、量子コンピュータ、人工知能までコンカレントな動作を特徴とする大規模システムのモデル化、解析、設計手法に関する研究を行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

研究キーワード

情報システム数理 知能情報学 システム工学 計算機科学



信号に加わっている雑音の除去

教授 戸田 尚宏

(トダ ナオヒロ)

情報科学部 情報科学科

例: 生体電気信号の計測



研究シーズの内容

音声や電気信号など、取得したい信号には、種々の雑音が混入し、支障となる場合が多々あります。しかも雑音の特性が刻々と変化していく厄介な場合があります。

本研究シーズは、そうした外来の雑音を信号処理技術によって低減させる方法の一つを提供します。その方式は、雑音源となる信号を参照信号として取得し、雑音に汚された信号を参照信号によって分析して、含まれる雑音成分だけを推定しながら消し去る「適応フィルタ」と呼ばれる技術を基礎としています。医療診断などが対象とする微弱な信号に、商用交流電源由来の大きな交流雑音が混入しているような場合では、本来の信号を歪めては意味がありません。通常の適応フィルタではそうした問題がありますが、本シーズでは、これも解決し、特許も取得しています (特許第 5593289 号)。既に、眼科医療機器メーカーの製品に採用されており、実際に臨床応用に供しています。

研究者からのメッセージ

適応フィルタによる雑音除去では、適用場面に応じて、種々の工夫や改良が必要な場合があります。従いまして、利用する場面において、最大のパフォーマンスが出せるように、綿密な打ち合わせと、テストが必要になります。知財に関しましては、相談させて頂くことになります。

適応フィルタだけではなく、一般の信号処理、ニューラルネットワークによる知識処理、X線CTスキャナの画像再構成に関する研究もしています。

研究キーワード

生体医工学・生体材料学 人間医工学 医用システム



3次元空間センシング応用に関する研究

教授 村上 和人

(ムラカミ カズヒト)

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

人の解析から複数ロボットの制御まで

①レーザレンジファインダーによる3次元空間計測

次世代ロボット研究所のアリーナ内の4か所にレーザレンジファインダーを設置し、広領域の3次元空間センシング手法と点群データ (point clouds) からの物体検出手法について研究しています。

②モーションキャプチャを用いた動作解析

人の動作データをモーションキャプチャで取得し、人の微妙な動きを解析する手法を研究しています。

研究者からのメッセージ

次世代ロボット研究所アリーナの特徴を生かした研究を進めています。

施設の特徴: ①十分な実証実験スペース (広面積・高天井の屋内空間: 16m × 28m × 8.5m)、②国内有数の照明設備 (光の三原色を調整し、色合いの異なる様々な照明環境を創出)、③空間内の物体を3次元的に計測可能 (人やロボットの動作の正確な把握)

研究キーワード

3次元レーザスキャナ モーションキャプチャ point clouds 多視点画像

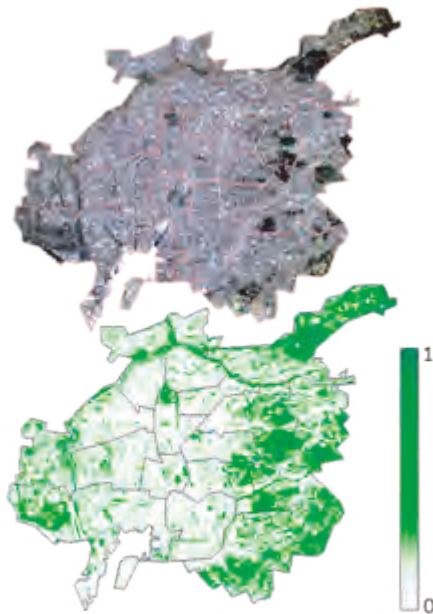


衛星画像解析手法に関する研究

教授 **吉岡 博貴**

(ヨシオカ ヒロキ)

情報科学部 情報科学科



(上図) LANDSAT-7 号による名古屋市の衛星画像
(下図) 画像処理を実施して抽出された各地点
(各画素内)の緑被面積割合(緑被率)

研究シーズの内容

人工衛星による地表面観測結果から植生を定量するための手法開発、大気補正などの衛星画像処理、衛星センサーの相互校正に関する研究を行っています。衛星画像データから緑被率などのモニタリングに必要な付加価値の高いデータを作成し、それらを役立てることで社会貢献を目指しています。

- 1 衛星画像解析手法に関する研究
- 2 衛星センサー間相互校正に関する研究
- 3 植物中の太陽光放射伝達過程モデリングに関する研究

【科学研究費補助金による研究課題】

地球観測データの相対校正手法に関する基礎研究(2009-2013)、地球観測データの統融合化を目的とした相対校正手法の開発(2015- 継続中)

研究者からのメッセージ

気候変動やヒートアイランド現象などの環境問題が関心を集める中、衛星による地球観測の役割はますます大きくなっています。当研究室ではこれらの問題に対して、データ処理手法の開発など、情報科学の観点から取り組んでいます。

研究キーワード

自然共生システム 植生変数 環境リモートセンシング



衛星観測データ統融合による環境データサイエンス

准教授 **小畑 建太**

(オバタ ケンタ)

情報科学部 情報科学科

世界中のセンサによる大規模地球観測データ(環境ビッグデータ)

政府機関中心の大型地球観測衛星
(1980年代～、数十機)

産業界の小型衛星コンステレーション
(2010年代～、数百機～数千機)

統融合処理



地球環境変動・土地被覆変化などに関する情報抽出

- ・ 長期にわたる地球環境変動の観測・将来予測
- ・ 実利用重視の環境データサイエンス応用研究

研究シーズの内容

1. 軌道上衛星センサの絶対校正
センサが観測した電気信号を輝度等の物理量へ変換可能にすることを、センサの絶対校正といいます。複数センサによる一貫したデータ解析のため、センサ間における校正標準の伝達(統一化)を行うことがあります。その解析手法を開発しています。

2. GEO-LEO データ統融合のためのデータスクリーニング
正確なデータ統融合のためには観測条件による系統誤差の少ないデータを抽出することがあります。特に静止衛星(GEO)と低軌道衛星(LEO)の統融合を目指した手法開発を行っています。

3. 統融合データによる環境変化情報抽出
(環境データサイエンス)

様々な仕様の衛星センサによる大量の地球観測データを使った、陸域植生変数解析手法の開発を行っています。物理過程を表すモデルにもとづいた手法の開発を目指しています。

研究者からのメッセージ

最近では小型衛星の増加や気象衛星の高性能化等により環境ビッグデータ時代に入っており、大量かつ不均質な衛星データから如何に正確かつ有用な情報を抽出するかが重要となります。そこで、衛星センサが観測する放射輝度等の物理過程に従う、より正確な複数衛星によるデータの統融合モデル・アルゴリズムを開発することを目指しています。

研究キーワード

データサイエンス 衛星データ処理

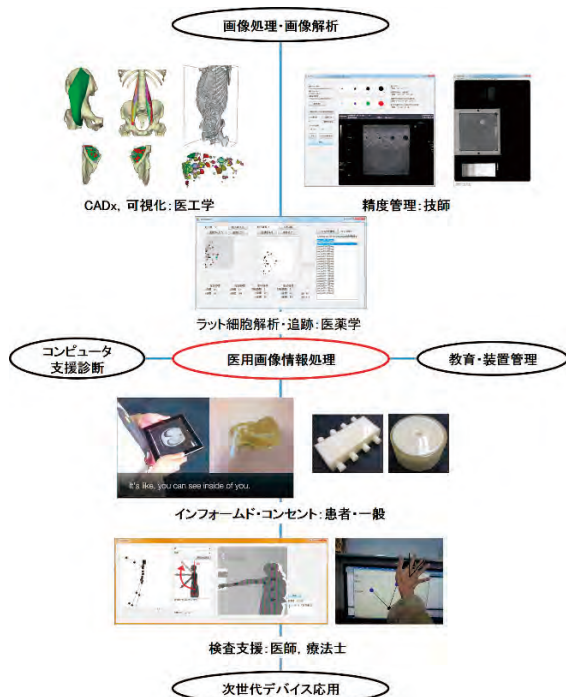


人体数理モデル構築と医用画像情報処理技術

准教授 **神谷 直希**

(カミヤ ナオキ)

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

世の中には様々な画像が存在します。ここでは、医療現場で撮影された画像を用いた、医用画像処理に関する研究を行っています（CT 画像、超音波画像等を用いた病変解析等・・・）。

主なテーマは筋に関する画像認識・解析で、多元計算解剖学に基づく骨格筋の機能解析に関する研究に取り組んでいます。他にも、骨の微細構造特徴の自動認識・解析に関する研究、体幹部骨格筋の部位別解析のための計算機支援診断システムに関する研究を行っています。

システムの対象は、医師、技師、療法士、学生、患者や患者の家族などであり、画像処理をベースにしたソフトウェア、ハードウェアを限定しない各種の医用画像情報処理技術が提供可能です。

研究者からのメッセージ

工学技術を利用し、医療、看護、福祉等様々な分野に対するチャレンジをしています。

画像処理技術をはじめ、様々なセンサやシステムを活用・構築し、最先端の取り組みを行っています。工学の秘める大きな可能性を探求していきましょう。

研究キーワード

コンピュータ支援診断 医用画像情報処理 計算解剖学

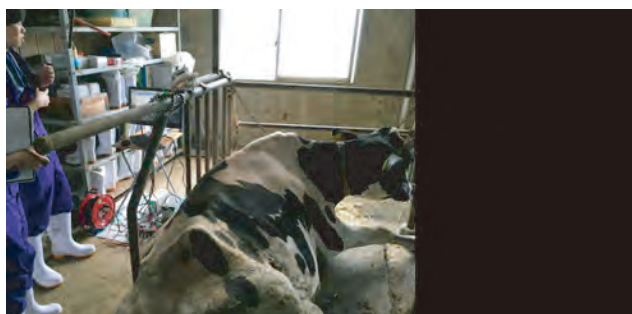
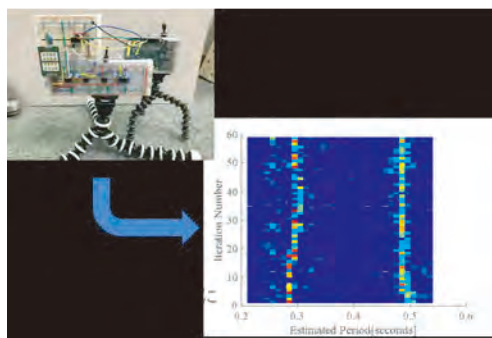


非接触生体情報センサと IoT

准教授 **神谷 幸宏**

(カミヤ ユキヒロ)

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

人や動物の体に何もつけないで、電波を使って離れたところから呼吸や心拍をモニタリングする技術を研究しています。これを機械に応用すると、機械にセンサをつけなくても、動きや振動をモニタリングできる可能性があります。私は、信号処理を工夫することによって、これまでにない新しい応用を開拓しています。たとえば、1台のセンサで複数の人を同時に監視する技術や、従来にくらべ非常に簡単に呼吸・心拍を推定する信号処理などを提案しました。この方法を、これまで、人や動物に対して実験を重ね、知見を蓄積しています。これにより、医療・介護はもとより、自動車の自動運転や畜産業などにも IoT を普及させ、効率化を進めるきっかけとなることが目標です。

また、こうしたモニタリングのデータを収集するためのセンサネットワーク技術の研究も、併せて進めています。

研究者からのメッセージ

私は、ワイヤレス通信用信号処理技術の研究に20年にわたって従事してきました。その成果を、ワイヤレス通信と同様に電波を使う生体計測技術に応用することで、斬新なアイデアを提案しています。特徴として(1) 簡単に、(2) 複数の人・動物を同時に計測でき、(3) 心拍・呼吸の瞬時的変化を抽出でき、(4) 心拍・呼吸だけでなく、測定対象の方向も同時に検出できること、などの点があります。

研究キーワード

IoT 非接触生体センサ 農業の IoT



コンピュータアーキテクチャ、並列計算機システム

准教授 **佐々木 敬泰**

(ササキ タカヒロ)

情報科学部 情報科学科



FabHetero/FabScalar技術を用いた
スーパスカラプロセッサのプロトタイプ

研究シーズの内容

コンピュータアーキテクチャを中心として、高性能低消費電力プロセッサ、ヘテロジニアスマルチコアプロセッサ、自動設計、IoT/組み込み用低消費電力プロセッサ、低消費電力信号処理専用ハードウェア等の研究開発を行っています。

特徴としては、理論やシミュレーションだけでなく、実用化を目指したVLSI設計やFPGA設計まで幅広く行っております。また、プロセッサアーキテクチャだけでなく、周辺回路やOS、ライブラリやシステムアプリケーションの研究開発等も行っております。

研究者からのメッセージ

コンピュータアーキテクチャは古くから研究されていますが、計算機に求められる性能は年々増加しており、更なる高性能化が求められています。また、近年は単純な計算速度だけではなく、消費電力、回路規模、開発コスト、発熱、セキュリティなど、様々なものが求められています。それらの要求に応える新しいコンピュータアーキテクチャの研究を行っています。

研究キーワード

低消費電力プロセッサ 並列計算機 計算機アーキテクチャ

人の学習を支援するパートナーロボットの開発

准教授 **ジメネス・フェリクス**

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

近年、病院や教育現場など実生活の中で使用されることを想定したロボットの研究開発が行われています。本研究室では、実生活の場面でロボットが人とインタラクションすることで、ロボットが人に与える効果について検証しています。そして、検証結果を基に、実生活で活躍できるようなロボットを開発しています。特に本研究室では、人の教育を支援する教育支援ロボットに関する研究開発を積極的に行い、研究業績を出しています。現在の主な研究テーマは下記になります。

- ①学習者の気持ちに共感しながら共に学び合う
パートナーロボット
- ②発達障がいグレーゾーン児童から勉強を教わる
パートナーロボット
- ③認知的徒弟制理論に基づき、学習者に勉強を教える
教師型ロボット

研究者からのメッセージ

近年、学習が遅れている児童および自閉症スペクトラム障害児に対する家庭学習における教育支援の重要性が指摘されています。本研究室における教育支援ロボットはこれらのニーズに応えられる可能性を持っていると考えております。

現在、他大学や保育所と連携しながら研究を進めています。地域や企業と積極的に連携しながら研究を進めたいと思っていますので、お気軽にお問い合わせください。

研究キーワード

知能ロボティクス ヒューマンロボットインタラクション





日常生活支援ロボットを用いた食事・服薬管理支援

准教授 **鈴木 拓央**

(スズキ タクオ)

情報科学部 情報科学科



ロボットによる生活支援サービス

①ロボットが冷蔵庫から弁当を持ってきてくれて…
【物体認識技術】



②どのくらい食べたかを記録してくれて…
【体積推定技術】



③食後に薬を飲んだかを確認してくれて…
【人間認識技術】



④食卓などを掃除してくれる。
【軌道生成技術】

研究シーズの内容

【日常生活支援ロボット】

人間の指示に従って掃除したりするために、ジェスチャー認識技術やロボット制御技術を開発しています。

【食事管理支援システム】

摂取カロリーを記録したりするために、食卓や食器、飲食物を認識し、飲食物の体積を推定しています。

【服薬管理支援システム】

ロボットが透明な薬袋を認識・取得し、人間に手渡すための技術を開発しています。また、顔や手の動きに基づいて正しく薬を服用できたかを確認しています。

研究者からのメッセージ

移動ロボットに搭載されたセンサー（RGB-D カメラなど）を用いて人間や物体を認識する技術を開発しています。そして、人間のジェスチャーや物体の形状などに基づいて、人間（特に高齢者）の日常生活を支援することを目指しています。生活支援システムに関する特許を取得するなど、実用化も積極的に行っています。

研究キーワード

知能ロボティクス 知能機械システム 医療福祉工学

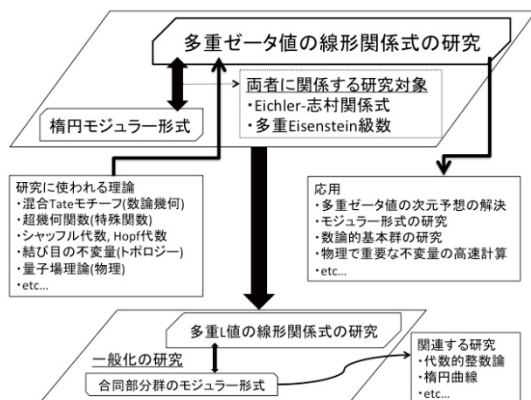


多重ゼータ値とモジュラー形式の研究

准教授 **田坂 浩二**

(タサカ コウジ)

情報科学部 情報科学科



研究シーズの内容

多重ゼータ値は、リーマンゼータ関数を多変数化した多変数関数の特殊値として定義されます。この20年のうちに、結び目理論、数理論やモチーフ理論の発展などに関わりあいながら、大変活発に研究されている研究対象です。この研究の起爆剤ともなった大きな予想 (Zagier 予想) は、現在、肯定的な解決が得られていますが、その後も興味を掻き立てる新たな予想が次々に生み出されています。モジュラー形式も、多重ゼータ値との深い関係が示唆されている対象の一つで、こちらは多重ゼータ値よりもさらに長い100年以上の研究史があり、整数論における有名な問題の解決に一躍担ってきました。様々な数学や物理においても、その研究の重要性が認識されています。私の研究は、多重ゼータ値とモジュラー形式の関係性を探ること、および、その相互応用を考えることといえます。多重ゼータ値の理論は比較的若いといえますが、それを古典的なモジュラー形式の問題に応用し、新たな研究の方向性を切り開くような研究をしています。

研究者からのメッセージ

これまでのところ、私が研究において大切にしてきたことは、「人との交流」ということに尽きます。一人で完成させる研究も好きですが、研究交流は時に問題解決の糸口に繋がりますし、思いがけない発見に発展することがあります。また、この思いがけない発見を一喜一憂してくれる仲間がいることは、研究の励みにもなったりします。自分の分野を大切に育みながらも、他分野との関わりあいを持続けて、新たな研究の芽を見出せるような研究者を目指しています。

研究キーワード

数学 代数学 モジュラー形式 多重ゼータ値 整数論

教授 小 栗 宏 次

(オグリ コウジ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 知的情報処理技術に関する研究 2. 生体信号処理技術に関する研究 3. 状態推定技術に関する研究 4. ITS（運転支援・予防安全）技術に関する研究 5. 高度情報社会の分析・評価

教授 永 井 昌 寛

(ナガイ マサヒロ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 地域保健・医療・福祉包括ケアシステムの構築に関する研究 2. 情報教育およびeラーニングシステムに関する研究 3. 集合知を利用した保健医療福祉支援システムの設計に関する研究

教授 山 村 毅

(ヤマムラ ツヨシ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

自然言語をパターン認識の視点から統計的に処理することを中心に、
1. 可読性向上手法の開発、2. タイトル推定、3. 意見情報抽出、4. 文章の誤り訂正手法の開発、などの研究を行っている。

教授 山 本 晋 一 郎

(ヤマモト シンイチロウ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 細粒度のソフトウェア解析技術 2. 高機能・高信頼性ソフトウェアの開発支援環境 3. 柔軟に自律進化可能な Web サイトの構築手法

准教授 伊 藤 正 英

(イトウ マサヒデ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. ロボット単体あるいはロボット群の視覚フィードバック制御 2. 動的単眼カメラシステムにおける奥行き推定 3. ロボットの劣駆動性あるいは冗長性を活用したフェイルセーフ制御

准教授 入 部 百 合 絵

(イリベ ユリエ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 音声ー調音特徴変換に基づく調音動作可視化の研究 2. 音声情報処理を応用した発話訓練に関する研究 3. 音響・言語情報を用いた軽度認知症傾向の判別

准教授 金 森 康 和

(カナモリ ヤスカズ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 名古屋弁の特徴解析に関する研究 2. 音声情報と感性情報の統合利用に関する研究 3. 外国語学習における音声処理技術の利用に関する研究

准教授 **河 中 治 樹**

(カワナカ ハルキ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. 道路路面標示の維持管理の効率化 2. 動画像からの排尿量計測 3. 脈波 - 血圧変動の関係性のモデル化 4. ドライバモニタリングによる予防安全技術 5. 高齢ドライバの運転能力測定

准教授 **田 学 軍**

(デン ガクゲン)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

(1) LAN、広域ネットワークにおけるスループットの向上、モバイル通信の経路制御などに関する研究 (2) 走行中自動車はポジティブ型通信により、追い越しなどの意図を事前に複数の関連自動車に伝達して合意の上で協調走行に関する研究

准教授 **平 尾 将 剛**

(ヒラオ マサタケ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. Cubature 公式の構成問題とその実験計画法への応用 2. グラフ上の確率論とそれを用いたグラフ構造データの解析 3. 組合せデザインの構成問題とその計算機を用いた探索

講師 **大 久 保 弘 崇**

(オオクボ ヒロタカ)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

1. オブジェクト指向言語の型理論 2. 代数的仕様記述法のソフトウェア検証への応用

講師 **粕 谷 英 人**

(カスヤ ヒデト)

情報科学部 情報科学科

現在の研究課題

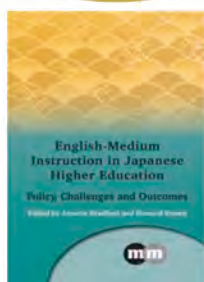
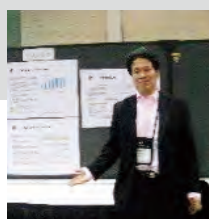
1. 書換え型計算モデルにおける完備化の研究 2. 高階書換え系の計算戦略に関する研究

大学国際化の研究

准教授 桑 村 昭

(クワムラ アキラ)

国際戦略室



研究シーズの内容

国際高等教育と言語教育・教授言語の役割について研究しています。近年、欧州や東アジアの非英語圏大学で、英語による専門科目の授業（English-Medium Instruction: EMI）が大学国際化の一環として急速に拡大する一方で、母語以外の追加言語による高等教育に対する懸念の声もあります。私は研究者・実践者としてこの両刃の剣的な EMI を中心的に担う英語非母語話者教員を含む現場教員の状況を踏まえながら、効果的な教育実践に必要な要素を明らかにして、教員・学生双方にとり意味のある EMI 実践の在り方を提案することを目指しています。

[最近の論文等]

・“The Future of English-Medium Instruction in Japan” Bradford & Brown 編 English-medium instruction in Japanese Higher Education, 265-282. Multilingual Matters. 2018.・ English-Medium Instruction and the Expanding Role of Language Educators. Clements et al 編 Diversity and inclusion, 16-23. JALT. 2019.・ 国際高等教育における日英語表現の比較考察・愛知県立大学通訳翻訳研究所ことばの世界第 12 号, 71-83. 2020.

研究者からのメッセージ

一昔前は「国際人」、近年は「グローバル人材」の必要性がこれまで叫ばれてきましたが、残念ながら、日本の高等教育は内外から未だ鎖国状態にあると、コロナ禍で益々揶揄されています。今後、その門戸を如何に開き、多様性を受け入れて、キャンパスの国際化を進めながら、世界と同じ土俵に立てる「地球市民」を育てていけるかが日本の高等教育の鍵でしょう。この視点から、学術と実践の両面で言語文化を跨る事象を捉えて国内外へ発信するよう努めています。

研究キーワード

国際化、国際高等教育、言語教育（英語・日本語）、EMI

愛知県公立大学法人
愛知県立大学
地域連携センター

〒480-1198 愛知県長久手市茨ケ廻間1522-3

電話 0561-76-8843(ダイヤルイン)

FAX 0561-64-1104

メール renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>

本シーズ集掲載の教員の所属・職名等の情報は2023年9月現在のものです。

2023年9月発行





Aichi Prefectural University

愛知県公立大学法人
愛知県立大学
地域連携センター